ONKYO®

AVセンター

TX-SA608

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、
正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書、
オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内とともに大切
に保管してください。

特長

アンプ

- 各種サラウンド方式に対応した7チャンネルアンプ
- 再生周波数の広帯域化を図るWRAT（Wide Range Amplifier Technology）搭載
- 信号とノイズ領域との近接を回避して、聴感上のS/Nを向上させるオプティマム・ゲイン・ボリューム回路

処理

- THX Select2 Plus*1規格に準拠
- ファロージャ DCDiエッジエンハンサー機能搭載
- ビデオコンバーター搭載〔ビデオ（コンポジット）/D4/コンポーネント信号をHDMI出力端子に出力〕
- HDMI（Ver.1.4 Audio Return Channel、3D機能に対応）、DeepColor、x.v.Color*、Lip Sync、DTS*2-HD Master Audio、DTS-HDハイレゾリューションオーディオ、Dolby TrueHD*3、ドルビーデジタルプラス、DSD、マルチチャンネルPCM
- ドルビー Pro Logic IIz*3（フロントハイスピーカー対応）リスニングモード搭載
- Audyssey DSX™*4（フロントハイスピーカーおよびフロントワイドスピーカー対応）リスニングモード搭載
- ダウンミックスによる、フロントL/Rチャンネルのダイナミックレンジの減少や、S/N劣化を防ぐ技術「ノン・スケーリング・コンフィグレーション」回路
- もともとの音源のまま、ピュアな音を楽しむ「Direct」リスニングモードと、ノイズを最小限におさえ、本来の音を楽しむことのできる「Pure Audio」リスニングモード搭載
- 圧縮された音楽ファイルを、より良い音で楽しむMusic Optimizer™*5機能搭載
- 24bit/192kHz D/Aコンバーター搭載
- 極めて高い演算能力を持つ、32bitDSP（Digital Signal Processor）搭載
- LFEchを持たないソースでも、サブウーファーを効果的に動作させるダブルバス機能搭載
- 小音量でもサラウンドを楽しめる、レイトナイト機能搭載（ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビー TrueHD時のみ）

接続

- フロントハイスピーカー接続端子、およびフロントワイドスピーカー接続端子装備
- サブウーファー用PRE OUT端子2系統装備
- デジタル映像/音声信号を、1本のケーブルで伝送可能なHDMI*6入力6系統（フロント1系統）、出力1系統装備
- D4/コンポーネント映像入力端子各2系統、出力端子各1系統装備
- システムを制御するオンキヨー RIHD（Remote Interactive over HDMI）搭載
- デジタル音声入力端子として、光2系統/同軸2系統装備
- ポータブルオーディオプレーヤーなどから入力できる、フロントLINE IN端子装備
- オンキヨー製iPodドックUP-A1から入力できるUNIVERSAL PORT端子装備
- 精度の高い高音域、低音域を実現するバイアンプ接続が可能
- パソコンとの接続にD-sub15pin入力端子装備

その他

- 付属の測定用マイクで自動スピーカー（Audyssey 2EQ® *4）設定
- 小音量でもサラウンドを楽しめる、Audyssey Dynamic EQ ®*4機能搭載
- 音量の大小を即時に調整する、Audyssey Dynamic Volume™*4機能搭載
- 2つまたは3つのスピーカーでも、バーチャル5.1サラウンドが楽しめるT-D（Theater-Dimensional*7）モード搭載
- AAC*8デコーダー搭載
- 高音域が強調された劇場用サウンドを、ご家庭で適切なバランスに補正するRe- EQ *9機能搭載
- 飛躍的な音質向上、デジタル信号からピュアなアナログ信号を生成する、VLSC*10（Vector Linear Shaping Circuitry）をフロント2チャンネルに搭載
- 音声と映像のズレを補正する、AVシンクコントロール機能搭載
- モニターを見ながら、簡単設定ができるOSD（On Screen Display）機能搭載
- 他機の操作を可能にする、プリプログラム機能（OSD機能によるコード検索が可能）搭載のリモコン付属

*1 THX SELECT2 PLUS

THXおよびSelect2は、THX社の商標または登録商標です。Surround EXはドルビーラボラトリーズの登録商標です。

*2 dts-HD Master Audio

米国特許：5,451,942; 5,956,674; 5,974,380; 5,978,762; 6,226,616; 6,487,535; 7,212,872; 7,333,929; 7,392,195; 7,272,567およびその他の国における特許（出願中含む）に基づき製造されています。
DTSはDTS社の登録商標です。また、DTSロゴ、記号、およびDTS-HD Master AudioはDTS社の商標です。

*3 DOLBY TRUEHD PRO LOGIC IIz

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
"Dolby"、"ドルビー"、"Pro Logic"、"Surround EX"、"TrueHD"およびダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

*4 AUDYSSEY 2EQ DYNAMIC VOLUME　DSX AUDYSSEY

Audyssey Laboratories™からの実施権に基づき製造されています。Audyssey 2EQ®、
Audyssey DSX™、
Audyssey Dynamic Volume™、
Audyssey Dynamic EQ®は、
Audyssey Laboratories, Inc.の商標です。

*5 Music Optimizer™は、オンキヨー株式会社の商標です。

*6 HDMI HIGH-DEFINITION MULTIMEDIA INTERFACE

HDMI、HDMIロゴおよびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。

*7 Theater-Dimensional

Theater-Dimensionalは、オンキヨー株式会社の商標です。

*8 AACロゴは、ドルビーラボラトリーズの商標です。

*9 Re-Equalization、Re-EQロゴはTHX社の商標です。

*10 VLSC

VLSCは、オンキヨー株式会社の登録商標です。

THX Select2 Plus

THX Select2 Plusの認証を取得したホーム・シアター・コンポーネントは、いずれも一連の厳しい品質/性能試験に合格しています。
このような製品にのみ付与されているTHX Select2 Plusのロゴは、ご購入いただいたホーム・シアター製品が、長期間にわたって卓越した性能を発揮することを保証するものです。THX Select2 Plusの要件には、パワーアンプ性能、プリアンプ性能、デジタル/アナログ空間での動作などをはじめとする、何百ものパラメータが定義されています。またTHX Select2 Plusレシーバーは、劇場用映画のサウンドトラックを正確にホーム・シアターで再現するための特許技術である、THX技術（THXモード）を備えています。

* iPodは、米国およびその他の国々で登録されたApple Inc.の登録商標です。
* x.v.Colorは、ソニー株式会社の商標です。

目次

はじめに

接続をする

電源のオン・オフと基本操作をする

応用設定をする

iPodや他の製品を操作する

その他

修理を依頼する前に
本機をリセットしてすべての設定をお買い上げ時の状態に戻すことでトラブルが解消されることがあります。
電源を入れた状態で本体の**VCR/DVR**（ビデオ/DVDレコーダー）ボタンを押したまま、**ON/STANDBY**（オン/スタンバイ）ボタンを押してリセットしてください（➔ 66）。

安全上のご注意

安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

電気製品は、誤った使いかたをすると大変危険です。
あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、「安全上のご注意」を必ずお守りください。

「警告」と「注意」の見かた

間違った使いかたをしたときに生じることが想定される危険度や損害の程度によって、「警告」と「注意」に区分して説明しています。

誤った使いかたをすると、火災・感電などにより死亡、または重傷を負う可能性が想定される内容です。

誤った使いかたをすると、けがをしたり周辺の家財に損害を与える可能性が想定される内容です。

絵表示の見かた

△ 記号は「ご注意ください」という内容を表しています。

高温注意

感電注意

⃠ 記号は「～してはいけない」という禁止の内容を表しています。

分解禁止

ぬれ手禁止

● 記号は「必ずしてください」という強制内容を表しています。

電源プラグをコンセントから抜く

必ずする

警告

故障したまま使用しない、異常が起きたらすぐに電源プラグを抜く

電源プラグをコンセントから抜く

- 煙が出ている、変なにおいや音がする
- 本機を落としてしまった
- 本機内部に水や金属が入ってしまった

このような異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに電源プラグをコンセントから抜いて販売店に修理・点検を依頼してください。

カバーははずさない、分解、改造しない

分解禁止

火災・感電の原因となります。
内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。

接続、設置に関するご注意

■通風孔をふさがない、放熱を妨げない

禁止

本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災ややけどの原因となることがあります。

- 押し入れや本箱など通気性の悪い狭い所に設置して使用しない
  （本機の天面、横から20cm以上、背面から10cm以上のスペースをあける）
- 逆さまや横倒しにして使用しない
- 布やテーブルクロスをかけない
- じゅうたんやふとんの上に置いて使用しない

■水蒸気や水のかかる所に置かない、本機の上に液体の入った容器を置かない

水場での使用禁止

水濡れ禁止

本機に水滴や液体が入った場合、火災・感電の原因となります。

- 風呂場など湿度の高い場所では使用しない
- 調理台や加湿器のそばには置かない
- 雨や雪などがかかるところで使用しない
- 本機の上に花びん、コップ、化粧品、ろうそくなどを置かない

電源コード・電源プラグに関するご注意

■電源コードを傷つけない

禁止

- 電源コードの上に重い物をのせたり、電源コードが本機の下敷にならないようにする
- 傷つけたり、加工したりしない
- 無理にねじったり、引っ張ったりしない
- 熱器具などに近づけない、加熱しない

電源コードが傷んだら（芯線の露出・断線など）販売店に交換をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

■電源プラグは定期的に掃除する

必ずする

電源プラグにほこりなどがたまっていると、火災の原因となります。電源プラグを抜いて、乾いた布でほこりを取り除いてください。

警告

使用上のご注意

■本機内部に金属、燃えやすいものなど異物を入れない

禁止

火災・感電の原因となります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。
• 本機の通風孔から異物を入れない
• 本機の上に通風孔に入りそうな小さな金属物を置かない

■長時間音がひずんだ状態で使わない

禁止

アンプ、スピーカーなどが発熱し、火災の原因となることがあります。

■雷が鳴りだしたら本機、接続機器、接続コード、電源プラグに触れない

接触禁止

感電の原因となります。

■長時間大きな音で使用しない

禁止

本機をご使用になる時は、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大音量で長期間続けて使用すると、聴力が大きく損なわれる恐れがあります。

電池に関するご注意

■乾電池を充電しない、加熱・分解しない、火や水の中に入れない

禁止

電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
• 指定以外の電池は使用しない
• 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない
• 電池を使い切ったときや長時間リモコンを使用しないときは電池を取り出す
• コインやネックレスなどの金属物と一緒に保管しない
• 極性表示（プラス⊕とマイナス⊖の向き）に注意し、表示通りに入れる

■電池から漏れ出た液にはさわらない

接触禁止

万一、液が目や口に入ったり皮膚に付いた場合は、すぐにきれいな水で充分洗い流し、医師にご相談ください。

注意

接続、設置に関するご注意

■不安定な場所や振動する場所には設置しない

禁止

強度の足りないぐらついた台や振動する場所に置かないでください。
本機が落下したり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

■本機の上に10kg以上の重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かない

禁止

バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。また、本機に乗ったりしないでください。

■配線コードに気をつける

注意

配線された位置によっては、つまずいたり引っかかったりして、落下や転倒など事故の原因となることがあります。

電源コード・電源プラグに関するご注意

■表示された電源電圧（交流100ボルト）で使用する

必ずする

本機を使用できるのは日本国内のみです。
表示された電源電圧以外で使用すると、火災・感電の原因となります。

■電源コードを束ねた状態で使用しない

禁止

発熱し、火災の原因となることがあります。

■電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない

禁止

コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。
プラグを持って抜いてください。

⚠注意

■ 長期間使用しないときは電源プラグをコンセントから抜く

電源プラグをコンセントから抜く

絶縁劣化やろう電などにより、火災の原因となることがあります。

■ 電源プラグは、コンセントに根元まで確実に差し込む

禁止

差し込みが不完全のまま使用すると、感電、発熱による火災の原因となります。
プラグが簡単に抜けてしまうようなコンセントは使用しないでください。

■ ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

ぬれ手禁止

感電の原因になることがあります。

■ お手入れの際は電源プラグを抜く

電源プラグをコンセントから抜く

お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。

使用上のご注意

■ 通風孔の温度上昇に注意

高温注意

本機の通風孔付近は放熱のため高温になることがあります。
電源が入っているときや、電源を切った後しばらくは通風孔付近にご注意ください。

■ 音量を上げすぎない

禁止

- 突然大きな音が出てスピーカーやヘッドホンを破損したり、聴力障害などの原因となることがあります。
- 始めから音量を上げ過ぎると、突然大きな音が出て耳を傷めることがあります。音量は少しずつ上げてご使用ください。

移動時のご注意

■ 移動時は電源プラグや接続コードをはずす

電源プラグをコンセントから抜く

コードが傷つき火災や感電の原因になります。

■ 本機の上にものを乗せたまま移動しない

禁止

本機の上に他の機器を乗せたまま移動しないでください。
落下や転倒してけがの原因となります。

■ 機器内部の点検について

お客様のご使用状況によって、定期的に機器内部の掃除をおすすめします。
本機の内部にほこりがたまったまま使用していると火災や故障の原因となることがあります。
特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。内部清掃については、販売店にご相談ください。

■ 本機のお手入れについて

- 表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと乾いた布で拭いてください。化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどに従ってください。
- シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装が落ちたり変形することがあります。

付属品

ご使用の前に、次の付属品がそろっていることをお確かめください。
（　）内の数字は数量を表しています。

リモコン（RC-767M）…（1）
スピーカーコード用ラベル…（1）（➔ 14）
電源コード…（1）（➔ 23）
測定用マイク…（1）（➔ 28）
乾電池（単3形、R6）…（2）
取扱説明書（本書）…（1）
簡単スタートガイド…（1）
保証書…（1）
オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内…（1）
ユーザー登録カード…（1）

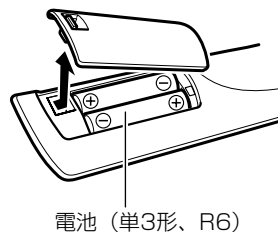
カタログおよび包装箱などに表示されている、型名の最後にあるアルファベットは、製品の色を表す記号です。色は異なっても操作方法は同じです。

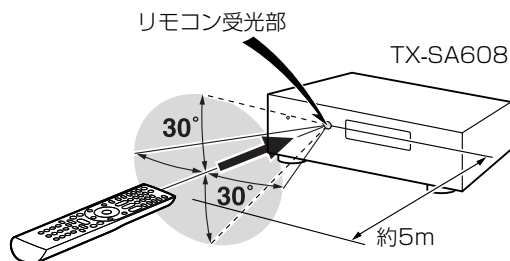
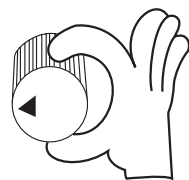
リモコンを使う

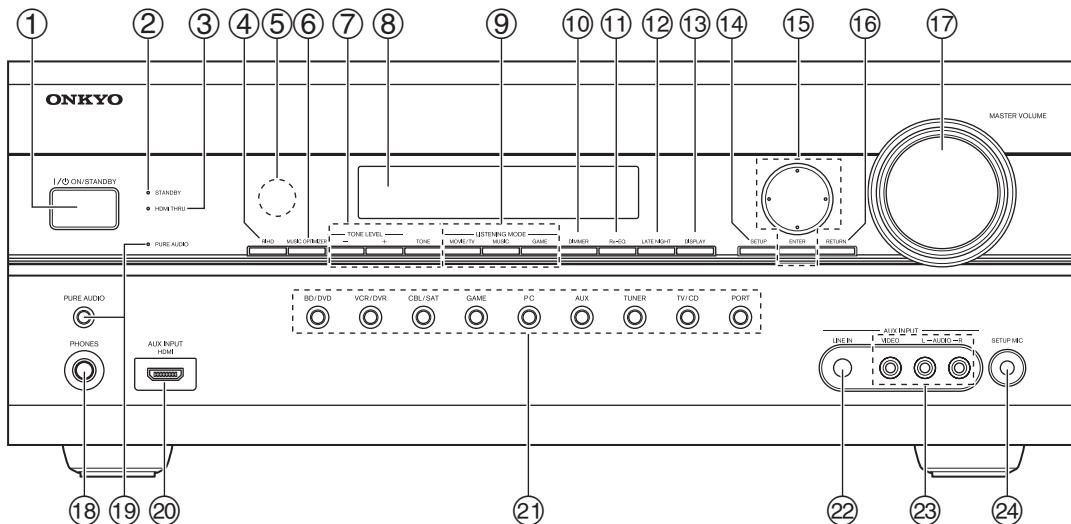
乾電池を入れる

ご注意

電池（単3形、R6）

- 種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混用しないでください。
- 長期間リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために、電池を取り出しておいてください。
- 消耗した電池を入れたままにしておきますと、腐食によりリモコンをいためることがあります。リモコン操作の反応が悪くなったときは、古い電池を取り出して、2本とも新しい電池と交換してください。
- 電池の交換時には、単３形をご使用ください。

リモコンの使いかた

リモコンを本機のリモコン受光部に向けて使用してください。

音のエチケット
楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣り近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

前面パネルと後面パネル

前面パネル

製品の前面パネルには、さまざまなロゴが印字されています。わかりやすくするため、ここではロゴを記載していません。
詳細については、（　）内のページをご覧ください。

① **ON/STANDBYボタン**（➔ 24）
電源のオン/スタンバイを切り換えます。

② **STANDBYインジケーター**（➔ 24）
スタンバイ状態のときや、リモコンからの信号を受信すると点灯します。

③ **HDMI THRUインジケーター**（➔ 51）
HDMIスルー機能が有効になっているときに点灯します。

④ **RIHDボタン**（➔ 73）
本機とHDMI接続したCEC（Consumer Electronics Control）対応機器や、RIHD対応機器との連動をオン/オフします。

⑤ **リモコン受光部**（➔ 8）
リモコンからの信号を受信します。

⑥ **MUSIC OPTIMIZERボタン**（➔ 53）
ミュージックオプティマイザー機能をオン/オフします。

⑦ **TONE LEVELボタン、TONEボタン**（➔ 54）
高音、低音を調整するときに使用します。

⑧ **表示部**（➔ 10）
次ページをご覧ください。

⑨ **LISTENING MODEボタン**（➔ 31）
リスニングモードを選びます。

⑩ **DIMMERボタン**（➔ 25）
表示部の明るさを切り換えます。

⑪ **Re- EQ ボタン**（➔ 53）
Re-EQ機能をオン/オフします。

⑫ **LATE NIGHTボタン**（➔ 53）
レイトナイト機能をオン/オフします。

⑬ **DISPLAYボタン**（➔ 25）
表示部の情報を切り換えます。

⑭ **SETUPボタン**（➔ 37）
本機の設定を行います。

⑮ **カーソル▲/▼/◄/►/ENTERボタン**
設定項目を選択します。**ENTER**ボタンを押すと、選択している項目を確定します。

⑯ **RETURNボタン**
設定中に１つ前の表示に戻します。

⑰ **MASTER VOLUMEつまみ**（➔ 25）
音量を調整します。
音量を最小·0·1…99·最大の範囲で表示します。
相対値（THX）として音量表示するには、「ボリューム設定」（➔ **50**）をご覧ください。
－∞dB・－81dB·······＋18dBの範囲で調整できます。

⑱ **PHONES端子**（➔ 27）
標準プラグのステレオヘッドホンを接続する端子です。

⑲ **PURE AUDIOボタン、PURE AUDIOインジケーター**（➔ 31）
リスニングモードをPure Audioにします。
リスニングモードがPure Audioのとき、インジケーターが点灯します。

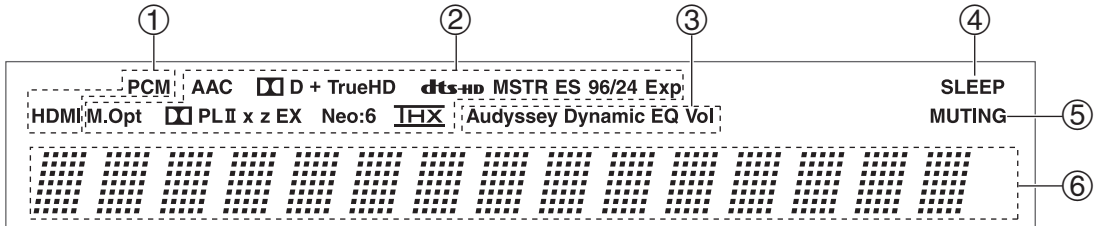
⑳ **AUX INPUT HDMI端子**（➔ 19）
HDビデオカメラなどを接続します。

㉑ **入力切換ボタン（➔ 25）**

㉒ **AUX INPUT LINE IN端子（➔ 20）**
ポータブルオーディオプレーヤーなどを接続します。

㉓ **AUX INPUT VIDEO/AUDIO端子（➔ 20）**
ビデオカメラなどを接続します。

㉔ **SETUP MIC端子（➔ 28）**
付属の測定用マイクを接続して、スピーカーの数や位置を検知します。

表示部

詳細については、（　）内のページをご覧ください。

① **入力音声表示**
入力または選択されている音声の種類を表示します。

② **リスニングモード、デジタル音声入力信号フォーマット表示（➔ 31、53）**
入力されているデジタル信号の種類、およびリスニングモードを表示します。

③ **Audyssey/Dynamic EQ / Vol 表示（➔ 27、45）**

Audyssey表示
自動スピーカー測定中に点滅します。また、スピーカーの「**イコライザ**」設定を「**Audyssey**」に設定しているときや（➔ **42**）、Audyssey DSX™リスニングモードのときにも点灯します。

Dynamic EQ表示
Dynamic EQが「**オン**」に設定されていると、点灯します（➔ **45**）。

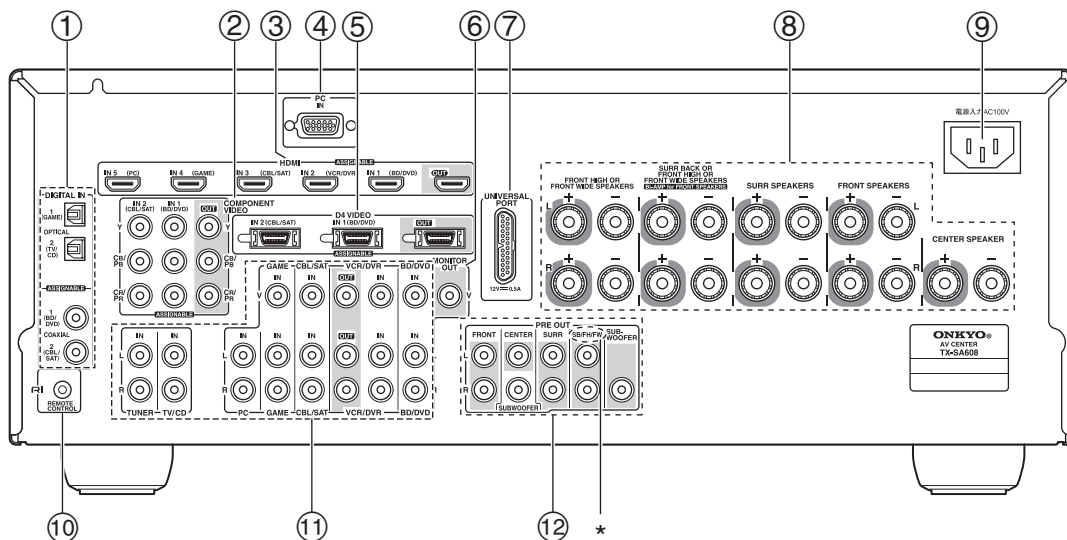
Vol表示
Dynamic Volumeが有効に設定されていると、点灯します。

④ **SLEEP表示（➔ 26）**
スリープタイマーが設定されているときに、点灯します。

⑤ **MUTING表示（➔ 25）**
ミューティングが働いているときに点灯、または点滅します。

⑥ **多目的表示部**

入力と音量を表示します。**DISPLAY**ボタンを押すと、入力されている信号のフォーマットや、リスニングモードを表示します。

後面パネル

① **DIGITAL IN COAXIAL/OPTICAL端子**
デジタル再生機器と音声接続する入力端子です。各端子は接続機器に合わせて、入力切換ボタンに割り当てることができます。

② **COMPONENT VIDEO IN/OUT端子**
コンポーネント映像を入出力する端子です。各入力端子は接続機器に合わせて、入力切換ボタンに割り当てることができます。

③ **HDMI IN/OUT端子**
デジタル映像信号とデジタル音声信号を入出力する端子です。各入力端子は接続機器に合わせて、入力切換ボタンに割り当てることができます。

④ **PC IN端子**
パソコンと接続してRGB信号を入力する端子です。

⑤ **D4 VIDEO IN/OUT端子**
D映像を入出力する端子です。各入力端子は接続機器に合わせて、入力切換ボタンに割り当てることができます。

⑥ **MONITOR OUT V端子**
接続しているモニターやテレビに、ビデオ映像を出力する端子です。

⑦ **UNIVERSAL PORT端子**
オンキヨー製iPodドックUP-A1と接続します。

⑧ **スピーカー端子**
スピーカーを接続します。

⑨ **電源入力AC100V端子**
付属の電源コードを接続します。

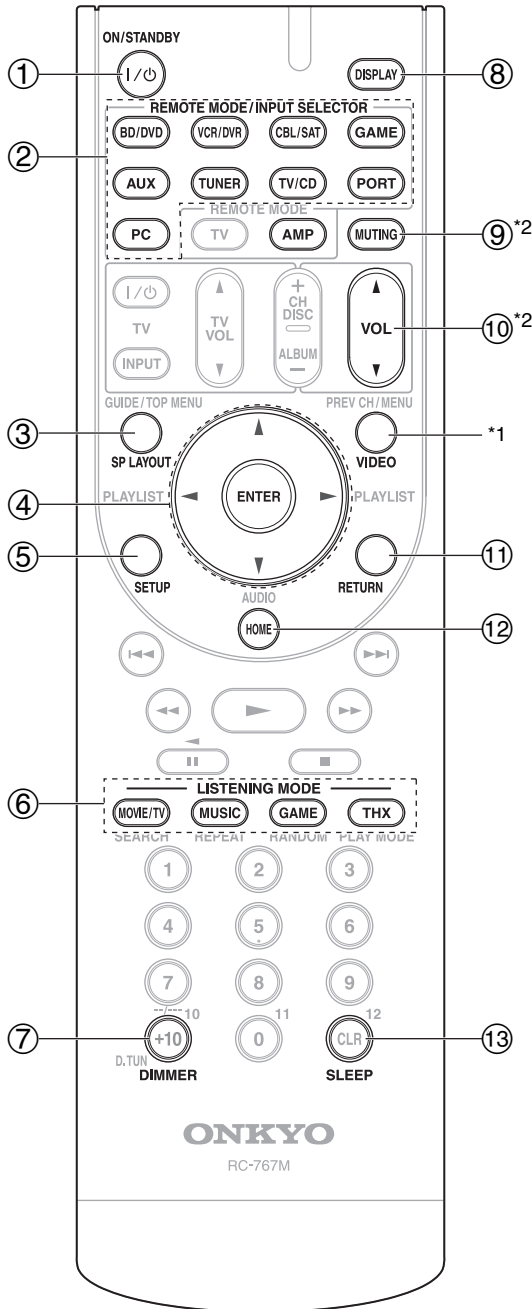
⑩ **RI REMOTE CONTROL端子**
RI端子付きオンキヨー製品と接続し、連動させる端子です。
RIケーブルの接続だけでは連動しません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

⑪ **コンポジットビデオ/アナログオーディオ端子**
アナログ映像信号とアナログ音声信号を入力する端子です。

⑫ **PRE OUT端子**
本機をプリアンプとして使用する場合、パワーアンプやアンプ内蔵サブウーファーなどと接続します。

2つの**SUBWOOFER PRE OUT**端子からは同じ信号が出力されます。

* **SB/FH/FW**とは、サラウンドバック/フロントハイ/フロントワイドの略称です。

接続については「接続をする」をご覧ください（➔ 14～22）。

リモコン

本機を操作する

*1 ホームメニューを立ち上げるショートカットボタンとして働きます。
*2 ⑨ ⑩は、AMPモード以外の**REMOTE MODE**ボタンを選択しているときも使用できます（TVモード時は除く）。

AMPモード

本機を操作するときは、はじめにAMPボタンを押して、AMPモードにしてください。
また、リモコンでお手持ちのブルーレイディスク/DVDプレーヤーやCDプレーヤーなどの、AV機器も操作することができます。詳しくは「本機のリモコンで他の製品を操作する」をご覧ください（➔ 59）。
（　）内のページに主な説明があります。
詳しくはそちらをご覧ください。

① **ON/STANDBY**ボタン（➔ 24）
本機の電源を入れたり、スタンバイ状態にします。

② **REMOTE MODE/INPUT SELECTOR**ボタン（➔ 25）
モードを切り換えて、再生する機器を選びます。

③ **SP LAYOUT**ボタン（➔ 26）
フロントハイスピーカー、フロントワイドスピーカーまたは、サラウンドバックスピーカーの選択を切り換えます。

④ **▲/▼/◄/►/ENTER**ボタン
設定中に、▲/▼/◄/►（上下左右）ボタンを押して項目を選択します。中央の**ENTER**ボタンを押すと、選択した項目を確定します。

⑤ **SETUP**ボタン（➔ 37）
表示部に設定画面を表示させます。

⑥ **LISTENING MODE**ボタン（➔ 31）
リスニングモードを切り換えます。

⑦ **DIMMER**ボタン（➔ 25）
表示部の明るさを切り換えます。

⑧ **DISPLAY**ボタン（➔ 25）
表示部の表示内容を切り換えます。

⑨ **MUTING**ボタン（➔ 25）
音を一時的に小さくします。

⑩ **VOL ▲/▼**ボタン（➔ 25）
音量を調節します。

⑪ **RETURN**ボタン
設定中に、表示を1つ前に戻します。

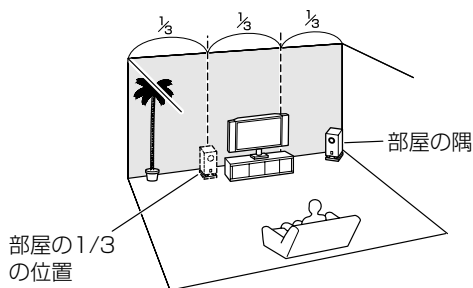
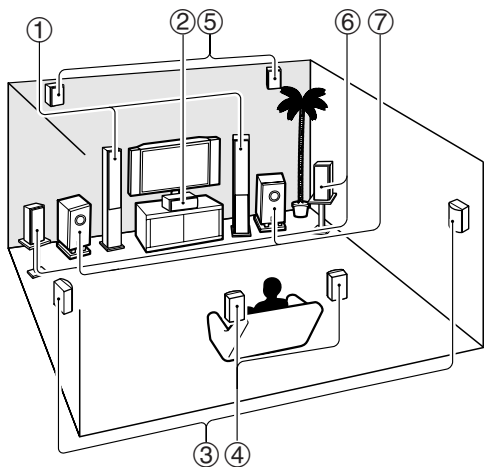
⑫ **HOME**ボタン（➔ 26）
ホームメニューを表示させます。

⑬ **SLEEP**ボタン（➔ 26）
スリープタイマーを設定します。

ホームシアターについて

ホームシアターを楽しもう

本機は優れた機能を使って、音の立体感、移動感を実現し、ご家庭で簡単に劇場やコンサートホールさながらの、臨場感あふれる音響効果をお楽しみいただけます。ブルーレイディスク/DVDプレーヤーでは、DTS、ドルビーデジタル再生を、アナログまたはデジタル放送対応テレビでは、Dolby Pro Logic IIx、DTS Neo:6およびオンキヨー独自のDSPリスニングモードをお楽しみいただけます。

また、THX Surround EX再生（THX認証を受けたスピーカーシステムのご使用をおすすめします）もお楽しみいただけます。

ヒント

- 再生される低音の質や量は、置き場所や部屋の形状、視聴位置によって変わります。一般的に部屋の隅、または1/3の場所に置いたときに良い結果が得られますが、色々な場所に置いて質の良い低音が入った音楽を再生し、もっともしっかりした低音が再生できる場所に設置してください。

① **フロントスピーカー**
総合的に音声を出力します。ホームシアターの柱となり、音場をしっかりと整える役割を果たします。視聴位置の前方に配置します。音楽や映画を鑑賞する位置と姿勢で、視聴者の耳に向くように配置してください。左右対称が理想です。

② **センタースピーカー**
フロントスピーカーの音響効果や音の動きを明確にして、より豊かなサウンドイメージを作ります。映画ではとくにセリフが出力されます。できるだけ画面の近くで、視聴者の耳に向くように配置します。フロントスピーカーとなるべく同じ高さになるように配置してください。

③ **サラウンドスピーカー**
臨場感を高める役割を果たします。効果音などで、音の立体的な動きを表現します。視聴位置の横または後斜めに配置します。左右対称で視聴者の耳より60～100cm高い位置が理想です。

④ **サラウンドバックスピーカー**
ドルビーデジタルEX、DTS-ES Matrix、DTS-ES Discrete、THX Surround EX再生に必要なスピーカーです。サラウンドチャンネルの空間表現力を高め、移動音効果や後方の音場を一層リアルに表現します。視聴者の耳より60～100cm高い位置にスピーカーを配置するのが理想です。

⑤ **フロントハイスピーカー**
ドルビーPro Logic IIz Height、Audyssey DSX™再生に必要です。空間表現力を高める役割を果たします。フロントスピーカーよりやや広い角度になるように配置します。フロントスピーカーより、最低100cm以上高い位置（できるだけ高い位置）に設置し、フロントスピーカーよりも若干外向きの角度を付けます。

⑥ **フロントワイドスピーカー**
Audyssey DSX再生に必要です。空間表現力を高める役割を果たします。フロントスピーカーからじゅうぶんに間隔をあけて、外側に配置します。Audyssey DSXに最適なスピーカー配置をするためには、
http://www.audyssey.com/technology/dsx.htmlを参考にしてください（英語サイト）。

⑦ **サブウーファー**
サブウーファーは、LFE（低音効果）チャンネルの低音域の再生に必要です。サブウーファーから出力される、低音の音量と音質は、設置位置、視聴室の形状、視聴場所によって決まります。一般的には、部屋の隅、または部屋の1/3の位置に設置すると、良質な低音が得られます。

接続をする

スピーカーを接続する

スピーカーの配置

以下の表は、使用できるチャンネル数を示しています。チャンネル数はスピーカーの数によって異なります。
7.1チャンネルのサラウンド再生を行う場合は、スピーカー 7台とパワーアンプ内蔵サブウーファー 1台が必要です。

チャンネル数	2	3	4	5	6	7	7	7	8	8	9	9	9
フロントスピーカー	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔
センタースピーカー		✔		✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔
サラウンドスピーカー			✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔
サラウンドバック スピーカー（1台）*1*2					✔				✔	✔			
サラウンドバック スピーカー（2台）*2						✔					✔	✔	
フロントハイ スピーカー *2							✔		✔		✔		✔
フロントワイド スピーカー *2								✔		✔		✔	✔

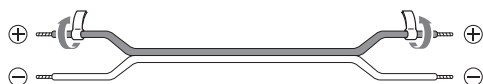
*1 サラウンドバックスピーカーを1台だけ使用する場合は、**SURR BACK OR FRONT HIGH OR FRONT WIDE L**端子に接続してください。
*2 サラウンドバックスピーカー、フロントハイスピーカー、フロントワイドスピーカーをすべて同時に使うことはできません。

サブウーファーをお持ちの場合、スピーカーの数に関係なく、重低音効果を発揮するために使用します（○.1チャンネル再生）。
最適なサラウンド再生をお楽しみいただくには、付属の測定用マイクを使って自動スピーカー設定を行ってください（➔ 28）。

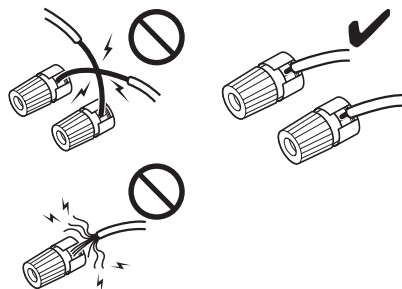
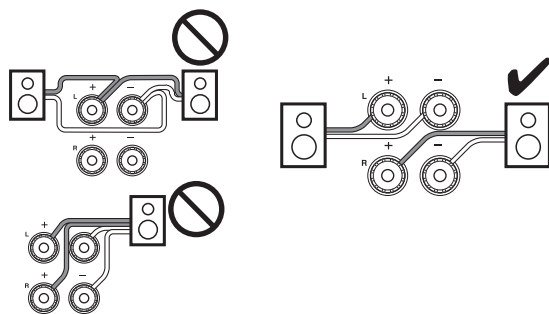
スピーカーコード用ラベルを取り付ける

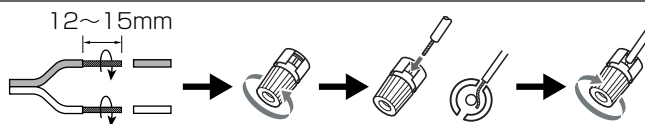
スピーカー端子のプラス（+）端子はすべて赤色です（マイナス（－）端子はすべて黒色です）。

スピーカー	色
左フロント、左フロントハイ、左フロントワイド	白
右フロント、右フロントハイ、右フロントワイド	赤
センター	緑
左サラウンド	青
右サラウンド	グレー
左サラウンドバック	茶
右サラウンドバック	ベージュ

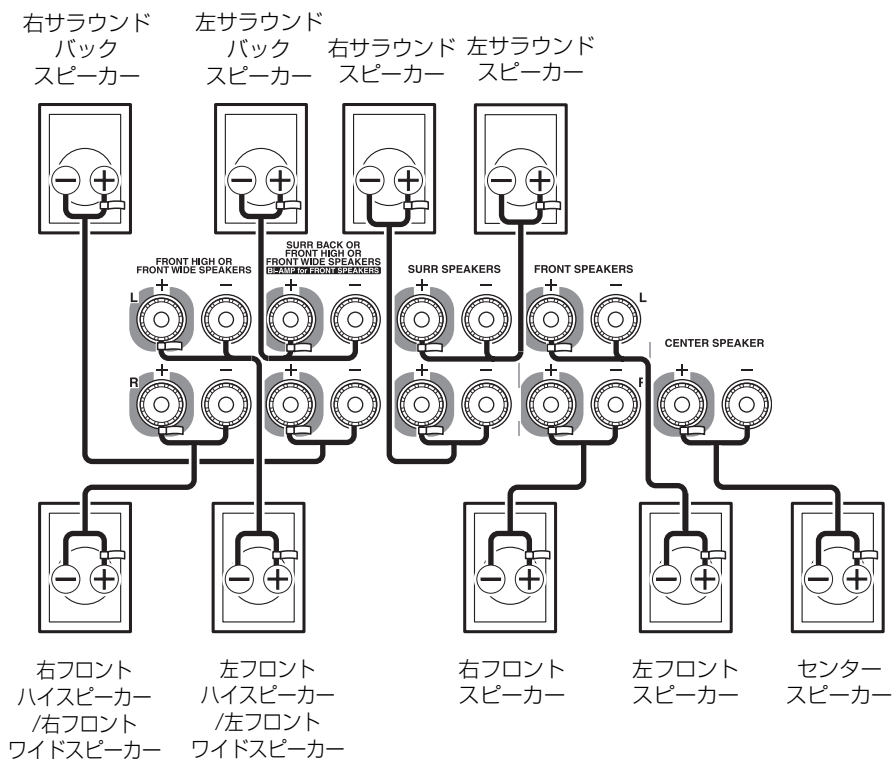
付属のスピーカーコード用ラベルも色分けされています。上記の表を参照して、各スピーカーコードのプラス（+）側に取り付けてください。ラベルと同じ色のスピーカー端子にケーブルを接続するだけで、スピーカー接続を行うことができます。

スピーカー接続時の注意事項

以下の注意事項をお読みいただいてから、スピーカーを接続してください。

- 本機には、インピーダンスが4～16オームのスピーカーを接続してください。インピーダンスが4オーム以上6オーム未満のスピーカーを1台でも接続するときは、必ず「**インピーダンス**」を「**4オーム**」（➔ 40）に設定してください。小さいインピーダンスのスピーカーをお使いの場合、アンプのボリュームを長時間に渡って大音量に設定して使用すると、内蔵されている保護回路が作動する場合があります。
- 接続は電源コードをコンセントから抜いて行ってください。
- スピーカーに添付の取扱説明書をご覧ください。
- 必ず、プラス（+）端子はプラス（+）端子と、マイナス（－）端子はマイナス（－）端子と接続するようにしてください。間違って接続すると、逆位相になり再生音が不自然になります。
- スピーカーコードが、必要以上に長かったり細かったりすると、音質に影響を与えることがあります。そのようなコードは使用しないでください。
- プラスのコードとマイナスのコードをショートさせないでください。故障の原因になります。
- コードの金属芯を本機の後面パネルと接触させないでください。故障の原因になります。

- スピーカー端子に2本以上のコードを接続しないでください。故障の原因になります。
- 1台のスピーカーを複数の端子に接続しないでください。

スピーカーコードを接続する

スピーカーコードの被覆を先端から12〜15mm剥き、金属芯をしっかりよじります。

バナナプラグのご使用について

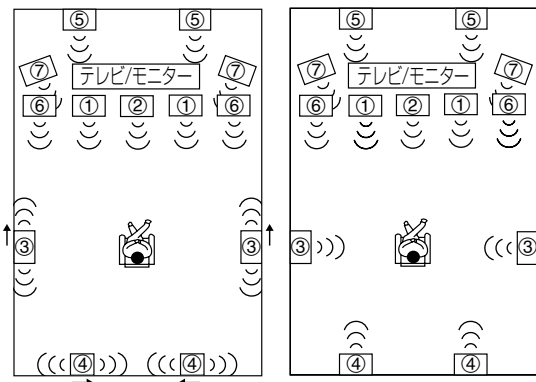
- スピーカー端子をしっかり締めてから、バナナプラグを挿入してください。
- スピーカーコードの芯線を、スピーカー端子のバナナプラグ用の穴に直接挿入しないでください。

各スピーカーは下図のように接続します。サラウンドバックスピーカーを1台しか使用しない場合は、**SURR BACK OR FRONT HIGH OR FRONT WIDE L**端子に接続してください。

ご注意

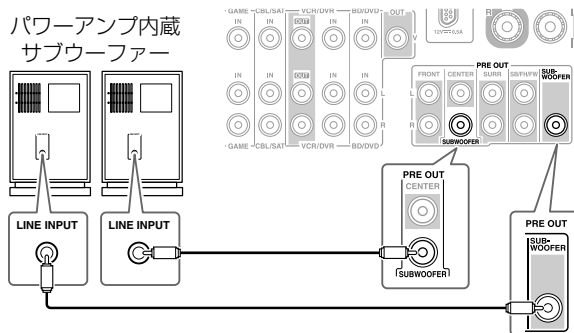
- フロントワイドスピーカーは**FRONT HIGH OR FRONT WIDE SPEAKERS**端子にも接続できます。
  その場合は、「スピーカーセッティング」の「**フロントハイ/フロントワイド**」を「**フロントワイド**」にしてください（➔ **40**）。
- フロントハイ、フロントワイドスピーカーは**SURR BACK OR FRONT HIGH OR FRONT WIDE SPEAKERS**端子にも接続できます。
  その場合は、「スピーカーセッティング」の「**サラウンドバック/フロントハイ/フロントワイド**」を「**フロントハイ**」、または「**フロントワイド**」にしてください（➔ **40**）。

ダイポール型スピーカーを使う

サラウンドスピーカーとサラウンドバックスピーカーの代わりにダイポール型スピーカーを使うことができます。ダイポール型スピーカーとは、前と後ろなど、2つの方向に同じ音を出す、双指向性スピーカーのことです。ダイポール型スピーカーでは位相*を合わせるため、多くのスピーカーには矢印表示が書いてあります。サラウンドスピーカーは矢印（↑）がテレビへ向かうように配置し、サラウンドバックスピーカーは、お互いの矢印（→）が向き合うように配置してください。

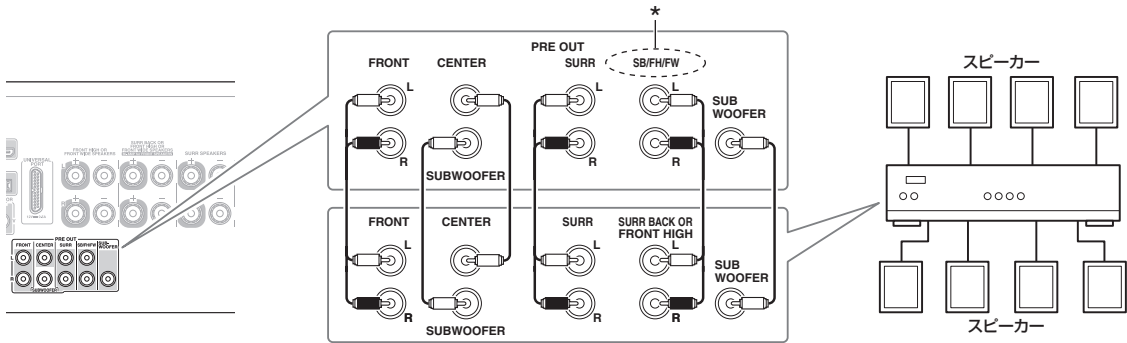
***位相**：弦波の1周期（0～360度）における波形の位置を示す言葉。各スピーカー間の距離や取り付け角度、プラス（+）、マイナス（ー）の配線間違いなどで位相が合っていないと、音像や音場が不明瞭になったり、聴きづらさがあったりします。

①フロントスピーカー
②センタースピーカー
③サラウンドスピーカー
④サラウンドバックスピーカー
⑤フロントハイスピーカー
⑥フロントワイドスピーカー
⑦サブウーファー

パワーアンプ内蔵サブウーファーを接続する

本機の**SUBWOOFER PRE OUT**端子とパワーアンプ内蔵サブウーファーの入力端子を接続します。パワーアンプを内蔵していないサブウーファーと外部アンプを使用する場合は、**SUBWOOFER PRE OUT**端子とアンプの入力端子を接続します。
最大2つのパワーアンプ内蔵サブウーファーを接続して使用できます。
それぞれの端子から同じ信号が出力されます。

ヒント

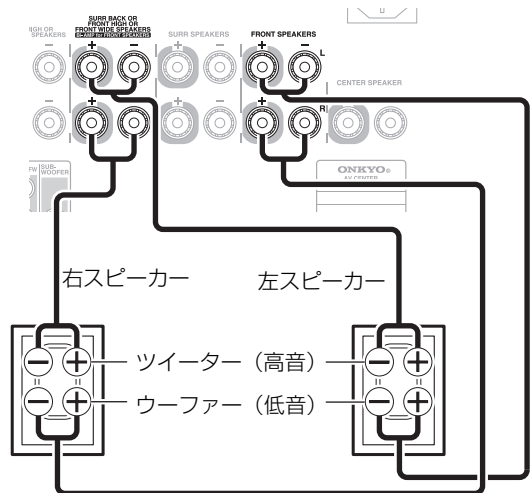
- サブウーファー側で音量調整ができる場合、音量を上げてください。また、カットオフフィルター切換スイッチは「DIRECT」にしてください。カットオフフィルター切換スイッチがなく、カットオフ周波数調整ツマミがある場合は、周波数を最大にしてください。

パワーアンプを接続する

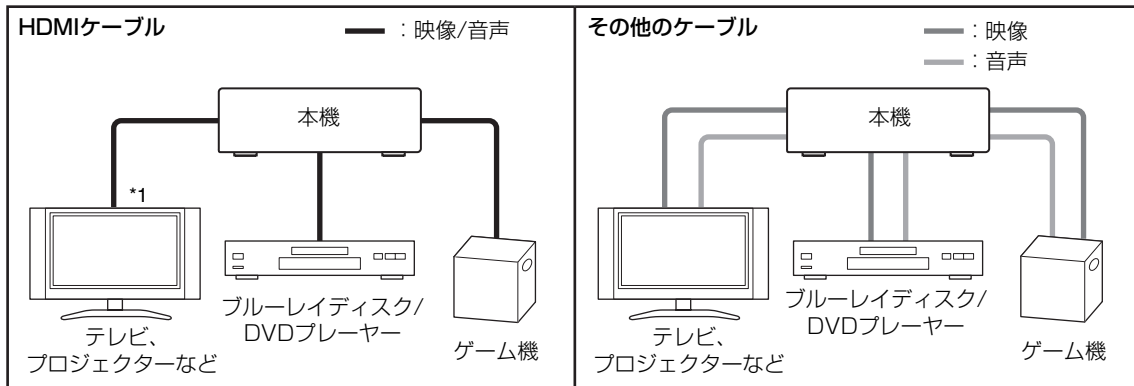
パワーアンプを本機に接続し、本機をプリアンプとして使用できます。本機だけでは出力できない、大音量で再生できるようになります。
パワーアンプを使用する場合、各スピーカーやサブウーファーは、パワーアンプに接続してください。パワーアンプの音声入力端子と本機の**PRE OUT**端子を接続します。

ご注意
- * 接続していないチャンネルは、「スピーカー詳細設定」（➔ 40）で「**無し**」に設定します。
- * **SB/FH/FW**とは、サラウンドバック/フロントハイ/フロントワイドの略称です。

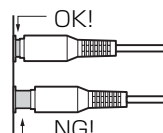
バイアンプ接続をする

FRONT SPEAKERS端子と**SURR BACK OR FRONT HIGH OR FRONT WIDE SPEAKERS**端子には、それぞれフロントスピーカーとサラウンドバックスピーカーを接続できます。また、バイアンプ接続に対応したスピーカーを接続し、低音域と高音域の音質を向上させることもできます。

- バイアンプ接続では、最大5.1チャンネル再生になります。
- バイアンプ接続の場合は、**FRONT SPEAKERS**端子にフロントスピーカーのウーファー（低音）端子を接続し、**SURR BACK OR FRONT HIGH OR FRONT WIDE SPEAKERS**端子にフロントスピーカーのツイーター（高音）端子を接続します。
- バイアンプ接続が完了し、本機の電源を入れたら、「**スピーカータイプ（フロント）**」を「**バイアンプ**」に設定してください（➔ 40）。

重要
- バイアンプ接続を行うときは、スピーカーのツイーター（高音）端子とウーファー（低音）端子をつなぐ、ショート金具を必ず取り外してください。
- バイアンプ接続に対応するスピーカーのみ使用可能です。詳しくはスピーカーの取扱説明書をご覧ください。

AV機器との接続について

接続イメージ

*1 オーディオリターンチャンネル（ARC）機能に対応していないテレビの場合は、別途光ケーブル接続が必要です。

- AV機器の接続を行う場合は、AV機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
- 電源コードは、すべての接続が完了するまでつながないでください。
- プラグは奥までしっかり押し込んでください（ノイズや誤動作の原因になります）。
- ケーブル同士の接触を防ぐため、映像・音声ケーブルや電源・スピーカーコードが接近しないようにしてください。

接続に必要なケーブルの名称と接続端子の形状

信号	ケーブル名称	接続端子	説明
映像/音声	HDMI	HDMI	映像信号と音声信号をデジタル伝送します。
映像	コンポーネントビデオコード Y PB/CB PR/CR	Y 緑 CB/PB 青 CR/PR 赤	画質はD端子と同レベルです。映像機器の制御信号（アスペクト比など）を送ることはできません。
	D端子用接続コード	D4	画質はコンポーネントと同レベルです。映像機器の制御信号（アスペクト比など）を送ることができます。
	ビデオコード（コンポジット）	V 黄	標準的な映像信号用の端子で、多くのテレビやビデオなどの映像機器に装備されています。
音声	光デジタル（OPTICAL（オプティカル））	OPTICAL	PCM*、ドルビーデジタルやDTSなどのデジタルサウンドを楽しむことができます。音質は同軸デジタルと同レベルです。
	同軸デジタル（COAXIAL（コアキシャル））	COAXIAL オレンジ	PCM*、ドルビーデジタルやDTSなどのデジタルサウンドを楽しむことができます。音質は光デジタルと同レベルです。
	オーディオ用ピンコード	L 白 R 赤	アナログ音声信号を伝送します。
	3.5mmステレオ用ミニピンコード	LINE IN	アナログ音声信号を伝送します。

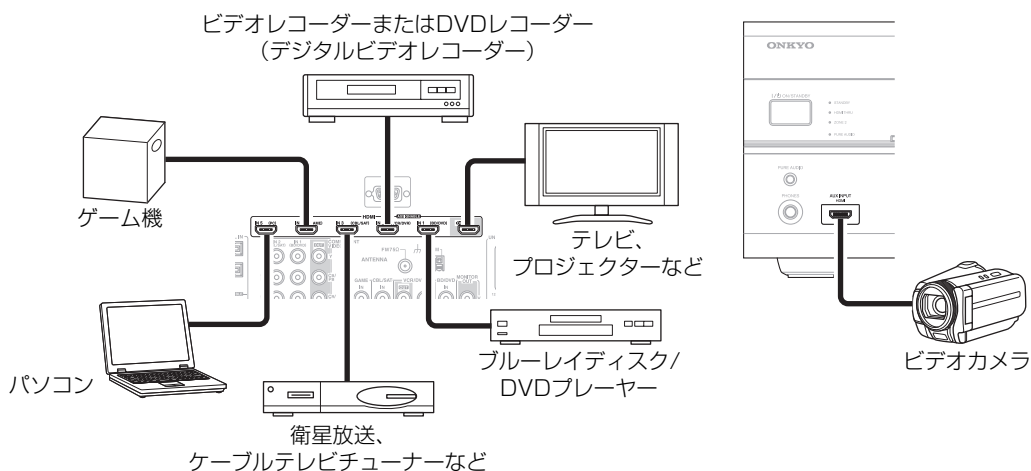
* PCM入力信号で利用できるサンプリングレートは、32、44.1、48、88.2、96kHzです。HDMI接続の場合は、176.4、192kHzも利用できます。

光デジタル入力端子について

本機の光デジタル入力端子は、すべてとびらタイプですので、とびらをそのまま奥へ倒すようにして、光デジタルケーブルを差し込んでください。

ご注意

- 光デジタルケーブルはまっすぐ抜き差ししてください。ななめに抜き差しすると、とびらが破損する場合があります。

AV機器をHDMI接続する

AV機器は割り当てられた端子に接続してください。初期設定は以下のようになっています。
✔：割り当ては変更できます（➔ **38**）。

端子		信号	AV機器	割り当て可能
入力	HDMI IN 1	映像/音声	ブルーレイディスク/DVDプレーヤー	✔
	HDMI IN 2		ビデオレコーダーまたはDVDレコーダー（デジタルビデオレコーダー）	✔
	HDMI IN 3		衛星放送、ケーブルテレビチューナーなど	✔
	HDMI IN 4		ゲーム機	✔
	HDMI IN 5		パソコン	✔
	AUX INPUT HDMI		ビデオカメラ	
出力	HDMI OUT		テレビ、プロジェクターなど	

「HDMIについて」（➔ **72**）と「RIHDと互換性のあるテレビやプレーヤー /レコーダーをご使用になるには」（➔ **73**）をご覧ください。

■オーディオリターンチャンネル（ARC）機能

オーディオリターンチャンネル（ARC）は、HDMI対応テレビからの音声信号を、本機の**HDMI OUT**端子から入力できる機能です。

- ARC機能を使用するには、**TV/CD**入力切換を選び、ARC機能に対応しているテレビで、「**HDMIコントロール(RIHD)**」を「**オン**」（➔ **51**）にし、「**オーディオリターンチャンネル**」を「**自動**」（➔ **51**）に設定する必要があります。

ヒント

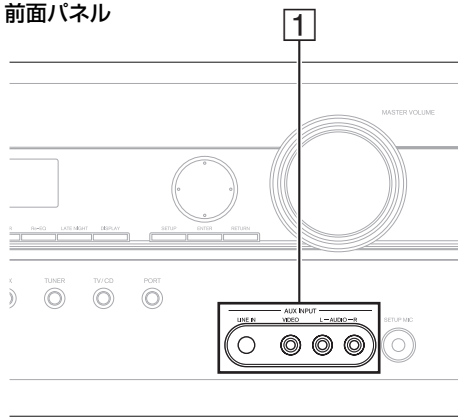
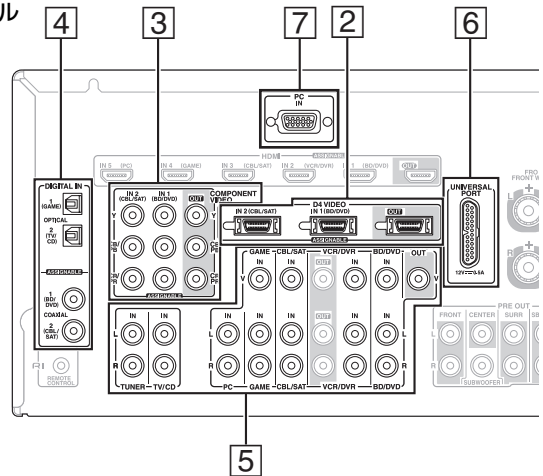
HDMI IN（イン）端子から入力された音声を、テレビのスピーカーで聴くときは、以下の設定を行ってください。

- RIHDに準拠したテレビをご使用の場合は、「**テレビ連動**」を「**オン**」にしてください（➔ **52**）。
- RIHDに準拠していないテレビをご使用の場合は、「**テレビオーディオ出力**」を「**オン**」（➔ **51**）にするか「**テレビ連動**」を「**オフ**」にしてください。
- ブルーレイディスク/DVDプレーヤー側でHDMI音声出力設定をPCMに設定してください。
- テレビの音声を本機で聴く場合は、「外部機器を接続する」をご覧ください（➔ **20**）。

ご注意

- HDMI Ver.1.4規格以外のテレビをお使いの場合は、別途光ケーブル接続を行ってください。
- HDMI機器の音声を本機で聴く場合は、テレビにHDMI機器の映像が映る状態にしておいてください（本機が接続されているHDMI入力をテレビ側で選んでください）。テレビの電源をオフにしていたり、テレビ側で他の入力を選んでいる状態では、本機から音声が出なかったり、途切れるなど正常に音が出ないことがあります。
- 「**テレビオーディオ出力**」が「**オン**」（➔ **51**）に設定され、テレビのスピーカーから音が聴こえる場合は、本機でボリュームを調整すると、本機のスピーカーからも音声が出力されます。「**テレビ連動**」が「**オン**」に設定され（➔ **52**）、RIHDに準拠したテレビのスピーカーから音が聴こえる場合は、本機でボリュームを調整すると、本機のスピーカーから音声が再生され、テレビのスピーカーから音が聴こえなくなります。本機のスピーカーの音声再生を停止するには、設定の変更を行う、テレビの設定を変更する、または本機のボリュームを小さくしてください。

外部機器を接続する

操作画面は、本機とHDMI接続しているテレビのみに表示されます。本機とテレビをコンポーネントビデオ/D4ビデオ、ビデオ端子接続している場合は、本体表示部を見ながら操作してください。

外部機器は割り当てられた端子に接続してください。初期設定は以下のようになっています。
✔：割り当ては変更できます（➔ 39）。

No.	端子			信号	外部機器	割り当て可能
1	AUX INPUT	LINE IN		アナログ音声	ポータブルオーディオプレーヤー	
		VIDEO		コンポジット映像	ビデオカメラなど	
		AUDIO L/R		アナログ音声		
2	D4 VIDEO	IN 1 (BD/DVD)		D映像	ブルーレイディスク/DVDプレーヤー	✔
		IN 2 (CBL/SAT)			衛星放送、ケーブルチューナーなど	✔
		OUT			テレビ、プロジェクターなど	
3	COMPONENT VIDEO	IN 1 (BD/DVD)		コンポーネント映像	ブルーレイディスク/DVDプレーヤー	✔
		IN 2 (CBL/SAT)			衛星放送、ケーブルチューナーなど	✔
		OUT			テレビ、プロジェクターなど	
4	DIGITAL IN	OPTICAL	IN 1 (GAME)	デジタル音声	ゲーム機	✔
			IN 2 (TV/CD)		テレビ、CDプレーヤー	✔
		COAXIAL	IN 1 (BD/DVD)		ブルーレイディスク/DVDプレーヤー	✔
			IN 2 (CBL/SAT)		衛星放送、ケーブルチューナーなど	✔
5	MONITOR OUT			コンポジット映像	テレビ、プロジェクターなど	
	BD/DVD IN			アナログ音声、コンポジット映像	ブルーレイディスク/DVDプレーヤー	
	VCR/DVR IN				ビデオレコーダーまたはDVDレコーダー（デジタルビデオレコーダー）	
	CBL/SAT IN				衛星放送、ケーブルチューナーなど	
	GAME IN				ゲーム機	
	PC IN			アナログ音声	パソコン	
	TV/CD IN				テレビ、CDプレーヤー、レコードプレーヤー *1、カセットテープデッキ、MD、CD-R	
	TUNER IN				チューナー	
6	UNIVERSAL PORT			アナログ音声/映像	iPodドック（UP-A1など）	
7	PC IN			アナログRGB映像	パソコン	*2

ご注意

- **AUX INPUT AUDIO**端子と**AUX INPUT LINE IN**端子を同時に使用する場合、**AUX INPUT LINE IN**端子からの入力信号が優先されます。
- **AUX INPUT**端子から入力された音声・映像信号を、**VCR/ DVR OUT**端子に出力できます。
- **D4 VIDEO IN 1**端子と**COMPONENT VIDEO IN 1**端子、**D4 VIDEO IN 2**端子と**COMPONENT VIDEO IN 2**端子は同時に入力することができません。どちらか片方のみ接続してください（➔ **22**）。

*1 フォノプリアンプ内蔵のレコードプレーヤー（MM）を接続します。内蔵していない場合は、本機に対応するフォノプリアンプをご用意ください。
可動コイル（MC）カートリッジタイプの場合、本機に対応するフォノプリアンプ、MC増幅器またはMC変圧器が必要になります。詳しくはレコードプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

*2 パソコンを**PC IN**端子に接続し、PC入力切換を選ぶと、パソコンの映像信号が**HDMI OUT**端子から出力されます。**HDMI IN**端子にPC入力切換が割り当てられている場合は、**HDMI IN**端子から入力された信号が、**PC IN**端子から入力された信号よりも優先して**HDMI OUT**端子へ出力されます。**PC IN**端子から入力した信号を優先して出力するには、「HDMI入力」設定の「**PC**」を「- - - - -」に設定します（➔ **38**）。

- 4の接続では、ドルビーデジタルとDTSを楽しむことができます。
- 5の接続で、ブルーレイディスク/DVDプレーヤーにメインのステレオ出力と、マルチチャンネル出力の両方が備わっている場合は、メインのステレオ出力に接続してください。

■録画方法

録画をするには、「録音・録画する」をご覧ください（➔ **30**）。

オンキヨー製品と連動させる接続

RI端子付きのオンキヨー製品に、RIケーブルとオーディオ用ピンコードを接続すると、以下のような連動機能が可能です。
RIケーブルとは、オンキヨーのシステム動作用ケーブルです（本機には付属していません）。
RIケーブルの接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

手順1：
各オンキヨー製機器が、オーディオ用ピンコードで接続されていることを確認してください（接続例の接続5）（➔ **20**）。
手順2：
RIケーブルを接続します（図をご覧ください）。
手順3：
RIドックやカセットテープデッキを使う場合は、入力表示を切り換えます（➔ **27**）。

■システムオンとオートパワーオン

本機がスタンバイモードになっている状態で、RI接続されている機器の再生を始めると、自動的に本機の電源が入り、該当する機器が入力ソースに選ばれます。

■ダイレクトチェンジ

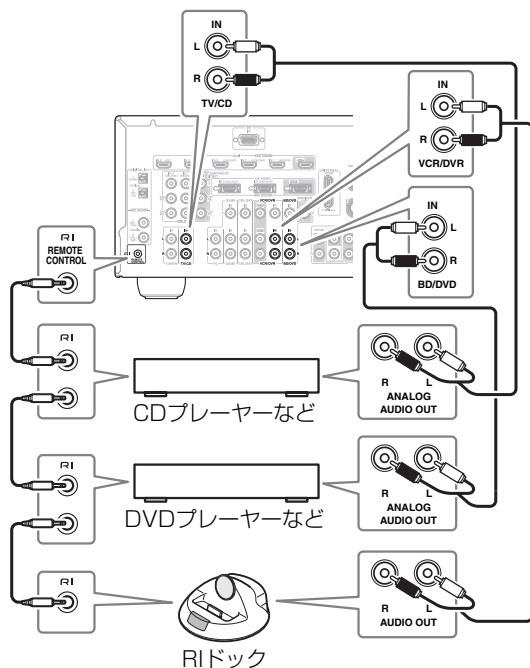
RI接続されている機器の再生が始まると、その機器が入力ソースに選ばれます。

■リモコン操作

本機のリモコンを使って、RIに対応しているオンキヨー製機器を操作できます。リモコンを本機のリモコン受光部に向けて操作します。RI専用リモコンコードを登録してください（➔ **60**）。

ご注意

- 製品によっては、RI接続をしても、一部の機能が働かないことがあります。
- チューナーのタイマー機能や、録音機器のCDダビング機能は働きません。
- システム機能については、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- RIケーブルの接続は、順序の指定はありません。

- RI端子が２つある場合、２つの端子の働きは同じです。どちらにもつなげます。
- 新旧製品の連動動作の対応/非対応については、コールセンターにお問い合わせください。
- RIドックなどのオンキヨー製ドックを、RI接続する場合は、入力表示を切り換えてご使用ください（➔ **27**）。

映像/音声接続のしくみ

本機はさまざまな接続形式に対応しており、各種AV機器を接続できます。どの接続形式を選ぶかは、お使いの機器によって異なります。以下を参考に接続をしてください。

操作画面は、本機とHDMI接続しているテレビのみに表示されます。本機とテレビをコンポーネントビデオ/D4ビデオ、ビデオ端子接続している場合は、本体表示部を見ながら操作してください。

映像接続のしくみ

映像関連機器は、ビデオ（コンポジット）、コンポーネント/D4、HDMIの4種類の映像入出力端子に接続できます。一番画質のよい接続形式はHDMIになります。

THXは、より良い映像をお楽しみいただくために、同じ入出力の信号は、変換せずにご使用いただくことをおすすめします。（例えば、コンポーネント入力はコンポーネント出力からの信号に設定してください。）

本体のVCR/DVRボタンとRETURNボタンを同時に押すことで、本機のビデオ処理を最適化してTHXリスニングモードに適した設定にすることができます（RETURNボタンをくり返し押して、本機の表示部で「VProcessor: Skip」を選びます）。設定をもとに戻すには、もう一度、同じボタンを同時に押してください。

本機内の映像入力信号の流れは図のとおりです。ビデオ（コンポジット）とコンポーネント/D4から入力された映像信号は、変換されてHDMIから出力されます。

ビデオ（コンポジット）とコンポーネント/D4から入力された映像信号は、変換されずに、それぞれに対応する端子からも出力されます。

HDMI、またはコンポーネント/D4入力端子に機器を接続したときは、各入力を割り当てる設定を行ってください（➔ 38）。

映像信号の流れ

ブルーレイディスク/DVDプレーヤーなど

ビデオ（コンポジット）　コンポーネント/D4*1　HDMI

本機　IN　MONITOR OUT

ビデオ（コンポジット）　コンポーネント/D4*1　HDMI

テレビ、プロジェクターなど

*1 映像機器の映像出力から、モニターの映像入力までD端子接続している場合のみ、アスペクト比などの制御信号を送れます。モニターによっては、制御信号を受け取れないことがあります。その場合は、モニター側で調整してください。

ヒント

- **VIDEO IN**端子に入力された各映像信号を、変換して**HDMI OUT**端子から出力するには、「HDMI入力」（➔ 38）と「コンポーネント映像入力」（➔ 39）を両方とも「- - - - -」にする必要があります。
- **D4 VIDEO IN**端子と**COMPONENT VIDEO IN**端子は、内部で並列になるように設計されています。1つの系統に両方を接続しないでください。たとえば、**D4 VIDEO IN 1**端子に映像機器を接続した場合は、**COMPONENT VIDEO IN 1**端子には何も接続しないでください。

■映像信号の自動選択について

1つの入力系統に、複数の映像信号が入力されている場合は、HDMI、コンポーネント/D4、ビデオ（コンポジット）の順で優先出力されます。

ただし、コンポーネント/D4の場合、信号が入力されてなくても、割り当てを行っていれば、優先されます。また、入力を割り当ててない場合は、信号が入力されていないことになります。

図のように、HDMIとビデオ（コンポジット）から映像信号が入力された場合、変換されたビデオ（コンポジット）からの映像信号は出力されず、HDMIからの映像信号が自動的に選ばれて、HDMIから出力されます。

映像信号の自動選択

ブルーレイディスク/DVDプレーヤーなど

ビデオ（コンポジット）　コンポーネント/D4　HDMI

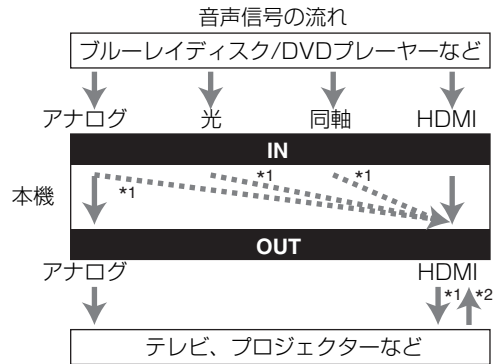
本機　IN　MONITOR OUT

ビデオ（コンポジット）　コンポーネント/D4　HDMI

テレビ、プロジェクターなど

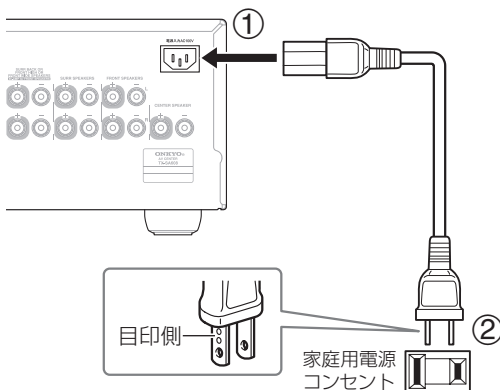
音声接続のしくみ

音声関連機器は、アナログ、デジタル（光、同軸）、HDMIの3種類の音声入出力端子に接続できます。
本機は、デジタル入力信号を変換して、アナログ出力することはできません（またその逆も行いません）。例えば、光デジタルまたは同軸デジタルに入力された音声信号は、**VCR/DVR OUT**（ビデオ/DVDレコーダー アウト）端子からは出力されません。

1つの入力系統に複数の音声信号が入力されている場合は、HDMI、デジタル（光、同軸）、アナログの順で優先出力されます。

*1 「**テレビオーディオ出力**」の設定によって異なります（➔ **51**）。
*2 ARC機能対応テレビで、「**オーディオリターンチャンネル**」を「**自動**」に設定すると（➔ **51**）、テレビの音声が本機に入力されます。**TV/CD**（テレビ）入力切換を選び、ARC機能対応テレビである必要があります。

電源コードを接続する

手順1：
付属の電源コードを、本機の電源入力AC100V端子に接続します。
手順2：
電源コードをコンセントに接続します。

電源コードを接続する前に

- すべての接続が完了していることを確認してください。
- 付属の本機専用電源コード以外は使用しないでください。
- 家庭用電源コンセントに電源プラグを差し込んだ状態で、電源入力AC100V端子から電源コードを抜くと、感電する可能性があります。電源コードを接続するときは、最後に家庭用電源コンセントに接続し、抜くときは最初に家庭用電源コンセントから抜いてください。
- 本機の電源を入れると、瞬間的に大きな電流が流れて、コンピューターなどの機器の動作に影響することがあります。コンピューターなど、繊細な機器とは別系統のコンセントに接続することをおすすめします。

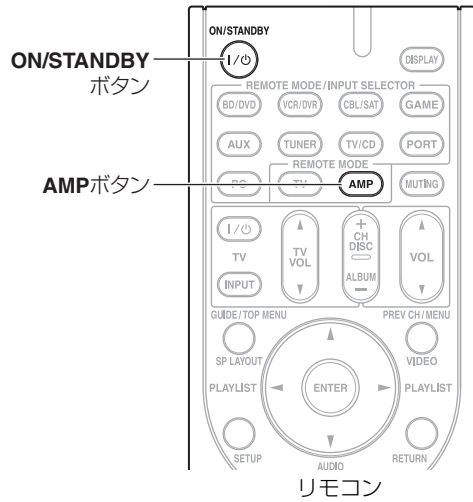
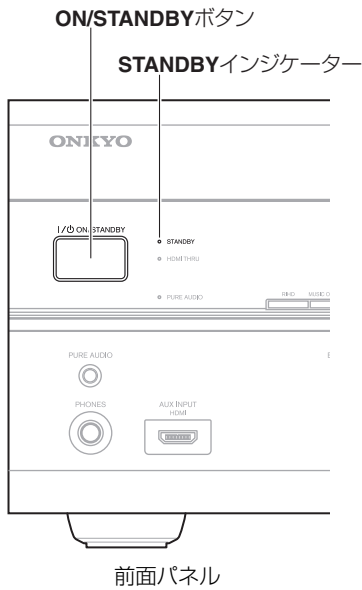
より良い音で聴いていただくために

本機の電源コンセントは極性の管理がされています。電源プラグの目印側を、家庭用電源コンセントの溝の広い方に合わせて差し込んでください。家庭用電源コンセントの溝の長さが同じ場合は、どちらを接続してもかまいません。

ご注意

- 電源コードをコンセントから抜くときは、本機をスタンバイ状態にしてから抜いてください。

本機の電源を入れる・切る

前面パネル　　リモコン

電源を入れる

前面パネルのON/STANDBYボタンを押す
または

リモコンのAMPボタンを押してON/STANDBYボタンを押す

STANDBYインジケーターが消え、表示部が点灯します。

電源を切る

前面パネルまたはリモコンのON/STANDBYボタンを押す
本機がスタンバイ状態になります。本機の電源を入れたときに、大きな音が鳴って驚かないように、必ず音量を下げてから電源を切るようにしてください。

基本操作

操作画面は、本機とHDMI接続しているテレビのみに表示されます。本機とテレビをコンポーネントビデオ/D4ビデオ、ビデオ端子接続している場合は、本体表示部を見ながら操作してください。

この取扱説明書では、特に指定のない限り、リモコンを使った手順を説明しています。

接続した機器を再生する

■本機で操作する

1 **入力切換ボタンで再生する機器を選ぶ**

2 **機器の再生を始める**
以下の項目もご覧ください。
- 「本機のリモコンで他の製品を操作する」(➔ **59**)
- 「iPodを操作する」(➔ **55**)

3 **音量を調整する場合は、MASTER VOLUMEつまみで調整する**

4 **リスニングモードを楽しむ**
以下の項目もご覧ください。
- 「リスニングモードを使う」(➔ **31**)
- 「Audyssey」(➔ **45**)

■リモコンで操作する

1 **AMPボタンを押して、入力切換ボタンを押す**

2 **選んだ機器の再生を始める**
以下の項目もご覧ください。
- 「本機のリモコンで他の製品を操作する」(➔ **59**)
- 「iPodを操作する」(➔ **55**)

3 **VOL ▲/▼ボタンで音量を調整する**

4 **リスニングモードを楽しむ**
以下の項目もご覧ください。
- 「リスニングモードを使う」(➔ **31**)
- 「Audyssey」(➔ **45**)

表示を確認する

入力信号の様々な情報を表示することができます。
(**UNIVERSAL PORT**端子に接続した機器は除く)

AMPボタンを押して、DISPLAYボタンを繰り返し押す

ヒント
- 本体の**DISPLAY**ボタンでも操作できます。

以下の情報を表示できます。

*1 「セレクタ名変更(名前の編集)」で名前を変更した場合でも、入力は初期設定の名称で表示されます(➔ **47**)。
*2 入力信号がアナログの場合は、表示されません。入力信号がPCMの場合は、サンプリング周波数が表示されます。入力信号がPCM以外のデジタルの場合は、フォーマットが表示されます。
情報は約3秒間表示されたあと、元の表示に戻ります。
*3 入力信号がAACの音声多重放送(2ヶ国語放送など)の場合は、表示されません。音声の数が表示されます。
*4 入力信号がAACの音声多重放送(2ヶ国語放送など)の場合は、表示されません。選択している音声の数が表示されます。

表示部の明るさを変える

表示部の明るさを変えることができます。

AMPボタンを押して、DIMMERボタンを繰り返し押す
以下のように明るさが変わります。

→ やや暗い → 暗い → ふつう →

ヒント
- 本体の**DIMMER**ボタンでも操作できます。

一時的に音量を小さくする

出力を一時的に小さくできます。

AMPボタンを押して、MUTINGボタンを押す
表示部に MUTING 表示が点滅します。

ヒント
- 解除するには、**MUTING**ボタンをもう一度押すか音量調整をします。
- 本機がスタンバイ状態になった場合にも、解除されます。

スリープタイマーを使う

指定した時間が経過すると、電源が自動的に切れるように設定できます。

AMPボタンを押して、SLEEPボタンを押す

「Sleep 90 min」が表示され、90分後にスタンバイ状態になります。ボタンを押すたびに10分単位で設定時間が短くなります。
スリープタイマー設定中はSLEEP表示が点灯します。残り時間を約5秒間表示したあと、元の表示に戻ります。

ヒント

- スリープタイマーを解除するには、SLEEP表示が消えるまで、繰り返し**SLEEP**ボタンを押すか、一度スタンバイ状態にしてから、再度電源を入れます。
- **SLEEP**ボタンを押すと、スタンバイ状態になるまでの残り時間が表示されます。ただし、残り時間が10分以下のときに**SLEEP**ボタンを押すと、スリープタイマーは解除されます。

スピーカーレイアウトを選ぶ

使用したいスピーカーの優先順位を設定できます。

AMPボタンを押したあと、S P LAYOUTボタンを繰り返し押す

- Speaker Layout: FH ：
  フロントハイスピーカーからの音声が優先されます。
- Speaker Layout: FW ：
  フロントワイドスピーカーからの音声が優先されます。
- Speaker Layout: SB ：
  サラウンドバックスピーカーからの音声が優先されます。

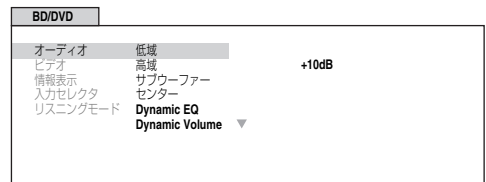
ご注意

- 「**スピーカータイプ（フロント）**」が「**バイアンプ**」に設定されている場合（➔ 40）、この設定は選べません。
- サラウンドバックスピーカー、フロントハイスピーカーおよびフロントワイドスピーカーに対応していないリスニングモードを使用しているときは、この機能は使えません。

ホームメニューを使う

ホームメニューを使うと、通常のメニューをたどることなく、よく利用するメニューにすばやくアクセスできます。このメニューを利用して、設定を変更したり、現在の情報を確認したりできます。

1 AMPボタンを押して、HOMEボタンを押す

以下の情報がテレビ画面に表示されます。

2 ▲/▼/◄/►ボタンを使って、目的の項目を選ぶ

- **オーディオ***1
  変更できる項目は、「**低域**」「**高域**」「**サブウーファー**」「**センター**」「Dynamic EQ」「Dynamic Volume」「**レイトナイト**」「Music Optimizer」「Re-EQ」「Re-EQ(THX)」「**音声入力**」です。

以下の項目もご覧ください。

- 「Audyssey」（➔ 45）
- 「音声設定を使う」（➔ 52）

- **ビデオ***2
  変更できる項目は、「**ワイドモード**」と「**ピクチャーモード**」です。リモコンの**VIDEO**ボタンを使うと、このメニューにすばやくアクセスできます。

以下の項目もご覧ください。

- 「画質調整」（➔ 47）

- **情報表示***3*4
  情報を表示できる項目は、「**オーディオ**」「**ビデオ**」です。
- **入力セレクタ***4*5
  入力名、入力設定、ARC機能設定の情報を確認しながら、入力ソースを選ぶことができます。
  ENTERボタンを押して、現在の入力ソースを表示したあと、▲/▼ボタンを押して、目的の入力ソースを選びます。**ENTER**ボタンをもう一度押すと、選んだ入力ソースに切り換わります。
- **リスニングモード**
  MOVIE/TV、MUSIC、GAME、THXのカテゴリーに分類されたリスニングモードを選ぶことができます。
  ▲/▼ボタンを使ってカテゴリーを選び、◄/►ボタンでリスニングモードを選びます。
  ENTERボタンを押すと、選んだリスニングモードに切り換わります。

ご注意

*1 Pure AudioまたはDirectリスニングモードを選択しているときは、「Dynamic EQ」と「Dynamic Volume」は選択できません。

*2 「**ピクチャーモード**」で「**カスタム**」を選んでいる場合のみ（➔ **48**）、**ENTER**ボタンを押すと、「**明るさ**」「**コントラスト**」「**色合い**」「**彩度**」といった項目を調整できます。**ENTER**ボタン、または**RETURN**ボタンを押すと、元のホームメニューに戻ります。

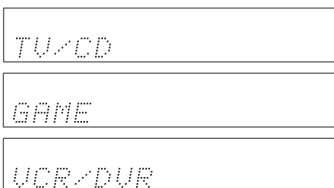
*3 入力ソースとリスニングモードによっては、表示された出力チャンネルの一部しか音声が出ないことがあります。

*4 「セレクタ名変更」で任意の名称を入力すると（➔ **47**）、入力ソースがその名称で表示されます。名称を入力していない場合でも、本機がHDMI接続で機器名を受信しているときは、その機器名が表示されます（➔ **19**）。

*5 **PORT**入力切換ボタンの場合は、iPodドックの名称が表示されます。

入力表示を切り換える

オンキヨー製のRI端子付きRIドックを、本機の**TV/CD IN**端子や**GAME IN**端子または**VCR/ DVR IN**端子に接続した場合、ダイレクトチェンジなどのシステム動作を正しく行うために、入力表示を切り換える必要があります。
この設定は、前面パネル以外で行うことはできません。

1 **TV/CD、GAMEまたはVCR/DVRボタンを押して、表示部に「TV/CD」「GAME」または「VCR/DVR」を表示させる**

TV/CD

GAME

VCR/DVR

2 **TV/CD、GAMEまたはVCR/DVRボタンを約3秒間押し続けて、表示を切り換える**

この手順を繰り返すと、以下のように表示が切り換わります。

TV/CDボタン
「TV/CD」→「MD」→「CDR」→「DOCK」→「TAPE」→「TV/CD」

GAMEボタン
「GAME」→「DOCK」→「GAME」

VCR/DVRボタン
「VCR/DVR」→「DOCK」→「VCR/DVR」

ご注意

- **TV/CD**、**GAME**、**VCR/DVR**の各入力切換ボタンで「**DOCK**」を選べますが、同時には選べません。
- 本機付属のリモコンで操作する前に、まずRI専用リモコンコードを登録してください（➔ **59**）。

ヘッドホンで聴く

標準プラグ（6.3 mm）のステレオヘッドホンを、PHONES端子に接続する

ご注意

- 接続するときは音量を下げてください。
- ヘッドホン使用中はスピーカーからの音が消えます。
- Pure Audio、Stereo、MonoまたはDirect以外のリスニングモードを選択している場合は、ヘッドホンを接続すると、自動的にStereoリスニングモードになります。
- ヘッドホン接続時は、Pure Audio、Mono、DirectまたはStereoリスニングモードが選択できます。

自動スピーカー設定をする（Audyssey 2EQ ®機能）

付属の測定用マイクを使って、自動的にスピーカーの数、音量レベルの調整、各スピーカーの最適なクロスオーバー周波数、および視聴位置からの距離を測定します。
また、部屋の中の様々な環境により生じる音のひずみを補正しますので、クリアでバランスのよい音になります。
Audyssey 2EQ機能を使用することで、
Audyssey Dynamic EQ ®機能を利用できるようになります。Audyssey Dynamic EQの働きにより、どの音量でも適切な音のバランスを保つことができます（➔ **45**）。
この機能を使用する前に、使用するすべてのスピーカーを接続してください。
「**Dynamic EQ**」を「**オン**」に設定すると（➔ **45**）、「**イコライザ**」が「**Audyssey**」に設定されます（➔ **42**）。
「**Dynamic EQ**」を「**オフ**」に設定した場合は、「**Dynamic Volume**」は「**オフ**」に設定されます（➔ **46**）。
設定に必要な時間は3ケ所で約15分かかります。
スピーカーの数によって時間は変わります。

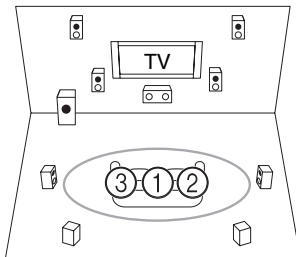
Audyssey 2EQ ®を使う

ホームシアターで、すべての視聴者が楽しめる視聴環境を構築するために、視聴エリア内で最大3ヶ所の測定を行います。視聴者が座った状態の耳の高さに、測定用のマイクを設置し、三脚台を使用して、視聴時の耳の高さに近い位置に、マイクの先端が天井を向くように固定してください。測定中に、マイクを直接手で握っていると、正確に測定できなくなります。

① **最初に測定する位置です**
視聴エリアの中心、または1人で視聴するときに座る位置です。Audyssey 2EQでは、この位置の測定値に基づいて、スピーカーの距離、音量、極性、サブウーファーの最適なクロスオーバー値を計算します。

② **2番目に測定する位置です**
視聴エリアの右側にあたる位置です。

③ **3番目に測定する位置です**
視聴エリアの左側にあたる位置です。

①と②、①と③の間は、1m以上あけるようにしてください。

◯：視聴エリア　①〜③：マイク測定位置

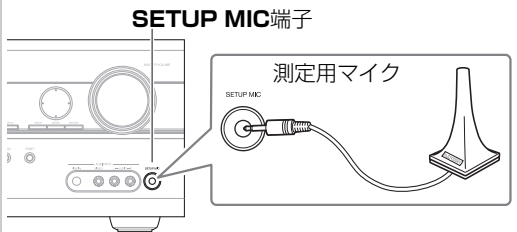
ご注意

- 測定中は、部屋をできるだけ静かにしてください。周囲の雑音や無線周波妨害（RFI）があると、部屋の測定が中断される場合があります。窓を閉めて、テレビ、ラジオ、エアコン、蛍光灯、家電機器、調光器、その他の機器を停止してください。携帯電話は（使用中でなくても）電源を切るか、すべてのオーディオ機器から離れた場所に置いてください。
- 自動スピーカー設定が実行されると、各スピーカーから再生されるテスト音をマイクが拾います。
- ヘッドホンを接続しているときは、測定できません。

1 本機の電源と、接続しているテレビの電源を入れる

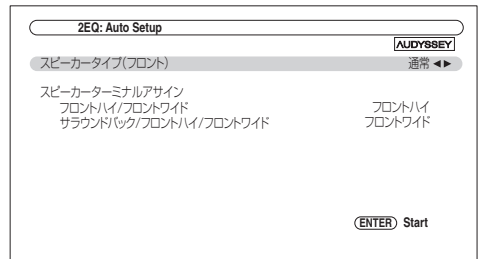
テレビの入力を、本機に接続した入力へ切り換えてください。

2 付属の測定用マイク（マイク）を、測定位置に設置してから、マイクのプラグを、本機のSETUP MIC端子に接続する

SETUP MIC端子

メニューが表示されます。

ご注意

- 操作画面は、本機とHDMI接続しているテレビのみに表示されます。本機とテレビをコンポーネントビデオ/D4ビデオ、ビデオ端子接続している場合は、本体表示部を見ながら操作してください。

3 設定が完了したら、ENTERボタンを押す

フロントスピーカーをバイアンプ接続している場合は、「**スピーカータイプ（フロント）**」で「**バイアンプ**」を選んでください（➔ 40）。

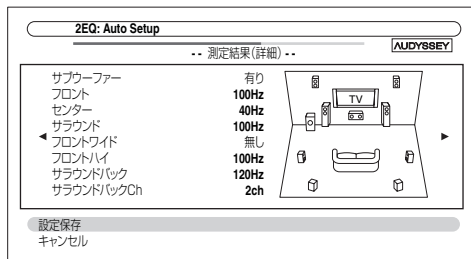
4 ENTERボタンを押す

自動スピーカー設定が始まります。
接続したスピーカーからテスト音を出しながら、マイクで測定します。
完了するまで数分かかります。
自動スピーカー設定中は、話したり、スピーカーとマイクの間に立ったりしないでください。
測定を途中で止めるときは、マイクのプラグを抜いてください。

5 マイクを次の測定位置に設置し、ENTERボタンを押す

測定が再開されます。完了するまで数分かかります。

6 画面にしたがって、手順5を繰り返す

7 ▲/▼で選択項目を選び、ENTERボタンを押す

以下の選択項目があります。

▶**設定保存**：

計算結果を保存して終了します。

▶**キャンセル**：

結果をキャンセルして終了します。

ヒント

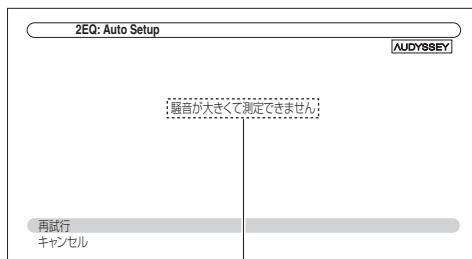
- 詳細、距離、音量レベルの測定結果は、◄/►ボタンで表示切り換えできます。

8 マイクを取り外す

ご注意

- 自動スピーカー設定が完了したら、「**イコライザ**」が「Audyssey（オーディシー）」に設定されます（➔ 42）。マイクを抜くとAudyssey表示が点滅から点灯に変わります（➔ 10）。
- 測定中はマイクを抜かないでください。測定が中止になります。
- 測定中は、スピーカーを接続したり、外したりしないでください。
- ミューティング機能が設定されていると、解除されます。
- 自動スピーカー設定を行ったあとに、スピーカーの配置を変えたり、部屋のレイアウトを変更した場合は、部屋内の音域特性が変化しています。自動スピーカー設定をやり直してください。
- スピーカーを増設した場合は、再度自動スピーカー設定を行ってください。

エラーメッセージ

自動スピーカー設定中、以下のいずれかのエラーメッセージが表示される場合があります。正しいスピーカー構成については、「スピーカーの配置」をご覧ください（➔ 14）。

エラーメッセージ

以下の選択項目があります。

▶**再試行**：

再度測定します。
（測定していたポイントから再開します）

▶**キャンセル**：

結果をキャンセルして終了します。

- **騒音が大きくて測定できません**
  測定環境の雑音が大きすぎて、測定できません。雑音の原因を取り除いてください。
- **スピーカーを検出できません**
  検出されたスピーカーの数が、最初の測定時と異なります。スピーカーの接続を確認してください。
- **保存に失敗しました**
  測定結果の保存に失敗しました。
  2、3度試してもこのエラーメッセージが出る場合は、本機が故障している可能性があります。
  お買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。
- **スピーカーを検出できません**
  このメッセージは、スピーカーが検出されないときに表示されます。「**無し**」は、スピーカーが検出されなかったことを表しています。

スピーカーの設定を手動で変更する

自動スピーカー設定で設定した項目を、手動で変更できます。

以下の項目もご覧ください。

- 「スピーカー詳細設定」（➔ 40）
- 「スピーカー距離」（➔ 41）
- 「スピーカー音量レベル」（➔ 41）
- 「イコライザ設定」（➔ 42）

ご注意

THXのリスニングモードで聴くときは

THX認定スピーカーシステムを使用するときは、スピーカー設定を手動で設定し直すことを、THXは推奨しています。

- 自動スピーカー設定を行った場合は、手動でクロスオーバー周波数設定を「80Hz(THX)」に設定してください。
- 低域周波数の持つ無指向性、あるいは各部屋の持つ固有の特性などにより、サブウーファーのスピーカー距離設定や、スピーカー音量設定が最適でない場合があります。手動で設定し直してください。
- 各部屋固有の特性などにより、スピーカー距離設定やスピーカー音量設定が、最適でない場合があります。手動で設定し直してください。

アンプ内蔵サブウーファーを接続している場合

サブウーファーの音声は、超低域で低い位置から出力されるために、自動スピーカー設定で認識されない場合があります。

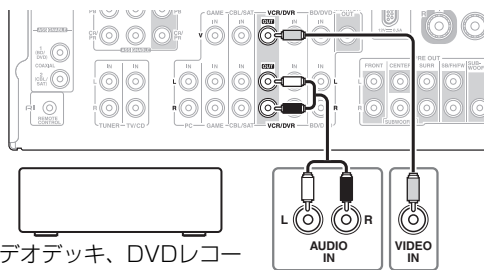
「**測定結果（詳細）**」画面の「**サブウーファー**」が「**無し**」と表示される場合は、サブウーファーの音量を半分くらいまで上げ、周波数を最大にした状態でご使用ください。音量を大きく設定し過ぎて音が歪む場合は、検出に関する問題が発生する可能性があります。適切な音量に設定してください。

カットオフフィルター切換スイッチがある場合は、「Off（オフ）」あるいは「DIRECT（ダイレクト）」の状態にしてご使用ください。カットオフ周波数を「Off」にできない場合は、周波数を最大にしてご使用ください。詳しくは、サブウーファーの取扱説明書をご覧ください。

録音・録画する

あなたが録音・録画したものは、個人として楽しむほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。

録音機能を有する機器で録音・録画する方法、異なるソースの音声と映像を録音・録画する方法について説明します。

機器を接続する

ビデオデッキ、DVDレコーダー、カセットテープデッキ、CDレコーダー、MDなど

ご注意

- 録音・録画するには、本機の電源を入れる必要があります。スタンバイ状態では録音・録画できません。
- テレビや再生側ビデオデッキから、録画用のビデオデッキに、本機を経由せずに直接録画したい場合は、テレビやビデオデッキの音声・映像出力を、録音用のビデオデッキの音声・映像入力に直接接続してください。詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。
- **VCR/ DVR IN**端子への入力信号は、**VCR/DVR OUT**端子に出力されません。これは入出力がループして故障するのを防ぐためです。
- サラウンド効果と、DSPリスニングモードは録音されません。
- 著作権保護されたブルーレイディスクやDVDは、デジタル録音・録画できません。
- デジタル信号は録音・録画できません。アナログ入力時のみ録音・録画できます。
- DTS対応のCDやLDをアナログ録音すると、DTS信号はノイズとして録音されますのでご注意ください。
- Pure Audioリスニングモードでは、ビデオ回路の電源がオフになるため映像が出力されません。
録画するときは、他のリスニングモードを選んでください。

再生しながら録音・録画する

音声入力は、**VCR/DVR OUT**端子に接続したレコーダー（カセット、CD、MDなど）に録音できます。映像入力は、**VCR/DVR OUT**端子に接続したレコーダー（ビデオ、DVDなど）に録画できます。

1 入力切換ボタンを押して、録音・録画する機器（再生側）を選ぶ

録音・録画中にソースを視聴できます。また、録音・録画中は、**MASTER VOLUME**つまみを操作しても録音・録画機器への出力には影響ありません。

ヒント

- 本機のリモコンでも操作できます。

2 録音・録画する機器（録画側）の準備をする

- 機器を録音・録画待機状態にします。
- 録音レベルは機器側で調整してください。
- 録音・録画の手順については、各機器の取扱説明書をご覧ください。

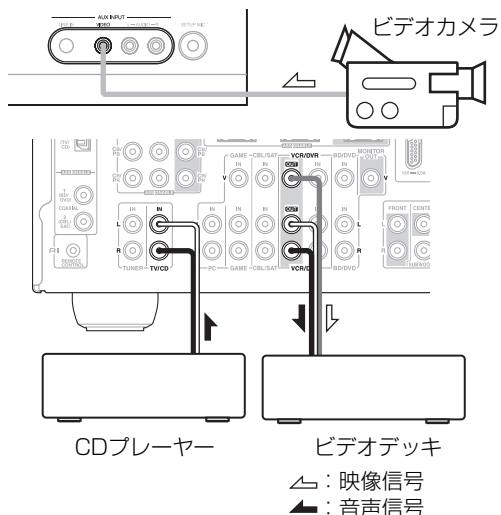
3 録音・録画を始める

手順1で選んだ再生機器を再生します。
録音・録画中に再生側の入力を切り換えると、新しく選択された入力が録音・録画されます。

異なるソースの音声と映像を録音・録画する

あるソースの音声を別のソースの映像に加えて、オリジナルビデオが作成できます。この機能は、音声のみの入力ソース（**TUNER**、**TV/CD**）を選んだ場合は、映像ソースが変わらないことを利用しています。以下の手順は、**TV/CD IN** 端子に接続した CD プレーヤーの音声と、**AUX INPUT** 端子に接続したビデオカメラの映像を、**VCR/DVR OUT** 端子に接続したビデオデッキで録音･録画する例です。

CDプレーヤー　ビデオデッキ

△：映像信号
▲：音声信号

1 録音する機器（再生側）の準備をする

2 ビデオデッキで録画準備をする

3 AUXボタンを押す

4 TV/CDボタンを押す

音声出力はCDに変わりますが、映像出力は手順3で選んだAUXのまま変わりません。

5 ビデオデッキで録画を開始し、ビデオカメラとCDプレーヤーを再生する

ビデオカメラの映像とCDプレーヤーの音声が、ビデオデッキに録音・録画されます。

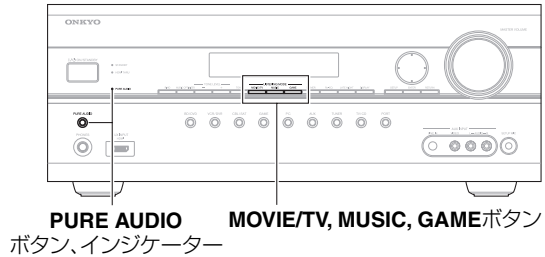
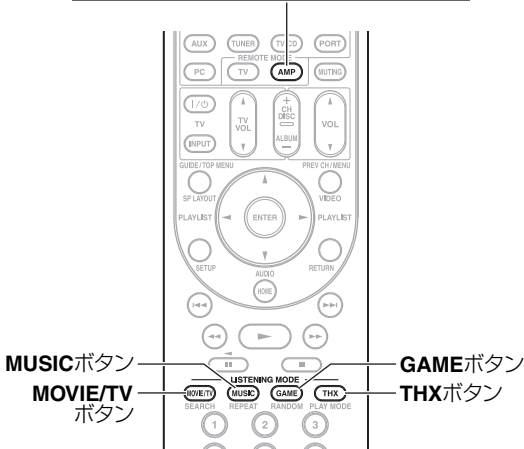
ご注意

- この方式で録音できるのは**TUNER**、**TV/CD**端子に接続した機器の音声のみです。

リスニングモードを使う

リスニングモードを選ぶ

リスニングモードの詳細については、「リスニングモードについて」をご覧ください（➔ 32）。

リスニングモードのボタン

MOVIE/TVボタン

映画やテレビを楽しむのに適したリスニングモードに切り換えます。

MUSICボタン

音楽を楽しむのに適したリスニングモードに切り換えます。

GAMEボタン

ゲームを楽しむのに適したリスニングモードに切り換えます。

THXボタン

THX関連のリスニングモードを選びます。

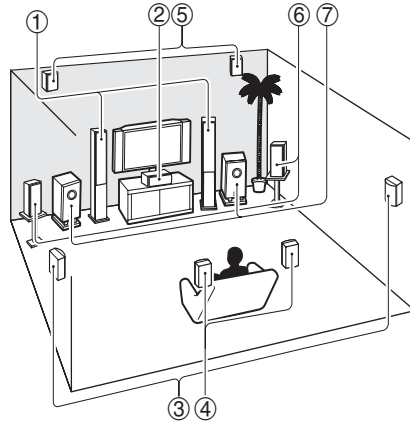
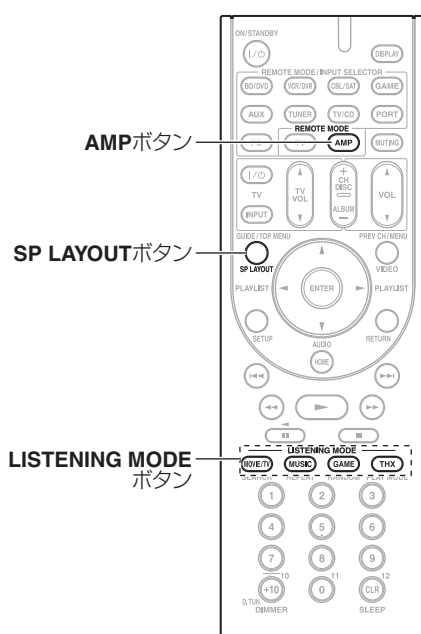
PURE AUDIOボタン、インジケーター

リスニングモードをPure Audioにします。
このモードでは、表示部とビデオ回路の電源がオフになるため、**HDMI IN**端子から入力された映像信号のみを**HDMI OUT**端子から出力できます。このモードを選択すると、**PURE AUDIO**インジケーターが点灯します。
もう1度押すと、1つ前に選んでいたリスニングモードに戻ります。

- ブルーレイディスク/DVDプレーヤーがデジタル接続されていない場合は、Dolby DigitalやDTSリスニングモードは選べません。
- 選択できるリスニングモードは、入力信号のフォーマットによって決まります。入力信号のフォーマットを確認する方法については、「表示を確認する」をご覧ください（➔ 25）。
- ヘッドホン接続時は、Pure Audio、Mono、DirectまたはStereoの各リスニングモードが選択できます。
- 本機に接続した機器の音声を、テレビのスピーカーで聴いている場合（➔ 51）は（表示部に「TV Sp On」が表示されます）、リスニングモードは使えません。

リスニングモードについて

さまざまなリスニングモードを使うと、高度な再現性とすばらしいサラウンド効果で、あなたの部屋が劇場やコンサートホールに生まれ変わります。

このセクションのみかた

①フロントスピーカー
②センタースピーカー
③サラウンドスピーカー
④サラウンドバックスピーカー
⑤フロントハイスピーカー
⑥フロントワイドスピーカー
⑦サブウーファー

■入力ソース

リスニングモードは、以下の音声フォーマットに対応しています。

MONO	モノ（モノラル）音声です。AACフォーマットなどにおける多重音声（Multiplex）も含みます。
STEREO	ステレオ（立体音響）音声です。2つの独立した音声信号チャンネルが、2つのスピーカーから再生されます。
5.1ch	5.1チャンネルのサラウンドサウンドです。このサラウンドシステムでは、5つのメインサウンドチャンネルと、6番目のサブウーファーチャンネル（0.1チャンネルと呼ばれます）を使います。
7.1ch	7.1チャンネルのサラウンドサウンドです。5.1チャンネルサウンドを音響的にさらに改良したもので、2つのスピーカーを追加することによって、サラウンド感と音場の正確性を向上しています。
DTS-ES	DTS-ESサラウンドサウンドです。このサラウンドシステムでは、既存のDTS 5.1エンコード素材から、デスクリート方式、もしくはマトリックス方式でエンコードされた、6番目のチャンネルを生成できます。
DDEX	Dolby Digital EXサラウンドサウンドです。5.1チャンネルのソースで、センターバックサラウンドチャンネルが実現します。

■スピーカーの配置

以下の図は、各チャンネル構成で、どのスピーカーが有効になるかを示したものです。スピーカーの設定については「スピーカー詳細設定」をご覧ください（➔ **40**）。

2.1	3.1	5.1	7.1
			AMPボタンを押してから、**SP LAYOUT**ボタンを繰り返し押して、使いたいスピーカー（フロントハイ、フロントワイド、またはサラウンドバック）を選びます。

リスニングモード	説明	入力ソース	スピーカーの配置
Pure Audio Pure Audio	このモードでは、表示部とビデオ回路の電源がオフになります。ノイズ源が最小限に抑えられ、臨場感あふれる最高のサウンド再生が実現します。（映像回路がオフになっているため、**HDMI IN**端子から入力された映像信号のみを**HDMI OUT**端子から出力できます。）	MONO STEREO 5.1ch 7.1ch DTS-ES DDEX	2.1 3.1 5.1 7.1[*1]
Direct Direct	入力ソースの音声が、サラウンドサウンド処理されずに出力されます。「スピーカー設定」（スピーカーの有無、距離）、「A/Vシンク（映像遅延補正）」は有効になりますが、その他**AUDIO**ボタンで設定した処理の多くが無効になります。詳しくは「設定をする（応用編）」をご覧ください（➔ **37**）。		
Stereo Stereo	左右フロントスピーカーとサブウーファーから音声が出力されます。	MONO STEREO 5.1ch 7.1ch DTS-ES DDEX	2.1 3.1 5.1 7.1
Mono Mono	モノラル信号で収録された古い映画を再生したり、2言語が記録されているソースを、左右のチャンネルで独立して再生するモードです。DVDなどに記録された、音声多重のサウンドトラックに適しています。		
Multichannel Multich	マルチチャンネルPCMソース再生時に使用できるモードです。	5.1ch	3.1 5.1 7.1
Dolby Pro Logic IIx Dolby Pro Logic II PLⅡ Movie PLⅡ Music PLⅡ Game PLⅡx Movie PLⅡx Music PLⅡx Game	Dolby Pro Logic IIxでは、すべての2チャンネルソースを7.1チャンネルで再生します。サラウンドバックスピーカーを接続していない5.1チャンネルのときは、Dolby Pro Logic IIxの代わりに、Dolby Pro Logic IIになります。明瞭なサウンドはそのままに、かってないほど自然でなめらかなサラウンド体験が得られます。CDや映画に加えて、ゲームソフトの再生もドラマチックな空間演出、鮮明な音像定位などが得られます。 • Dolby PLIIx Movie Dolby Surround（Pro Logic）の映画（テレビ番組、DVD、VHSなど）を鑑賞するときに使います。 • Dolby PLIIx Music Dolby Surround（Pro Logic）の音楽ソース（CD、ラジオ、カセットテープ、テレビ、VHS、DVDなど）を聴くときに使います。 • Dolby PLIIx Game テレビゲーム、特にDolby Pro Logic IIのロゴのついたゲームディスクを楽しむときに使います。	STEREO	3.1 5.1 7.1[*3]
	• Dolby PLIIx Movie、Dolby PLIIx Music Dolby Pro Logic IIxで、5.1チャンネルのソースを7.1チャンネルで再生します。	5.1ch	7.1[*3]
Dolby Pro Logic IIz Height PLⅡz Height	ハイチャンネルスピーカーを接続しているとき、より効果的に既存のプログラムを使えるように設計されています。Dolby Pro Logic IIz Heightは、映画や音楽のさまざまなソースをミキシングできますが、特にゲームのコンテンツをミキシングするのに適したモードです。	STEREO 5.1ch 7.1ch	7.1[*2]
Dolby EX Dolby EX Dolby D EX	5.1チャンネルで収録された音楽や映画を、サラウンドバックチャンネルも利用した6.1/7.1チャンネルで再生できます。特に、マトリックスエンコードされた、サラウンドバックチャンネルが使われている、Dolby EXのサウンドトラックに適したモードです。5.1チャンネルにサラウンドバックチャンネルを追加することで，より空間表現力を高め、360度の回転や頭上を通過するような、移動音効果をリアルに体感できます。	5.1ch DDEX	7.1[*3]
Dolby Digital Dolby D	入力ソースの音声が、サラウンドサウンド処理されずに出力されます。「スピーカー設定」（スピーカーの有無、クロスオーバー周波数、距離）、「A/Vシンク（映像遅延補正）」及び**AUDIO**ボタンで設定した処理の多くが有効になります。詳しくは「設定をする（応用編）」をご覧ください（➔ **37**）。	5.1ch	3.1 5.1 7.1
Dolby Digital Plus[*4] Dolby D+		5.1ch 7.1ch	3.1 5.1 7.1 3.1 5.1 7.1[*1]
Dolby TrueHD DD TrueHD		5.1ch 7.1ch	3.1 5.1 7.1 3.1 5.1 7.1[*1]

リスニングモード	説明	入力ソース	スピーカーの配置
DTS *DTS*	（前ページから続く）	5.1ch	3.1 5.1 7.1
DTS-HD High Resolution Audio *DTS–HD HR*		5.1ch 7.1ch	3.1 5.1 7.1 3.1 5.1 7.1*1
DTS-HD Master Audio *DTS–HD MSTR*		5.1ch 7.1ch	3.1 5.1 7.1 3.1 5.1 7.1*1
DTS Express *DTS Express*		STEREO 5.1ch	3.1 5.1 7.1
DSD*5 *DSD*		5.1ch	3.1 5.1 7.1
AAC *AAC*	MPEG-2 AAC方式で圧縮されたデジタルデータで、最大5.1チャンネルのサラウンド音声を提供します。 地上デジタル、BS/CSデジタル放送などのAACソースを再生するために使用します。	5.1ch	3.1 5.1 7.1
DTS 96/24*6 *DTS 96/24*	DTS 96/24ソース用のモードです。96kHzのサンプリングレートと、24ビットの解像度を使った高解像度DTSとして、きめ細やかな再現性を実現します。DTS 96/24ロゴのついたCD、DVD、LDなどにご使用ください。	5.1ch	3.1 5.1 7.1
DTS-ES Discrete*7 *ES Discrete*	サラウンドバックチャンネルを利用して、6.1チャンネルまたは7.1チャンネルの再生を実現する、DTS-ESディスクリートサウンドトラック用のモードです。完全に独立した7つのチャンネルで、空間イメージの向上と、360度の音像定位が実現し、サラウンドチャンネル間を飛び交うような、サウンドに最適なモードです。DTS-ESロゴのついたDVD、特にDTS-ESディスクリートサウンドトラックを使った収録ソフトにご使用ください。	DTS-ES	7.1*3
DTS-ES Matrix*7 *ES Matrix*	マトリックスエンコードされたバックチャンネルを使って、6.1チャンネルまたは7.1チャンネルの再生を実現する、DTS-ESマトリックスサウンドトラック用のモードです。DTS-ESロゴのついたCD、DVD、LDなど、特にDTS-ESマトリックスサウンドトラックを使った収録ソフトにご使用ください。	DTS-ES	7.1*3
DTS Neo:6 *Neo:6* *Neo:6Cinema* *Neo:6 Music*	2 チャンネルソースを 7.1 チャンネルで再生します。2 チャンネルで収録されたソースを、マルチチャンネルサラウンド再生するモードです。すべてのチャンネルに広い周波数帯域が確保され、チャンネル間の独立性も優れています。 映画に最適な Cinema モードと、音楽再生に最適な Music モードが選択できます。 • Neo:6 Cinema 2チャンネルの映画（テレビ、DVD、VHSなど）に適しています。 • Neo:6 Music 2チャンネルの音楽（CD、ラジオ、カセットテープ、テレビ、VHS、DVDなど）に適しています。	STEREO	3.1 5.1 7.1*3
	このモードでは、Neo:6を使って5.1チャンネルソースを6.1チャンネルまたは7.1チャンネルで再生します。	5.1ch	7.1*3
Audyssey DSX*8 *AudysseyDSX* *PLⅡ Mov DSX* *PLⅡ Mus DSX* *PLⅡ Gam DSX* *Neo:6 C DSX* *Neo:6 M DSX*	Audyssey DSX™は、5.1chシステムに新しいチャンネルを加えることにより、サラウンドの効果を高めるシステムです。臨場感あるサラウンド再生のためには、従来の5.1chシステムにフロントワイドチャンネルを追加することが最も効果的です。次に効果的であるのが、フロントハイチャンネルの追加です。また、DSXはこれらの新しいチャンネルの追加に加え、Surround Envelopment Processing技術によって、サラウンドチャンネルとフロントチャンネルのサラウンド感のつながりを向上させています。	5.1ch 7.1ch DTS-ES	7.1
	Dolby Pro Logic IIとAudyssey DSXを組み合わせたモードが使えます。	STEREO	7.1
	Neo:6 Cinema/MusicとAudyssey DSXを組み合わせたモードが使えます。	STEREO	7.1

リスニングモード	説明	入力ソース	スピーカーの配置
THX THX Cinema THX Music THX Games THX S2 Cin THX S2 Mus THX S2 Gam THX Surr EX	ルーカスフィルム（Lucasfilm）社が提唱する、劇場用音響の品質規格です。映画制作者のニュアンスを劇場で忠実に伝えきるために、レベルやノイズ/残響音/音響機材/スピーカーの設置位置など、厳格な品質基準が設けられています。全世界で5,000を超える劇場が認可され、音響品質の高い映画館の代名詞とさえ言われます。 THXモードは、ホームシアター環境での再生のために、音質上・空間上のサウンドトラック特性を丁寧に最適化します。マトリックスエンコードされた、2チャンネルソースやマルチチャネルソースで使用することができます。サラウンドバックの音声は、ソースや選択するリスニングモードによって異なります。 • THX Cinema（シネマ） このモードは、映画館のような広い場所で再生することを想定して録音編集された、劇場用映画などのサウンドトラックを、ホームシアター環境で再生するためのモードです。このモードでは、THX Loudness（ラウドネス）が劇場レベルに設定され、Re-EQ、ティンバー・マッチング（Timbre Matching）、アダプティブ、デコリレーション（Adaptive Decorrelation）がアクティブになります。 • THX Music（ミュージック） このモードは、主として映画よりも明らかに高レベルにマスタリングされている音楽を聴くために調整されています。このモードでは、THX Loudness Plus（プラス）が音楽再生のために設定され、ティンバー・マッチング（Timbre Matching）のみがアクティブになります。 • THX Games（ゲーム） このモードは、ゲームの音声を空間的に忠実に再生するためのモードで、多くの場合、映画と同じミキシングがされますが、小規模な環境のためのモードです。THX Loudness Plusがゲームの音声のレベルに応じて設定され、ティンバー・マッチング（Timbre Matching）がアクティブになります。	5.1ch 7.1ch DTS-ES	5.1 7.1
	Dolby（ドルビー） Pro（プロ） Logic（ロジック） II/IIxとTHX Cinema/Music/Gamesを組み合わせたモードが使えます。	STEREO 5.1ch DD EX	5.1 7.1
	Dolby Pro Logic IIz Height（ハイト）とTHX Cinema/Music/Gamesを組み合わせたモードが使えます。	STEREO 5.1ch 7.1ch DTS-ES DD EX	7.1
	DTS Neo（ネオ）:6とTHX Cinema/Music/Gamesを組み合わせたモードが使えます。	STEREO 5.1ch 7.1ch DD EX	5.1 7.1
	• THX Select（セレクト）2 Cinema 5.1チャンネルで収録された音楽や映画を、7.1チャンネルで再生できます。再生するサラウンド成分を分析し、雰囲気や方向感を最適化するよう、サラウンドバックに振り分けます。横と後方の広がりと定位感をさらに高めます。 • THX Select2 Music このモードは、5.1チャンネルで収録された音楽ソースを、7.1チャンネルで再生使用できるように設計されています。 • THX Select2 Games このモードは、5.1チャンネルで収録されたゲームソースを、6.1チャンネルまたは7.1チャンネルで再生使用できるように設計されています。 • THX Surround（サラウンド） EX ドルビーラボラトリーズ社とTHX社で共同開発された、ホームシアター用フォーマットです。ドルビーデジタルEXの技術で従来の左右フロント、センター、左右サラウンド、サブウーファーの各チャンネルに加えて、視聴者の背後に新たな音場を作り出し、総計7.1チャンネルとなります。	5.1ch 7.1ch	7.1

オンキヨー独自のDSPリスニングモード

リスニングモード	説明	入力ソース	スピーカーの配置
Orchestra Orchestra	クラシックやオペラに適したモードです。 音声イメージが全体に広がるような、サラウンド感を強調する効果があります。大ホールで聴いているような自然な響きが楽しめます。	MONO STEREO 5.1ch DTS-ES DD EX	5.1 7.1 *9
Unplugged Unplugged	アコースティックやボーカル、ジャズなどに適したモードです。フロントの音場イメージを重視することで、あたかもステージの前で聴いているような音場イメージを作ります。		
Studio-Mix Studio–Mix	ロック、ポピュラーミュージックなどに適したモードです。パワフルな音響イメージを再現した、臨場感あふれるサウンドをお楽しみいただけます。		
TV Logic TV Logic	放送局のスタジオから放映されているテレビ放送に適したモードです。局のスタジオにいるような臨場感を高めます。すべてのサラウンド音声を強調し、会話音声を明瞭にします。		
Game-RPG Game–RPG	RPG（ロールプレイングゲーム）を楽しんでいるときに適したモードです。		
Game-Action Game–Action	アクションゲームを楽しんでいるときに適したモードです。		
Game-Rock Game–Rock	ロックゲームを楽しんでいるときに適したモードです。		
Game-Sports Game–Sports	スポーツゲームを楽しんでいるときに適したモードです。		
All Ch Stereo All Ch St	BGMとして音楽をかけるときに便利なモードです。フロントだけでなく、サラウンドからもステレオの音声を再生し、ステレオイメージを作ります。	MONO STEREO 5.1ch 7.1ch DTS-ES DD EX	3.1 5.1 7.1 *9
Full Mono Full Mono	すべてのスピーカーからモノラル音声で再生されます。どの場所にいても同様の音楽を聴くことができます。		
T-D (Theater-Dimensional) T–D	2つまたは3つのスピーカーで、あたかもマルチチャンネルサラウンド再生しているような、バーチャル再生をお楽しみいただけます。左右それぞれの耳に届く音声の特性を、制御することによって実現しています。反射音成分が大きいと期待した効果が得られない場合があるため、できるだけ反射音の少ない環境をおすすめします。		2.1 3.1 5.1 7.1

ご注意

*1 ソースに含まれる音声チャンネルに対応したスピーカーから音声が出ます。
*2 サラウンドバックスピーカーとフロントワイドスピーカーには対応していません。
*3 フロントハイスピーカーとフロントワイドスピーカーには対応していません。
*4 ブルーレイディスクの場合は、3.1チャンネルまたは5.1チャネルのスピーカー構成でDolby Digitalになります。
*5 本機は**HDMI IN**端子からのDSD信号入力に対応していますが、接続するプレーヤーによっては、プレーヤー側の出力設定をPCMに設定したほうが、よい音声を得られることがあります。その場合は、プレーヤー側の設定をPCM出力にしてください。
*6 ソースによってはDTSになります。
*7 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、DTSになります。
*8 • 以下の条件をすべて満たす場合に選択できます。
  a. センタースピーカーが本機に接続されている
  b. フロントハイスピーカーまたはフロントワイドスピーカーが本機に接続されている
  • リモコンの **SP LAYOUT**ボタンで、フロントハイスピーカーまたはフロントワイドスピーカーが選べます。ただし、「スピーカー詳細設定」（➔ 40）に依存します。
*9 リモコンの**SP LAYOUT**ボタンで、フロントハイスピーカー、フロントワイドスピーカーまたはサラウンドバックスピーカーが選べます。ただし、「スピーカー詳細設定」（➔ 40）に依存します。

• 入力信号によっては選べないことがあります。

設定をする（応用編）

OSD セットアップメニュー

操作画面は、本機とHDMI接続しているテレビのみに表示されます。本機とテレビをコンポーネントビデオ/D4ビデオ、ビデオ端子接続している場合は、本体表示部を見ながら操作してください。

この取扱説明書では、特に指定のない限り、リモコンを使った手順を説明しています。

① **入力/出力端子の割り当て**
(➔ 38)

② **スピーカー設定**
(➔ 40)

③ **音の設定・調整**
(➔ 43)

3. 音の設定･調整
1. 多重音声/モノラル
2. Dolby
3. DTS
4. Audyssey DSX
5. Theater-Dimensional
6. LFEレベル

④ **入力ソースの設定**
(➔ 45)

4. 入力ソースの設定
1. Audyssey
2. インテリボリューム
3. A/Vシンク
4. セレクタ名変更
5. 画質調整

⑤ **リスニングモードプリセット（➔ 49）**

5. リスニングモードプリセット
1. BD/DVD
2. VCR/DVR
3. CBL/SAT
4. GAME
5. PC
6. AUX
7. TUNER
8. TV/CD
9. PORT

⑥ **その他**
(➔ 50)

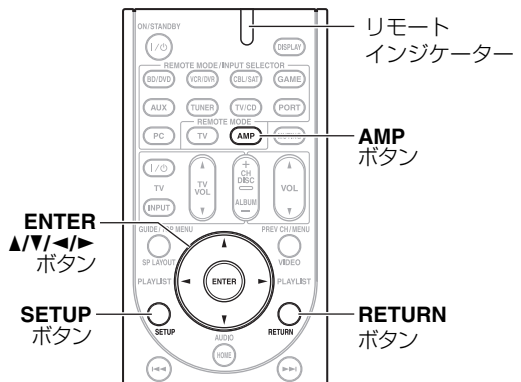
6. その他
1. ボリューム設定
2. OSD設定

⑦ **ハードウェア設定**
(➔ 50)

7. ハードウェア設定
1. リモコンID
2. HDMI

⑧ **リモコン設定**
(➔ 59)

⑨ **ロック設定**
(➔ 52)

設定メニューの全般的な操作手順

接続したテレビ画面に設定メニューが表示されます。本機の各種設定を変更できる、便利なメニューです。設定項目は、メインメニューで9カテゴリーに分けられています。画面に表示されたメニューを使って設定を行います。

1 **AMPボタンを押したあと、SETUPボタンを押す**

以下のメインメニューが表示されます。

ヒント

- メインメニューが表示されないときは、テレビに適切な外部入力接続がされていることを確認してください。

2 **▲/▼ボタンを押してメニューを選び、ENTERボタンを押す**

3 **▲/▼ボタンを押して設定項目を選び、ENTERボタンを押す**

4 **▲/▼ボタンを押して設定オプションを選び、◄/►ボタンで設定を変更する**

SETUPボタンを押すと、設定を終了します。
RETURNボタンを押すと、前のメニューに戻ります。

ご注意

- 本体の**SETUP**ボタン、▲/▼/◄/►ボタン、**ENTER**ボタンでも操作することができます。
- 自動スピーカー設定中にテレビ画面に表示されるメッセージなどは、本機の表示部にも表示されます。

このセクションのみかた

①選択メニュー
②設定項目
③設定オプション（初期設定値は下線付き表示）

入力/出力端子の割り当て

メインメニュー　1. 入力/出力端子の割り当て

モニター映像出力

ご使用になるテレビに対応した解像度に、必要に応じて本機で変換して出力します。

■解像度

本機が映像を変換して、出力する映像の解像度を設定します。お手持ちのテレビに合わせて設定してください。

- スルー ：
  入力信号の解像度とおなじ解像度で、本機で変換しないでそのまま出力する場合に選択します。
- 自動 ：
  テレビに対応した解像度に合わせて、自動で変換する場合に選択します。
- 480p ：
  480pの解像度で出力する場合、あるいは480pに変換して出力する場合に選択します。
- 720p ：
  720pの解像度で出力する場合、あるいは720pに変換して出力する場合に選択します。
- 1080i ：
  1080iの解像度で出力する場合、あるいは1080iに変換して出力する場合に選択します。
- 1080p ：
  1080pの解像度で出力する場合、あるいは1080pに変換して出力する場合に選択します。

HDMI入力

HDMI IN 1 ～ **5** 端子に、HDMI 出力端子のあるブルーレイディスク /DVD プレーヤーなどを接続しているときに設定します。
たとえば、ブルーレイディスク /DVD プレーヤーを本機の **HDMI IN 2** 端子に接続したときは、BD/DVD に「HDMI2」を割り当ててください。

HDMIケーブルで本機の**HDMI OUT**端子にテレビを接続し、ビデオ、D端子（またはコンポーネント）の各映像入力信号を変換して**HDMI OUT** 端子から出力するときは、「- - - - -」に設定してください。

ビデオ、D端子（またはコンポーネント）　HDMI

初期設定は以下のとおりです。

入力	初期設定
BD/DVD	HDMI1
VCR/DVR	HDMI2
CBL/SAT	HDMI3
GAME	HDMI4
PC	HDMI5[*1]
AUX	フロント（固定）
TUNER	- - - - -
TV/CD	- - - - -
PORT	- - - - -

■BD/DVD, VCR/DVR, CBL/SAT, GAME, PC, TUNER, TV/CD, PORT

- HDMI1, HDMI2, HDMI3, HDMI4, HDMI5 ：
  映像機器を**HDMI IN 1**～**5**端子に接続した場合に選びます。
- - - - - -:
  ビデオ、D端子（またはコンポーネント）に入力された各映像信号を、変換して**HDMI OUT**端子から出力するときに選びます。また、ビデオ端子からの映像信号を変換する場合に、コンポーネントビデオ端子の設定も「- - - - -」にする必要があります（➔ 39）。

*1 ご使用のパソコンを**PC IN**端子に接続し、**PC**入力切換ボタンを選ぶと、**HDMI OUT**端子からパソコンの映像が出力されます。**HDMI IN**端子よりも**PC IN**端子からの入力を優先させる場合は、**PC**の設定を「- - - - -」にする必要があります。

- 入力にAUXを選んだときは、「**フロント**」に固定となります。
- **HDMI IN**の各入力端子に割り当てできる入力は1 つまでです。すでにHDMI1 ～ HDMI5まで割り当てられているときは、他の入力に割り当てることはできません。そのうちの使わない入力に「- - - - -」を設定してから、割り当ててください。

ご注意

- 「**テレビ連動**」の設定が「**オン**」のときは、**HDMI IN**端子に接続された機器を、**TV/CD** 入力に割り当てないでください（➔ 52）。適切なRIHD連動操作の保証ができなくなります。
- ビデオ、D端子（またはコンポーネント）に入力された各映像信号をHDMIに変換する場合の映像信号の流れや、変換に関する詳細は「映像接続のしくみ」をご覧ください（➔ 22）。
- **HDMI IN 1**～ **5**を設定した入力には、自動的に同じHDMI 1～5のデジタル音声入力が割り当てられます（➔ 39）。
- iPodをセットしたiPodドックUP-A1を**UNIVERSAL PORT**端子に接続している場合は、PORT入力に入力端子を割り当てることができません。

コンポーネント映像入力

D4 VIDEO IN 端子または **COMPONENT VIDEO IN** 端子にブルーレイディスク /DVD プレーヤーなどを接続しているときに設定します。たとえば **COMPONENT VIDEO IN 2** 端子にブルーレイディスク /DVD プレーヤーを接続した場合、BD/DVD を「IN2」に設定します。ここで設定した映像入力端子からの映像が、**D4 VIDEO OUT** 端子または**COMPONENT VIDEO OUT**端子から出力されます。
初期設定は以下のとおりです。

入力	映像入力端子の初期設定
BD/DVD	IN1
VCR/DVR	- - - - -
CBL/SAT	IN2
GAME	- - - - -
PC	- - - - -
AUX	- - - - -
TUNER	- - - - -
TV/CD	- - - - -
PORT	- - - - -

■ BD/DVD, VCR/DVR, CBL/SAT, GAME, PC, AUX, TUNER, TV/CD, PORT

▶ IN1, IN2：
映像機器を**D4 VIDEO IN 1/2** 端子または **COMPONENT VIDEO IN 1/2** 端子に接続した場合に選びます。

▶ - - - - -:
映像機器をビデオ端子に接続した場合に選びます。映像信号は変換されて**HDMI OUT** 端子から出力されます。
ビデオ端子接続のみお使いの場合は、「- - - - -」に設定してください。

ご注意

- **D4 VIDEO IN**端子と**COMPONENT VIDEO IN**端子は内部で並列になるように設計されています。1つの系統に両方を接続しないでください。たとえば、**D4 VIDEO IN 1**端子に映像機器を接続した場合は、**COMPONENT VIDEO IN 1**端子には何も接続しないでください。
- iPodをセットしたiPodドックUP-A1を**UNIVERSAL PORT**端子に接続している場合は、PORT入力に入力端子を割り当てることができません。

デジタル音声入力

デジタル端子の接続は、ドルビーデジタルや DTS のリスニングモードを楽しむために必要です。各デジタル入力端子は、初期設定で以下の表のようにそれぞれの機器に割り当てられています。

- HDMI端子を割り当てた入力（➔ **38**）には、本項目の設定も自動的にHDMI端子が割り当てられますが、お好みで他のデジタル音声入力端子も割り当てることができます。
- 接続した機器が、デジタル入力端子の初期設定と異なる場合は、設定を変更する必要があります。
- 初期設定でデジタル端子が設定されている機器とアナログ接続のみをしたとき、設定を「- - - - -」にする必要があります。

たとえば、**OPTICAL IN 1**端子に、ブルーレイディスク /DVDプレーヤーなどを接続している場合、「**TV/CD**」に「**OPT1**（光入力）」を設定します。
初期設定は以下のとおりです。

入力	デジタル入力端子の初期設定
BD/DVD	COAX1（同軸入力）
VCR/DVR	- - - - -
CBL/SAT	COAX2（同軸入力）
GAME	OPT1（光入力）
PC	- - - - -
AUX	- - - - -
TUNER	- - - - -
TV/CD	OPT2（光入力）
PORT	- - - - -

■ BD/DVD, VCR/DVR, CBL/SAT, GAME, PC, AUX, TUNER, TV/CD, PORT

▶ **COAX1**（同軸入力）, **COAX2**（同軸入力）, **OPT1**（光入力）, **OPT2**（光入力）：
機器を接続している、デジタル音声入力端子に対応するデジタル音声入力を選びます。

▶ - - - - -:
機器が、アナログ音声入力に接続されている場合に選びます。

例：本機後面のDIGITAL IN OPTICAL1 端子にブルーレイディスク/DVDプレーヤーを接続した場合

BD/DVDのデジタル入力端子の初期設定は「**COAX1**（同軸入力）」のため、「**OPT1**（光入力）」に設定を変更します。

ブルーレイディスク/DVDプレーヤーとアナログ接続のみをした場合

BD/DVDのデジタル入力端子の初期設定は「**COAX1**（同軸入力）」のため、「- - - - -」に設定を変更します。
BD/DVD入力にHDMI入力が割り当てられている場合は、HDMI入力端子の設定を「- - - - -」に設定してください（➔ **38**）。

ご注意

- デジタル出力（光および同軸）から出力されるPCM信号のサンプリングレートは、32/44.1/48/88.2/96kHz/16、20、24ビットです。
- iPodをセットしたiPodドックUP-A1を**UNIVERSAL PORT**端子に接続している場合は、PORT入力に入力端子を割り当てることができません。

スピーカー設定

メインメニュー　2．スピーカー設定

この中の多くのメニューは、自動スピーカー設定（➔ 27）で自動設定されています。

自動スピーカー設定のあとに、使用するスピーカーを変更した場合や、手動で設定したい場合、自動スピーカー設定で設定された内容を確認するときに使用します。

ご注意

- ヘッドホンを接続している場合と、HDMI入力以外のときに「**テレビオーディオ出力**」設定を「**オン**」にして（➔ 51）、テレビから音声が出ている場合は、設定できません。

スピーカーセッティング

スピーカーインピーダンス設定は、自動スピーカー設定（➔ 27）を行う前に設定してください。

接続したスピーカーのインピーダンス（Ω（オーム））を設定します。
接続したスピーカーの中に、１台でも4Ω以上6Ω未満のスピーカーがある場合は、ここで設定してください。
ご使用になるスピーカーの背面や、取扱説明書で、インピーダンス（Ω）をご確認ください。

フロントスピーカーを、**FRONT（フロント） SPEAKERS（スピーカー）**端子と**SURR（サラウンド） BACK（バック） SPEAKERS**端子にバイアンプ接続している場合は、「**スピーカータイプ（フロント）**」を「**バイアンプ**」にしてください。
接続については、「バイアンプ接続をする」（➔ 17）を参照ください。

ご注意

- バイアンプ接続では最大5.1 ch（チャンネル） 再生になります。
- 設定を変更するときは、必ず本機の音量を最小にしてください。

■インピーダンス

- **4オーム**：
  接続したスピーカーの中に、１台でも４Ω以上６Ω未満のスピーカーがある場合に選択します。
- **6オーム**：
  接続したスピーカーが、すべて６Ω以上の場合に選択します。

■スピーカータイプ（フロント）

- **通常**：
  フロントスピーカーを、通常の方法で接続している場合に選びます。
- **バイアンプ**：
  フロントスピーカーを、バイアンプ接続している場合に選びます。

■スピーカーターミナルアサイン

フロントハイ/フロントワイド

この設定によって、**FRONT HIGH OR FRONT WIDE SPEAKERS**端子に接続するスピーカーを選びます。

- **フロントハイ**：
  フロントハイスピーカーを使用できます。
- **フロントワイド**：
  フロントワイドスピーカーを使用できます。

サラウンドバック/フロントハイ/フロントワイド

この設定によって、**SURR BACK OR FRONT HIGH OR FRONT WIDE SPEAKERS**端子に接続するスピーカーを選びます。

- **サラウンドバック**：
  サラウンドバックスピーカーを使用できます。
- **フロントハイ**：
  フロントハイスピーカーを使用できます。
- **フロントワイド**：
  フロントワイドスピーカーを使用できます。

ご注意

- 「**フロントハイ/フロントワイド**」設定で「**フロントハイ**」を選んでいる場合は、「**フロントハイ**」を選ぶことはできません。
- 「**フロントハイ/フロントワイド**」設定で「**フロントワイド**」を選んでいる場合は、「**フロントワイド**」を選ぶことはできません。

スピーカー詳細設定

自動スピーカー設定（➔ 27）を行った場合は、自動で設定されています。
各スピーカーの有り/無しや、クロスオーバー周波数などを設定します。

クロスオーバー周波数は、各チャンネルの低音域を、何Hz（ヘルツ）からサブウーファーで出力するかを設定しておくことができます。
サブウーファーを接続していないときには、フロントスピーカーが自動的に「**フルレンジ**」に設定され、他のチャンネルの低音域が、フロントスピーカーから出力されます。お手持ちのスピーカーの取扱説明書を参考に設定してください。
THX認証のスピーカーシステムを使用するときは、自動スピーカー設定を行っても、この設定で「80Hz(THX)」に設定し直してください。

■サブウーファー

- **有り**：
  サブウーファーを接続しているときに選びます。
- **無し**：
  サブウーファーを接続していないときに選びます。

■フロント

- フルレンジ
- 40Hz～80Hz(THX)～100Hz、120Hz、150Hz、200Hz

ご注意

- 「**サブウーファー**」設定を「**無し**」に設定している場合は、「**フロント**」設定は「**フルレンジ**」に固定されます。

■ センター *1, サラウンド*1, サラウンドバック*2*3*4*5

- フルレンジ
- 40Hz～80Hz(THX)～100Hz、120Hz、150Hz、200Hz
- 無し：
  スピーカーを接続していないときに選びます。

■ フロントワイド*1*2*4*6, フロントハイ*1*2*4*7

- フルレンジ
- 40Hz～80Hz(THX)～100Hz, 120Hz, 150Hz, 200Hz
- 無し：
  スピーカーを接続していないときに選びます。

ご注意

*1「**フルレンジ**」は、「**フロント**」設定で「**フルレンジ**」を選んでいるときしか選ぶことができません。
*2「**サラウンド**」設定を「**無し**」に設定しているときは、この設定を選ぶことはできません。
*3「**サラウンド**」設定を「**フルレンジ**」以外に設定しているときは、「**フルレンジ**」を選ぶことはできません。
*4「**スピーカータイプ（フロント）**」設定が「**バイアンプ**」に設定されている場合（➔ 40）は、この設定を選ぶことはできません。
*5「**サラウンドバック/フロントハイ/フロントワイド**」設定で、「**サラウンドバック**」以外を選んでいる場合は、この設定を選ぶことはできません。
*6「**フロントハイ/フロントワイド**」設定、または「**サラウンドバック/フロントハイ/フロントワイド**」設定で、「**フロントワイド**」以外を選んでいる場合は、この設定を選ぶことはできません。
*7「**フロントハイ/フロントワイド**」設定、または「**サラウンドバック/フロントハイ/フロントワイド**」設定で、「**フロントハイ**」以外を選んでいる場合は、この設定を選ぶことはできません。

■ サラウンドバックCh

- 1ch：
  接続したサラウンドバックスピーカーが 1 つの場合に選びます。（**SURR BACK SPEAKERS L**端子に接続してください。）
- 2ch：
  サラウンドバックスピーカーを2台（左右）接続している場合に選びます。

ご注意

- 「**サラウンドバック**」設定を「**無し**」に設定している場合は（➔ 41）、この設定を選ぶことはできません。

■ LFEローパスフィルタ（LFEチャンネルの低域フィルター）

- 80Hz, 90Hz, 100Hz, 120Hz

LFE（低域効果音）信号のローパスフィルターを設定すると、その設定値よりも低い周波数成分だけを通過させ、不要なノイズを削除することができます。ローパスフィルターは、LFEチャンネルを使っているソースにしか適用されません。

* THXの認証を受けたスピーカーシステムをご使用の場合は、「**80Hz**」を選んでください。

■ ダブルバス

ダブルバス機能を利用すると、左右フロントチャンネル、センターチャンネルの低音がサブウーファーに送られ、低音の出力が強調されます。

- オン：
  サブウーファーを強調します。
- オフ：
  サブウーファーを強調しません。

ご注意

- この機能は、「**サブウーファー**」設定が「**有り**」に、「**フロント**」設定が「**フルレンジ**」に設定されているときに設定できます。

* THXの認証を受けたスピーカーシステムをご使用の場合は、「**オフ**」を選んでください。

スピーカー距離

自動スピーカー設定（➔ 27）を行った場合は、自動で設定されています。

視聴位置からスピーカーまでの距離を設定します。距離を設定することで、それぞれのスピーカーから視聴位置までの、音の届く時間を一定にし、ホームシアターをより快適にお楽しみいただけます。

■ 単位

- メートル：
  距離をメートルで設定できます。指定可能な範囲：0.3 メートル単位で、**0.3m～9.0m**
- フィート：
  距離をフィートで設定できます。指定可能な範囲：1 フィート単位で、**1ft～30ft**

■ フロント左, フロントワイド左, フロントハイ左, センター , フロントハイ右, フロントワイド右, フロント右, サラウンド右, サラウンドバック右, サラウンドバック左, サラウンド左, サブウーファー

- 各スピーカーと視聴位置の距離を指定します。

ご注意

- ヘッドフォンを接続しているときは、スピーカーの距離設定を変更できません。
- スピーカーの設定で「**無し**」に設定したスピーカー（➔ 40）は選ぶことができません。

スピーカー音量レベル

自動スピーカー設定（➔ 27）を行った場合は、自動で設定されています。

各スピーカーからのテスト音の音量が、同じに聴こえるように、それぞれのスピーカーの音量レベルを設定します。スタンバイ状態にしても記憶しています。

■ フロント左, フロントワイド左, フロントハイ左, センター *1, フロントハイ右, フロントワイド右, フロント右, サラウンド右, サラウンドバック右, サラウンドバック左, サラウンド左

- 1dB単位で−12 dB～0 dB～+12 dB

■ サブウーファー *1

- 1dB単位で−15 dB～0 dB～+12 dB

ご注意

- スピーカーの設定で「**無し**」に設定したスピーカー（➔ **40**）は選ぶことができません。
- ミューティング中やヘッドホンを接続しているときは、設定できません。
- 本機はTHX対応機種ですので、テスト音は標準レベルの0dB（絶対値の場合は82）で出力されます。
  通常お聴きになっている音量が小さい場合は、突然大きな音になりますのでご注意ください。

*1　センタースピーカーとサブウーファーについては、ホームメニューで設定した音量が保存されます。

イコライザ設定

> 自動スピーカー設定（➔ **27**）を行った場合は、自動で設定されています。

接続したスピーカーごとに、出力する音域の音量を調整できます。各スピーカーの音量は**41**ページの方法でも調整できます。
ここでは、それぞれのスピーカーの音域別で音量を調整します。

■イコライザ

▶**手動**：

イコライザはスピーカーごとに手動で調節できます。「**手動**」を選んだ場合は、以下の手順を実行してください。

1 **▼ボタンを押して「設定チャンネル」を選んだあと、◄/►ボタンでスピーカーを選ぶ**

2 **▲/▼ボタンを使って周波数を選んだあと、◄/►ボタンを使ってその周波数の音量を調節する**

各周波数の音量は、−6 dB〜<u>0dB</u>〜+6 dBの範囲で、1dB単位で調節できます。

ヒント

- 低域の周波数（63Hzなど）で低音の調節を、高域の周波数（16000Hzなど）で高音の調節を行います。

3 **▲ボタンを使って「設定チャンネル」を選んだあと、◄/►ボタンを使って別のスピーカーを選ぶ**

各スピーカーに対して手順1と2を行います。
スピーカーの設定（➔ **40**）で「**無し**」に設定したスピーカーは、設定できません。

▶Audyssey：

自動スピーカー設定で設定された音場設定になります。自動スピーカー設定を行ってから選択してください。「**Dynamic EQ**」/「**Dynamic Volume**」を「**オン**」にすると自動的に「**Audyssey**」が選ばれます（➔ **45**）。
Audyssey表示が点灯します（➔ **10**）。

▶<u>**オフ**</u>：

すべての音域で同じ音場設定になります。

ご注意

- 「**63Hz**」「**250Hz**」「**1000Hz**」「**4000Hz**」「**16000Hz**」のいずれかを選ぶことができます。サブウーファーについては、「**25Hz**」「**40Hz**」「**63Hz**」「**100Hz**」「**160Hz**」のいずれかを選びます。
- DirectとPure Audioのリスニングモードのときは、効果がありません。
- 入力音源またはリスニングモードの設定によっては、望ましい効果を得ることができないことがあります。

THXオーディオ設定

以下の設定を行えます。

1. サラウンドバックスピーカーの間隔を指定できます。
2. THX認証のサブウーファーを使用しているときは、このページで説明している「**THX Ultra2/Select2 Subwoofer**」を「**有り**」に設定してください。「**有り**」に設定すると、THXのBoundary Gain Compensation（BGC-境界利得補正）を設定できるようになります。
   壁ぎわなど、部屋の境界のすぐ近くに座っている視聴者には、低い周波数が強調されます。BGCはこれを補正する機能です。
3. THX Loudness Plusを設定できます。「**Loudness Plus**」設定を「**オン**」にすると、低音量で、音声表現の微妙なニュアンスを楽しめるようになります。THXリスニングモードを選択しているときに利用できます。

■サラウンドバックスピーカー間距離

▶<0.3m：

2つのサラウンドバックスピーカー間の距離が0〜30cmの場合に選びます。

▶0.3m - 1.2m：

2つのサラウンドバックスピーカー間の距離が0.3〜1.2mの場合に選びます。

▶<u>>1.2m</u>：

2つのサラウンドスピーカー間の距離が1.2mを超える場合に選びます。

ご注意

- 「**サラウンドバックCh**」を「**1ch**」に設定している場合（➔ **41**）、「**スピーカータイプ（フロント）**」を「**バイアンプ**」に設定している場合（➔ **40**）、「**サラウンドバック**」を「**無し**」に設定している場合（➔ **41**）は、設定できません。

■THX Ultra2/Select2 Subwoofer

▶<u>**無し**</u>：

THXの認証を受けたサブウーファーを接続していない場合に選びます。

▶**有り**：

THXの認証を受けたサブウーファーを接続している場合に選びます。

ご注意

- 「**サブウーファー**」設定を「**無し**」に設定している場合は、この設定を選ぶことはできません（➔ **40**）。

■BGC

BGC（境界利得補正）を使用すると、窓際など部屋の境界部で視聴者が観賞している場合、低い周波数が強調されるのを補正することができます。

- **オフ**：
  BGC効果をオフにします。
- **オン**：
  BGC効果をオンにします。

ご注意

- この設定は、「**THX Ultra2/Select2 Subwoofer**」を「**有り**」に設定しているときだけ設定できます。

■Loudness Plus

- **オフ**：
  Loudness Plus効果をオフにします。
- **オン**：
  Loudness Plus効果をオンにします。

■THX設定優先

- **有り**：
  THXリスニングモードにAudyssey Dynamic EQ ®/Audyssey Dynamic Volume™が働きません。
- **無し**：
  THXリスニングモードにAudyssey Dynamic EQ/Audyssey Dynamic Volumeが設定により働きます。

ご注意

- 「**Loudness Plus**」を「**オン**」に設定している場合、この設定は「**有り**」に固定されます。

THX Loudness Plus
THX Loudness Plusは、THX Ultra2 Plus™およびTHX Select2 Plus™認定のレシーバーに搭載された、新しいボリュームコントロール技術です。THX Loudness Plusを使用すると、ホームシアターの視聴者はどんなボリュームレベルでも、豊かで繊細なサラウンド効果を体験できます。
ボリュームをリファレンスレベル（基準レベル）よりも下にすると、一定レベルのサウンドエレメント（音質要素）が失われたり、視聴者によって違う感じに聴こえたりします。
THX Loudness Plusはボリュームを下げたときに発生する音質上・空間上の変化を周囲のサラウンドチャンネルレベルと周波数レスポンスをインテリジェントに調整することで補います。
このことにより、ユーザーはボリューム設定に関係なくサウンドトラックのインパクトを忠実に体験することができます。THX Loudness Plusは、どのTHXリスニングモードで聴いているときでも自動的に設定されます。新しく開発されたTHX Cinema、THX Music、THX Gamesのモードは、コンテンツのタイプに応じて、THX Loudness Plusの設定が適切に適用されるように調整されています。

音響効果を調整する

メインメニュー　3. 音の設定・調整

リスニングモードや接続した機器によって、音響効果をお好みに調整しておくことができます。

多重音声/モノラル

■多重音声

入力チャンネル

多重音声や多重言語の放送などで、音声や言語を選択します。**DISPLAY**ボタンを押して、表示部に音声の数が「1+1」と表示されたら、音声多重放送です。

- **主**：
  主音声を出力します。
- **副**：
  副音声を出力します。
- **主/副**：
  主音声と副音声の両方を出力します。

■モノラル

入力チャンネル

2チャンネルで収録された、ドルビーデジタルなどのデジタル信号やアナログ/PCM信号を、Monoリスニングモードで再生するときに使用する、信号チャンネルを設定します。

- **左+右**：
  左右チャンネルの信号を両方再生します。
- **左**：
  左チャンネルの信号を再生します。
- **右**：
  右チャンネルの信号を再生します。

出力スピーカー

この設定では、Monoリスニングモード選択時にどのスピーカーからモノラル音声を出力するか設定します。

- **センター**：
  センタースピーカーからモノラル音声が出力されます。
- **左/右**：
  左右のフロントスピーカーからモノラル音声が出力されます。

ご注意

- 「**センター**」設定を「**無し**」に設定している場合は（➔ **41**）、この設定は「**左/右**」に固定されます。

Dolby（ドルビー）

■PLIIx Music（2ch入力）

２チャンネルで記録された、ドルビーデジタルなどのデジタル信号やアナログ/PCM信号を、「PLIIx Music」リスニングモードで再生するときの設定をします。
サラウンドバックスピーカーを接続していない場合、「PLIIx」は「PLII」と表示されます。

Panorama

▸ **オン**：
パノラマ効果をオンにします。

▸ **オフ**：
パノラマ効果をオフにします。

音場を横方向に広げることができます。

Dimension

▸ **−3〜0〜+3**

音場を前方または後方へ移動させることができます。「0」を中心に、「−1」、「−2」、「−3」にすると前方へ、「+1」、「+2」、「+3」にすると後方へ移動します。広がり感がありすぎたり、サラウンドが強すぎる場合は、音場を前方に調整すると、バランスが良くなります。逆にモノラル感や音場が狭い感じの場合は、音場を後方に調整すると、バランスが良くなります。

Center Width

▸ **0〜3〜7**

センタースピーカーの音の広がり幅を調整することができます。Dolby Pro（プロ） Logic（ロジック） IIxでは、センタースピーカーがある場合は、センターチャンネルの信号をセンタースピーカーからのみ出力します。（センタースピーカーがない場合は、左右フロントスピーカーに等分に振り分け、幻想のセンター音像を作ります。）この設定では、センタースピーカーと左右フロントスピーカーの配合を調整し、センターの音の重量感を調整することができます。

■PLIIz Height Gain

Pro Logic IIz Heightリスニングモード使用時の、フロントハイスピーカーからの出力レベルを調整することができます。「弱」「中」「高」の３つの設定値があり、順にフロントハイスピーカーからの出力が強調されます。

▸ **弱**：
弱出力レベルになります。

▸ **中**：
中出力レベルになります。

▸ **高**：
高出力レベルになります。

ご注意

- 「**サラウンドバック/フロントハイ/フロントワイド**」設定と「**フロントハイ/フロントワイド**」設定で「**フロントハイ**」以外に設定（➔ **40**）している場合、この設定は「**中**」に固定されます。

■Dolby EX

サラウンドバックスピーカーを接続していないときは、設定できません。この設定は、ドルビーデジタルとドルビーデジタルプラス、ドルビー TrueHD（トゥルー）にのみ効果があります。

Dolby EX

▸ **自動**：
Dolby EX識別信号があるときは、Dolbyのリスニングモードは Dolby Digital（デジタル） EX、THXのリスニングモードはTHX Surround（サラウンド） EX が選べます。

▸ **手動**：
使用可能な任意のリスニングモードを選ぶことができます。

ご注意

- 「**サラウンドバック**」設定を「**無し**」に設定している場合は（➔ **41**）、この設定を選ぶことはできません。
- 「**フロントハイ/フロントワイド**」設定と「**サラウンドバック/フロントハイ/フロントワイド**」設定で、「**フロントハイ**」または「**フロントワイド**」を選んでいる場合は、この設定は「**手動**」に固定されます（➔ **40**）。

DTS

■Neo:6 Music

Center Image

▸ **0〜2〜5**

「Neo:6 Music」は、2 チャンネルで収録されたソースを、6チャンネルで再生するリスニングモードで、左右フロントチャンネルからいくらか差し引いた音声を使って、センターチャンネルの音声を作り出します。
フロント音場の広がり感を調整することができます。
「0」に設定すると，フロント音場が中央寄りになり，「5」に設定するとフロント音場が左右に広がります。

Audyssey（オーディシー） DSX

■Soundstage（サウンドステージ）

▸ **−3dB、〜Reference（リファレンス）〜+3dB**

Audyssey DSX™リスニングモードを使用したときの、音場を調整します。

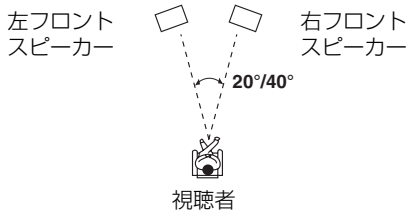
ご注意

- 「**センター**」設定を「**無し**」に設定している場合や、「**フロントハイ**」設定と「**フロントワイド**」設定をどちらも「**無し**」に設定している場合は（➔ **41**）、この設定を選ぶことはできません。

Theater-Dimensional

■ **リスニングアングル**

- **広い**：
  リスニング角度が広い場合（40°）に選びます。
- **狭い**：
  リスニング角度が狭い場合（20°）に選びます。

Theater-Dimensionalリスニングモードでの最適な視聴角度を設定します。視聴位置からの左右スピーカーの角度を設定します。

LFEレベル

■ **Dolby Digital*1, DTS*2, AAC, マルチチャンネルPCM, Dolby TrueHD, DTS-HD Master Audio, DSD*3**

- －∞ dB、－20 dB、－10 dB、0dB

各入力信号の低域効果（LFE）レベルを設定します。
Dolby Digital、DTS、AAC、マルチチャンネルPCM、Dolby TrueHD、DTS-HD Master Audio、DSD信号の設定ができます。
低域効果音が強調されすぎる場合は、－20dBや－∞dBを選んでください。

ご注意

*1 Dolby DigitalとDolby Digital PlusのソースのLFEチャンネルの音量を設定します。
*2 DTSとDTS-HD High ResolutionのソースのLFEチャンネルの音量を設定します。
*3 DSD（Super Audio CD）ソースのLFEチャンネルの音量を設定します。

入力ソースの設定

本機に接続した複数の機器間で、音量差の調整、あるいは映像が音声より遅れる場合の補正ができます。
項目は、入力セレクターごとに個別に設定できます。

準備
調整したい入力を入力切換ボタンで選び、接続機器を再生してください。

Audyssey

自動スピーカー設定が完了すると、「**イコライザ**」設定が「**Audyssey**」（➔ 42）に、「**Dynamic EQ**」が「**オン**」に設定されます。

■ **Dynamic EQ**

- **オフ**：
  Audyssey Dynamic EQ®機能をオフにします。
- **オン**：
  Audyssey Dynamic EQ機能をオンにします。
  Dynamic EQ表示が点灯します（➔ 10）。

小音量再生のときでも充分な音声を楽しむことができます。部屋の特性やソースの音量、人間の聴覚特性などを考慮しながら、周波数特性の補正を行います。

ご注意

- DirectとPure Audioのリスニングモードのときは、設定できません。

■ **Reference Level**

- **0dB**：
  映画鑑賞に適しています。
- **5dB**：
  クラシック音楽など、とても広いダイナミックレンジを持つソースに適しています。
- **10dB**：
  ジャズや様々な音楽など、広いダイナミックレンジを持つコンテンツに適しています。また、通常基準レベルより10dB低くミックスされた、テレビ番組にも適しています。
- **15dB**：
  ポップス/ロック音楽など、高いリスニングレベルでミックスされ、限られたダイナミックレンジを持つソースに適しています。

映画は、音響の影響を考慮して調整された環境で、基準レベルでミキシングされます。
ホームシアターで同じ基準レベルで楽しむためには、スピーカーの音量レベル（Level Cal設定値）を－30dB FSの帯域制限（500Hz～2000Hz）されたピンクノイズで、75dBの音圧が視聴位置で聴こえるように調整する必要があります。
Audyssey 2EQは、音量が70のときに基準レベルで再生されるように、自動的にスピーカーレベルを調整します。Audyssey Dynamic EQは、映画の標準ミキシングレベルを基準にしていますので、音量を70よりも下げたときでもオリジナルの周波数特性と、サラウンド感が得られるように、自動的に調整することができます。
しかし、音楽またはフィルム以外のソースの場合は、映画の基準レベルが適切というわけではありません。
Reference Levelは映画の基準レベルが使われていないソースにも対応できるように、3種類のオフセットモードを用意しています。

ご注意

- 「**Dynamic EQ**」設定を「**オフ**」に設定している場合は、この設定は選べません。

■Dynamic Volume

▸オフ：

Audyssey Dynamic Volume™機能をオフにします。

▸ライト：

低圧縮モードが適用されます。

▸ミディアム：

標準圧縮モードが適用されます。

▸ヘビー：

高圧縮モードが適用されます。この設定がボリュームに一番大きな影響を与え，再生中の音量差が小さくなります。

ご注意

- 自動スピーカー設定（➔ 27）が完了したあとで、「**イコライザ**」設定を「**Audyssey**」以外に設定しても（➔ 42）、「**Dynamic EQ**」を「**オン**」に設定すると、「**イコライザ**」設定は「**Audyssey**」に設定されます。
- THXリスニングモードの使用中にAudyssey Dynamic Volumeを使いたい場合は、「**Loudness Plus**」設定を「**オフ**」に、「**THX設定優先**」設定を「**無し**」に設定します（➔ 43）。
- Dynamic Volumeを有効に設定すると、「**イコライザ**」設定は「**Audyssey**」に設定され（➔ 42）、「**Dynamic EQ**」も「**オン**」に設定されます。「**Dynamic EQ**」を「**オフ**」にすると「**Dynamic Volume**」も連動して「**オフ**」になります。
- 「**Dynamic Volume**」を有効にすると、**Dynamic Vol**表示が点灯します（➔ 10）。

ご注意

- DirectとPure Audioのリスニングモードのときは、設定できません。

Audyssey 2EQ®機能を使用することで、Audyssey Dynamic EQ ®機能を利用できるようになります。Audyssey Dynamic EQの働きにより、どの音量でも適切な音のバランスを保つことができます。
この機能を使用する前に、使用する全てのスピーカーを接続してください。

Audyssey Dynamic EQについて

Audyssey Dynamic EQ は、人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、音量レベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぐ技術です。
Dynamic EQ は、すべての音量変化に応じて自動的に最適な周波数特性とサラウンドレベルに補正します。その結果、どのように音量レベルを変更しても、常に最適な低域特性や音質バランス、サラウンド効果を維持することができます。正しい補正を行うために、入力されるソースの情報と、リスニングルームに出力される音圧レベル情報とを組み合わせています。
Dynamic EQ は、Audyssey 2EQ 技術と連動することにより、すべての音量レベルに対して最適なバランスの音質を、すべての視聴者に提供します。

Audyssey Dynamic Volumeについて

Audyssey Dynamic Volume は、テレビ番組やコマーシャル、映画などのコンテンツにおける静かな音のシーンと大きな音のシーンの間における、音量レベルの違いによって発生する問題を解決する技術です。
Dynamic Volume は、入力されるソースを常にモニターし、リスナーが設定した好みの音量レベルに常に自動的に調整することで、リスナーを音量調整の煩わしさから解放します。再生中のソースの中に含まれる特徴を正確にモニターし、音量の変化が急激であっても、緩やかな変化であってもソースの特徴に忠実に最適な音量値（リスナー設定値）に自動調整を行います。また、Dynamic Volume はAudyssey Dynamic EQ を取り込むことにより、音量レベルの調整時やテレビチャンネルの切り替え時、ステレオソースからサラウンドソースなどの切り替え時でも低域特性や音質バランス、サラウンド効果、台詞の明瞭さを維持しています。

インテリボリューム（機器間の音量差を調整する）

■インテリボリューム

▸1 dB単位で、－12 dB～0dB～+12 dB

本機に複数の機器を接続している場合、本機のボリューム位置が同じでも、機器によって再生するときの音量に差が出ることがあります。◄/►ボタンで調整してください。
他の機器と比べて、音量が大きい場合は◄ボタン、小さい場合は►ボタンを押して調整します。

A/Vシンク（映像遅延補正）

■A/Vシンク

▸10 msec単位で、0 msec～200 msec

映像が音声より遅れて再生されるようなとき、この設定で映像信号と音声信号を同期させることができます。
0 ～ 200msec（ミリセカンド）の範囲を 10msec ステップで、音声の遅延を調整することができます。再生される映像を見ながら調整します。**ENTER** ボタンを押して再生画面を表示し、◄/► ボタンで調整してください。
HDMI の「**リップシンク**」設定が「**有効**」（➔ 51）になっていて、お使いのテレビが HDMI リップシンク機能に対応している場合は、A/V シンクの設定時間が表示されます。HDMI リップシンクの遅延時間は括弧で表示されます。

ご注意

- A/Vシンク機能はPure Audioリスニングモードでは効果がありません。またアナログ入力信号をDirectリスニングモードで再生する場合も効果がありません。

セレクタ名変更（名前の編集）

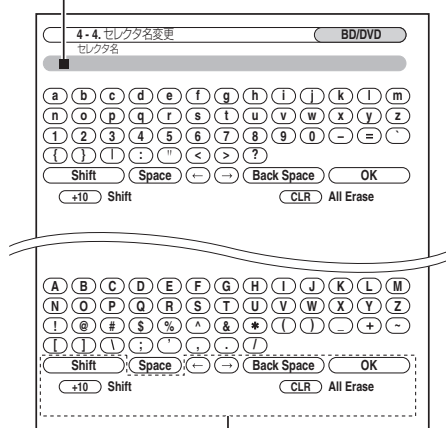
各入力切換に好きな名前を入力して、識別しやすいようにできます。入力した名前が表示部に表示されます。
指定した名前は文字入力画面で編集します。

準備
入力切換ボタンを押して入力ソースを選んでください。

■ セレクタ名

1 **▲/▼/◄/►ボタンを使って文字・記号を選び、ENTERボタンを押す。**
この操作を繰り返して、最大10文字まで入力します。

2 **入力が終わったら、忘れずに名前を保存する（▲/▼/◄/►ボタンを使って「OK」を選び、ENTERボタンを押す）**
この操作を行わないと名前は保存されません。

名前入力エリア

Shift*1：
表示する文字が切り換わります。
←（左）/→（右）：
名前入力エリア内でカーソルを移動するときに選びます。
BackSpace*2：
カーソルが1文字分うしろに移動します。それだけでなく、カーソルの左側の文字が削除されます。

ヒント
*1 リモコンの**+10**ボタンを押すことでも切り替わります。
*2 リモコンの**CLR**ボタンを押すと、入力したすべての文字を削除できます。

OK：
入力が完了したときに押します。

文字を訂正する方法

1 **▲/▼/◄/►ボタンを使って「←」（左）または「→」（右）を選び、ENTERボタンを押す**

2 **ENTERボタンを何度か押して、間違った文字を選ぶ（ENTERボタンを押すたびに、カーソルが1文字分移動する）**

3 **▲/▼/◄/►ボタンを使って正しい文字を選び、ENTERボタンを押す**

ご注意
- 名前を初期値に戻すには、各文字に空白のスペースを入力して設定した名前を消します。

画質調整

画質調整を使うと、画質を調整したり、画面上のノイズを減らすことができます。
設定しながらテレビの映像を確認するには、**ENTER**ボタンを押します。前の画面に戻るには、**RETURN**ボタンを押します。

■ ゲームモード

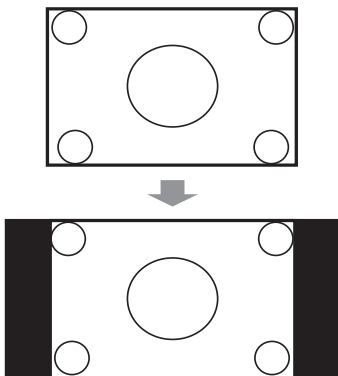
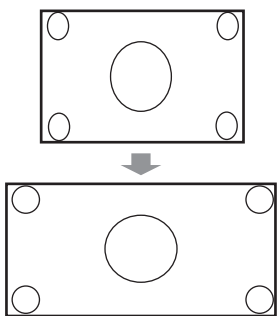
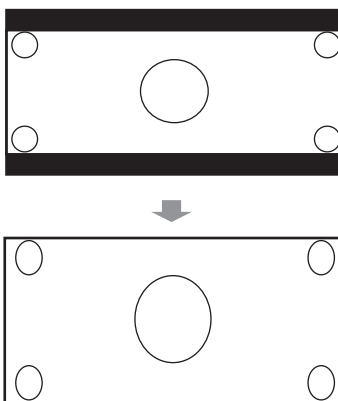
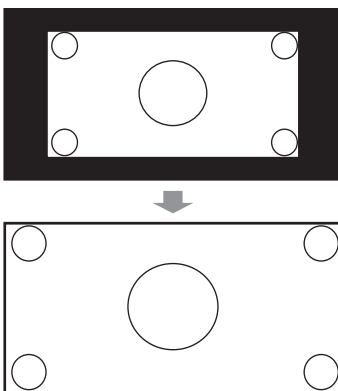
▸ **オフ**：
ゲームモードは無効になります。
▸ **オン**：
ゲームモードは有効になります。

ゲーム機など、本機に接続したビデオ機器の再生中に、ビデオ信号の遅延が発生する場合は、機器に接続した入力で、「**ゲームモード**」を選択して、「**オン**」に設定してください。遅延は改善しますが、画質は劣化します。

■ ワイドモード*1*2

この設定で、アスペクト比（縦横比）を設定します。

ご注意
- 「**ゲームモード**」を「**オン**」に設定している場合は、この設定は「**フル**」に固定されます。

▸ **4：3**：

▸ **フル**：

▸ **ズーム**：

▸ **ワイドズーム**：

▸ **自動**：

入力信号とモニター映像出力設定に従って、自動的に「**4：3**」、「**フル**」、「**ズーム**」、「**ワイドズーム**」のいずれかを選びます。モニター映像出力設定については「モニター映像出力」（➔ 38）をご覧ください。

■ピクチャーモード*1*2

▸ **スルー**：

以下の項目を全て初期値に設定します。

「**フィルムモード**」「**エッジエンハンスメント**」「**ノイズ低減**」「**明るさ**」「**コントラスト**」「**色合い**」「**彩度**」

▸ **カスタム**：

以下の項目を、好みに応じて、設定できます。

「**フィルムモード**」「**エッジエンハンスメント**」「**ノイズ低減**」「**明るさ**」「**コントラスト**」「**色合い**」「**彩度**」

▸ **Cinema**：

映像ソースが映画などの場合に選びます。

▸ **Game**：

ゲーム機を接続しているときに選びます。

ピクチャーモードでは、「**フィルムモード**」「**エッジエンハンスメント**」「**ノイズ低減**」「**明るさ**」「**コントラスト**」「**色合い**」「**彩度**」といった設定を、ワンタッチで映画やゲームの画面に適した設定に変更できます。

■フィルムモード*2

▸ **ビデオ**：

「**3:2**」プルダウン、「**2:2**」プルダウン処理を行いません。

▸ **自動**：

入力されたソースに合わせて、自動的に画質モードを選択します。

▸ **3:2**：

入力されたソースが映画フィルムなどのときに選択します。

▸ **2:2**：

入力されたソースが、コンピュータグラフィックスやアニメーションのときに選択します。

「**自動**」に設定することで、本機は自動的に映像ソースを判別し、映像ソースを合わせて「**3:2**」プルダウンもしくは、「**2:2**」プルダウンの処理を行い、映像ソースが持つ自然な質感を再現することができます。

また、映像ソースに合わせて本モードを「**3:2**」もしくは、「**2:2**」に設定することで、画質が改善することがあります。

ご注意

- 「**ゲームモード**」設定を「**オン**」に設定している場合は、この設定は「**ビデオ**」に固定されます。

■エッジエンハンスメント*2

▸ **0** ～+10

この設定で縁の鋭さを調整できます。

「**0**」は最もソフトになります。「**+10**」は最も鋭くなります。

■ **ノイズ低減**[*2]

▸ **オフ**：
  ノイズ低減機能　無効
▸ **弱**：
  ノイズ低減機能　低
▸ **中**：
  ノイズ低減機能　中
▸ **高**：
  ノイズ低減機能　高

この設定で画面に現れるノイズを低減することができます。

ご注意

- 「**ゲームモード**」設定を「**オン**」に設定している場合は、この設定は「**オフ**」に固定されます。

■ **明るさ**[*1*2]

▸ −50〜0〜+50
  この設定で画面の明るさを調整できます。
  「−50」は最も暗くなります。「+50」は最も明るくなります。

■ **コントラスト**[*1*2]

▸ −50〜0〜+50
  この設定で明暗の差を調整できます。
  「−50」は最もコントラストが弱くなります。
  「+50」は最もコントラストが強くなります。

■ **色合い**[*1*2]

▸ −20〜0〜+20
  この設定で画面の赤と緑のバランスを調整できます。
  「−20」は最も緑色が強くなります。「+20」は最も赤色が強くなります。

■ **彩度**[*1*2]

▸ −50〜0〜+50
  この設定で濃さを調整できます。
  「−50」は最も淡い色になります。「+50」は最も鮮やかな色になります。

ヒント

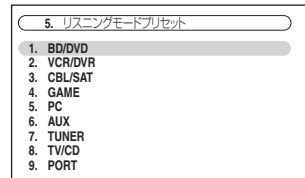
*1 この操作は、リモコンの**HOME**ボタンを使って行うこともできます（➔ 26）。
*2 初期設定値に戻したい場合は、リモコンの**CLR**ボタンを押してください。

リスニングモードのプリセット

入力される信号によって、お好みのリスニングモードを初期設定しておくことができます。
再生中にリスニングモードを切り換えることもできますが、一度スタンバイ状態にすると、設定されたリスニングモードに戻ります。

メインメニュー　5. リスニングモードプリセット

1 **▲/▼ボタンを使って設定したい入力ソースを選び、ENTERボタンを押す**

以下のメニューが表示されます。

2 **▲/▼ボタンを使って、設定したい信号の種類を選び、◄/►ボタンでリスニングモードを選ぶ**

選択できるリスニングモードは、設定する入力信号によって異なります。
「**最終値**」はリスニングモードを固定せず、最後に選択したモードを優先します。

▸ **アナログ/PCM**：
  CDなどのPCM信号や、レコード、カセットテープなどのアナログ信号を再生するときのリスニングモードを設定します。
▸ **モノラル/多重音声信号**：
  モノラル/多重音声信号で記録された、ドルビーデジタル、AACなどのデジタル信号を再生するときのリスニングモードを設定します。
▸ **2チャンネル信号**：
  2チャンネルで記録された、ドルビーデジタルなどのデジタル信号を再生するときのリスニングモードを設定します。
▸ **Dolby D/Dolby D +/TrueHD**：
  ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラスおよびドルビー TrueHD信号を再生するときのリスニングモードを設定します。
▸ **DTS/DTS-ES/DTS-HD**：
  DTS形式やDTS-HD High Resolution形式のデジタル音声信号（DVD、LD、CDなど）を再生するときに、使用するリスニングモードを指定できます。ブルーレイやハイビジョンDVD（HDMIで入力）などの、DTS-HD Master Audioソース用の既定のリスニングモードを指定します。
▸ **その他の音声フォーマット**：
  AAC、DVD-Audioなど、**HDMI IN**端子から入力される多重チャンネルPCMソース用の、既定のリスニングモードを指定します。スーパーオーディオCDのDSD信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

ご注意

- iPodをセットしたiPodドックUP-A1を**UNIVERSAL**（ユニバーサル） **PORT**（ポート）端子に接続している場合は、PORT入力に「アナログ」のみ割り当てることができます。

その他

メインメニュー　6. その他

ボリューム設定

■ボリューム表示

▸ **絶対値**：
最小･0･1…99･最大の範囲で表示します。

▸ **相対値（THX）**：
−∞ dB（デシベル）･−81dB･･････＋18dBの範囲で表示します。

ボリュームの表示方法を絶対値と相対値に切り換えることができます。
絶対値の音量82が相対値の0dBに相当します。

■ミュート時音量レベル

▸ 10dB単位で**−∞dB**、**−50dB**〜**−10dB**の範囲で設定できます。

ミューティング時の音量を、聴いている音よりどれだけ下げるか、設定しておくことができます（➔ **25**）。

■最大ボリューム値

▸ **オフ**、**50**〜**99**（絶対値表示）

▸ **オフ**、**−32dB**〜**+17dB**（相対値表示）

音量が大きくなり過ぎないように、音量の最大値を設定することができます。
この設定を無効にするには、「**オフ**」を選びます。

■電源オン時ボリューム値

▸ **最終値**、**最小**、**1**〜**99**または**最大**（絶対値表示）

▸ **最終値**、**−∞dB**、**−81dB**〜**+18dB**（相対値表示）
本機の電源を入れたときの音量を、一定に設定しておくことができます。

本機をスタンバイ状態にする前の音量を、そのまま残したい場合は「**最終値**」を選びます。
「**電源オン時ボリューム値**」には、「**最大ボリューム値**」で設定した値より高く設定することはできません。

■ヘッドホン音量レベル

▸ −12 dB〜0dB〜+12 dB
スピーカーで聴くときとヘッドホンで聴くときの音量に差がある場合、ヘッドホンの音量を微調整しておくことができます。

OSD設定

■オンスクリーンディスプレイ

本機を操作したときに、操作内容を画面に表示するかどうかを設定します。

▸ **オン**：
表示されます。

▸ **オフ**：
表示されません。

「**オン**」に設定しても、再生機器をHDMI入力端子に接続しているときは、操作内容は表示されない場合があります。

■言語（Language）

日本語、**English**（英語）、**Deutsch**（ドイツ語）、**Français**（フランス語）、**Español**（スペイン語）、**Italiano**（イタリア語）、**Nederlands**（オランダ語）、**Svenska**（スウェーデン語）
操作内容の表示言語を選択して設定できます。

ハードウェアの設定

メインメニュー　7. ハードウェア設定

リモコンID

■リモコンID

▸ **1**、**2**、**3**のいずれか

オンキヨー製品が同じ部屋に複数ある場合、リモコンの操作コードが重複してしまうことがあります。
他のオンキヨー製品と区別をつけるために、リモコンIDを変更することができます。「**1**」、「**2**」、「**3**」から選べます。
お買い上げ時は、本体、リモコンともに「**1**」に設定されています。設定したら、次にリモコン側の設定をします。

ご注意
- リモコン、本体共に同じリモコンIDに設定する必要があります。

リモコン本体のIDを変更する

1 **AMPボタンを押しながら、リモートインジケーターが点灯するまでSETUPボタンを長押しする（約3秒間）**

2 **数字ボタンで、1、2、3のいずれかのIDを入力する**
リモートインジケーターが2回点滅します。

HDMI

■テレビオーディオ出力

▸**オフ**：
　出力しません。

▸**オン**：
　出力します。

HDMI端子から音声出力を「する/しない」の設定ができます。本機の**HDMI OUT**端子とテレビのHDMI入力端子を接続していて、テレビのスピーカーから音声を聴きたいときなどに設定します。通常は「**オフ**」にしておいてください。

ご注意

- 「**テレビオーディオ出力**」が「**オン**」で、テレビから音声が出ている場合は、スピーカーから音声が出ません。その時には、表示部に「TV　Sp　On」が表示されます。
- 「**テレビ連動**」の設定が「**オン**」の場合（➔ **52**）、自動的に「Auto」となり「**オン/オフ**」の設定は出来ません。
- お使いのテレビや入力信号によっては、設定が「**オン**」でもテレビから音声が出ないことがあります。
- 「**テレビオーディオ出力**」が「**オン**」に設定されているか、「**テレビ連動**」の設定が「**オン**」になっていて（➔ **52**）、ご利用のテレビのスピーカーを通してお聴きになっているときに（➔ **22**）、本機の**MASTER VOLUME**つまみを操作すると、本機の左右フロントスピーカーから音声が出力されます。音声を出力させたくないときは、本機またはテレビの設定を変えるか、本機の音量を下げてください。

■リップシンク

▸**無効**：
　自動では補正しません。

▸**有効**：
　自動的に補正します。

接続したモニターからの情報により、映像と音声のズレを本機で自動的に補正するかどうかを設定します。

ご注意

- リップシンク機能はHDMI Lip Sync対応のテレビに接続している場合にのみ動作します。
- リップシンク機能によって補正される遅延時間を、A/Vシンクメニューで確認することができます。

■HDMIコントロール（RIHD）

▸**オフ**：
　RIHDコントロールを使用しません。

▸**オン**：
　RIHDコントロールを使用します。

本機とHDMI接続したCEC対応機器や、RIHD対応機器と連動動作するかどうかを設定します。

ヒント

- 本体の**RIHD**ボタンでも操作できます。

ご注意

- 「**オン**」に設定してメニューを閉じると、本機の表示部に、接続したRIHD対応機器名称と、「RIHD On」を表示します。
  表示例："Search…" → "(機器名称)" → "RIHD On"
  接続した機器の名称が取得できないときは、「Player＊」または「Recorder＊」などを表示します。
  （＊は機器を複数台接続したときの台数を表します。）
- RIHD対応機器が本機とHDMI接続されたとき、本機の表示部に、接続機器の名称が表示されます。例えば、テレビ番組を見ているとき、本機のリモコンを使用してブルーレイディスク/DVD操作を行ったなら、本機の表示部にブルーレイディスク/DVDプレーヤーの名称が表示されます。
- 接続機器が対応していない場合や、対応しているかどうか分からない場合は「**オフ**」に設定してください。
- 「**オン**」に設定して、おかしな動作をする場合は「**オフ**」にしてください。
- 詳しくは接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

■オーディオリターンチャンネル

▸**オフ**：
　オーディオリターンチャンネル（ARC）機能を使いたくない場合は、「**オフ**」を選びます。

▸**自動**：
　テレビチューナーの音声信号を本機の**HDMI OUT**端子に送ることができます。

オーディオリターンチャンネル（ARC）は、HDMI1.4対応テレビからの音声信号を本機の**HDMI OUT**端子に送り出す機能です。この機能を使うには、**TV/CD**入力セレクターを選んでください。また、お使いのテレビがARC機能に対応している必要もあります。

ご注意

- 「**オーディオリターンチャンネル**」設定は、「**HDMIコントロール（RIHD）**」設定を「**オン**」に設定しているときしか設定できません。
- 「**HDMIコントロール（RIHD）**」設定を初めて「**オン**」に設定したときに、この設定は自動的に「**自動**」に設定されます。

■電源連動

▸**オフ**：
　電源連動を使用しません。

▸**オン**：
　電源連動を使用します。

HDMIで接続されたRIHD対応機器と、電源連動させたい場合に「**オン**」に設定してください。
「**HDMIコントロール（RIHD）**」を「**オン**」に設定したとき（初回設定時のみ）、この設定は自動的に「**オン**」に設定されます。

ご注意

- 「**電源連動**」の設定は、「**HDMIコントロール（RIHD）**」の設定が「**オン**」の場合に設定できます。
- 「**電源連動**」は、HDMI電源連動機能に対応した機器に接続している場合にのみ動作します。
- 「**オン**」に設定しているときは、スタンバイ状態での消費電力が増えます。
- 「**オン**」に設定しているときは、本機がスタンバイ状態においても、HDMI 入力端子から入力された映像信号は、HDMI 出力端子に接続された、テレビや他の機器に出力されます（HDMIスルー機能）。スタンバイモードでHDMIスルー機能が有効になると、**HDMI THRU**インジケーターが点灯します。
- HDMIスルー機能の使用中は、本機がスタンバイ状態でも電力消費が増大しますが、以下の場合は電力消費を低減できます。
  1. テレビがスタンバイ状態になっている。
  2. テレビ番組を視聴している。
- 電源連動の機能について、詳しくは接続した機器の取扱説明書もご覧ください。

■テレビ連動

- **オフ**：
  テレビ連動を使用しません。
- **オン**：
  テレビ連動を使用します。

HDMIに接続したRIHD対応のテレビから本機を制御したい場合は、「**オン**」に設定します。

ご注意

- 「**テレビ連動**」の設定が「**オン**」のときは、**HDMI IN**端子に接続された機器を**TV/CD** 入力に割り当てないでください。適切なRIHD連動操作の保証ができなくなります。
- テレビが対応していない場合や、対応しているかどうか分からないときは、「**オフ**」に設定してください。
- 「**テレビ連動**」の設定は、「**HDMIコントロール（RIHD）**」と「**電源連動**」の両方の設定が「**オン**」の場合に変更できます。
- テレビ連動機能について、詳しくは接続した機器の取扱説明書もご覧ください。

「**HDMIコントロール（RIHD）**」、「**オーディオリターンチャンネル**」、「**電源連動**」、「**テレビ連動**」の設定を変更したあとは、すべての接続機器の電源を一度オフにして、電源を入れ直してください（➔ **73**）。また、接続機器の取扱説明書も必ずお読みください。

ロック設定

お好みで、セットアップメニューのロックで設定を保護することができます。

メインメニュー　9. ロック設定

■セットアップ

- **ロック**：
  ロックをかけます。ロックをかけておくと、設定操作はできません。
- **解除**：
  設定操作にロックをかけません。

設定メニューをロックすると、すべての設定が変更できなくなります。

音声設定を使う

ホームメニューからさまざまな音声設定を変更できます。（➔ **26**）

ご注意

- ヘッドホンを接続している場合と、HDMI入力以外のときに「**テレビオーディオ出力**」設定を「**オン**」にして（➔ **51**）、テレビから音声が出ている場合は、設定できません。

トーンコントロール設定

「Direct（ダイレクト）」、「Pure Audio（ピュア オーディオ）」、「THX」以外のリスニングモード時に、左右フロントスピーカーのみ音質を調整することができます。

■低域（Bass）

- −10 dB～0 dB～+10 dB
  フロントスピーカーの低音の音質を、2dBずつ調整できます。

■高域（Treble）

- −10 dB～0 dB～+10 dB
  フロントスピーカーの高音の音質を、2dBずつ調整できます。

ご注意

- 本体の**TONE**（トーン）ボタン、**TONE LEVEL +/−**ボタンでも操作することができます。

スピーカーの音量

音声を聴きながら、スピーカーレベルを調整することができます。調整した内容は、本機をスタンバイ状態にすると、設定前の内容に戻ります。
設定を記憶するには、「スピーカー音量レベル」（➔ **41**）の設定画面を表示させてから、本機をスタンバイ状態にしてください。

■サブウーファー

- 1dB単位で、−15 dB～0 dB～+12 dB

■センター

- 1dB単位で、−12 dB～0 dB～+12 dB

ご注意

- ミューティング機能が働いているときは調整できません。
- 「スピーカー詳細設定」で「**無し**」に設定したスピーカー（➔ **40**）は調整できません。
- この機能は、アナログ音声再生時に「Pure Audio」、「Direct」のリスニングモードを使用しているときは、働きません。

Audysseyの設定

■Dynamic EQ

■Dynamic Volume

「入力ソースの設定」の「**Dynamic EQ**」と「**Dynamic Volume**」をご覧ください（➔ **45**）。

レイトナイト機能を使う

ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビーTrueHD再生時のみに効果があります。
劇場用に作られた映画音声は、大きな音と小さな音の差が大きいため、環境音や人の会話などの小さな音を聴くには、音量を上げる必要があります。レイトナイト機能は音量幅を小さくすることができるため、全体の音量を上げずに小さな音も聴こえます。夜中などに、音量を絞って映画を鑑賞するときに便利です。
この機能は、音声信号が入力されているときに設定されます。また、本機をスタンバイ状態にすると解除されます。

■レイトナイト

ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラスを再生するときは、以下の項目から選びます。

- **オフ**：
  レイトナイト機能をオフにします。
- **弱**：
  音量幅を小さくします。
- **高**：
  音量幅をさらに小さくします。

ドルビー TrueHD を再生するときは、以下の項目から選びます。

- **自動**：
  レイトナイト機能は、自動で「**オン**」か「**オフ**」に設定されます。
- **オフ**：
  レイトナイト機能をオフにします。
- **オン**：
  音量幅を小さくします。

ご注意

- コンテンツ製作者の意図により、レイトナイトのモードを変えても効果に変化のないものもあります。
- レイトナイト機能は、ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビー TrueHDソフトにのみ効果があります。
- レイトナイト機能は、本機をスタンバイ状態にすると「**オフ**」に設定されます。ドルビー TrueHDソースの場合は、「**自動**」に設定されます。

ヒント

- 本体の**SETUP**ボタン、▲/▼/◄/►ボタン、**ENTER**ボタンでも操作することができます。

ミュージックオプティマイザー

この機能は、圧縮された音楽信号をより良い音質にします。MP3などの非可逆圧縮ファイルの再生時に効果があります。入力ソースごとに設定を記憶します。

■Music Optimizer

- **オフ**：
  ミュージックオプティマイザー機能をオフにします。
- **オン**：
  ミュージックオプティマイザー機能をオンにします。

ご注意

- この機能は、サンプリング周波数が48 kHz以下のPCM信号とアナログ信号に働きます。また、リスニングモードが「Pure Audio」と「Direct」のときは、効果がありません。
- **M.Opt**表示が点灯します（➔ **10**）。

Re-EQ機能

高音域が強調されたサウンドトラックを、ホームシアター用に補正します。フロントスピーカーからの高音域が強すぎる場合に設定します。

■Re-EQ

- **オフ**：
  Re-EQ機能をオフにします。
- **オン**：
  高音域の補正をします。

この機能が使用できるリスニングモードは、ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビー TrueHD、マルチチャンネル、DTS、DTS-HD ハイレゾリューションオーディオ、DTS-HD マスターオーディオ、DTS Express、DSD、ドルビー EX、ドルビー Pro Logic IIz Height、ドルビー PLIIx Movie、Neo:6 Cinema、5.1チャンネルソース + Neo:6です。

ヒント

- 本体の**SETUP**ボタン、▲/▼/◄/►ボタン、**ENTER**ボタンでも操作することができます。

■Re-EQ(THX)

- **オフ**：
  Re-EQ (THX)機能をオフにします。
- **オン**：
  高音域の補正をします。

この機能が使用できるリスニングモードは、THX Cinema、THX Surround EX、THX Select2 Cinemaです。

ご注意

- Re-EQの機能は各リスニングモードに保存されます。ただし、THXリスニングモード選択時に、本機の電源を切ると、「**オン**」に戻ります。

オーディオセレクター

デジタルとアナログの両方の入力がある場合は、音声出力の優先順位を設定できます。

■音声入力

▶ ARC：

テレビチューナーの音声信号を、本機の**HDMI OUT**端子に送ることができます。*1
この設定で、テレビの音声をほかの設定よりも、優先的に自動選択できます。

▶ HDMI：

これは、**HDMI IN**端子を入力ソースに選んだときに選ぶことができます。HDMI（**HDMI IN**端子）とデジタル音声入力（**COAXIAL IN**端子または**OPTICAL IN**端子）の両方を割り当てた場合は、HDMIが優先的に自動選択されます。

▶ COAX（同軸入力）：

これは、**COAXIAL IN**端子を入力ソースに選んだときに選ぶことができます。同軸入力と光入力の両方を割り当てた場合は、同軸入力が優先的に自動選択されます。

▶ OPT（光入力）：

これは、**OPTICAL IN**端子を入力ソースに選んだときに選ぶことができます。同軸入力と光入力の両方を割り当てた場合は、光入力が優先的に自動選択されます。

▶ **アナログ**：

常に、アナログ音声が出力されます。

ご注意

- 設定は、入力セレクターごとに個別に保存されます。
- この設定は、入力ソースが**HDMI IN**端子、**COAXIAL IN**端子、または**OPTICAL IN**端子に設定されている場合しか設定できません。

*1 **TV/CD**入力セレクターを選んでいる場合に「ARC」を選ぶことができます。「**オーディオリターンチャンネル**」設定で「**オフ**」を選んでいる場合は、選ぶことができません（➔ **51**）。

デジタル固定モードを設定する

「**音声入力**」で「HDMI」または「COAX」、「OPT」を選んで**ENTER**ボタンを押すと、入力信号を固定するモードになります。固定モードで**ENTER**ボタンを押すと、「**音声入力**」に戻ります。
DTSやPCM信号の再生中に、ノイズや曲間の頭切れが気になる場合は、設定することをおすすめします。デジタル入力をDTSまたはPCMに固定することができます。

▶ **自動**：

デジタル信号が入力されていないときは、アナログ信号を再生します。

▶ PCM：

自動でCDなどのPCMの曲間で頭切れが気になる場合に選択してください。PCM以外の音声が入力されても音は出ません。

▶ DTS：

自動でDTS-CDを再生するとき、DTS信号を識別して読み取る間や、CDの早送り、早戻しをするときのノイズが気になる場合に選択してください。DTS以外の音声が入力されても音は出ません。

ご注意

- PCMソースのトラックの冒頭が切れる場合は、PCMに設定してみてください。
- DTS CDを早送りまたは巻き戻しすると、ノイズが発生する場合は、DTSに設定してみてください。
- 設定は、入力セレクターごとに個別に保存されます。
- 「**音声入力**」の設定を変更すると、設定が「**自動**」に戻ります。

低音と高音を調整する

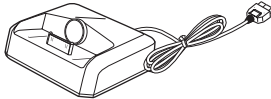
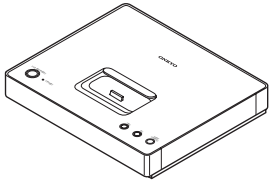
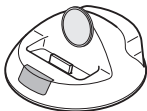
「Direct（ダイレクト）」、「Pure Audio（ピュア オーディオ）」、「THX」以外のリスニングモード時に左右フロントスピーカーのみ、音質を調整することができます。

1 **本体のTONEボタンを繰り返し押して、「Bass」または「Treble」を選ぶ**

2 **本体のTONE LEVEL +/−ボタンを使って、調整を行う**

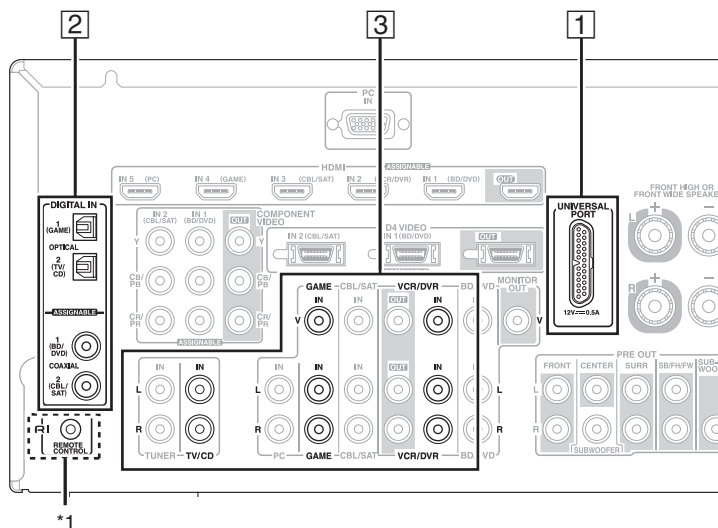
■Bass

■Treble

「トーンコントロール設定」の「**低域**」と「**高域**」をご覧ください（➔ **52**）。

ヒント

- この操作は、リモコンの**HOME**ボタンを使って行うこともできます（➔ **26**）。

iPodを操作する

オンキヨー製ドックを接続する

No.	オンキヨー製ドック	接続ケーブル	注意事項	ページ
1	UP-A1ドック（ユニバーサルポートオプションドック）	―	• 入力ソースに「**PORT**」を選ぶと、iPodを操作できます。 • 詳しくは、UP-A1ドックの取扱説明書をご覧ください。	（➔ **56**）
2	ND-S1（デジタルメディアトランスポート）	光デジタル音声ケーブル 同軸デジタル音声ケーブル RIケーブル*1	• 詳しくは、ND-S1の取扱説明書をご覧ください。 *1 ND-S1の音声出力は、デジタル出力です。入力表示を「DOCK」に切り換えできる入力端子に、デジタル音声入力が割り当てられない場合は、RIコードを接続しないでください。RIコードを接続すると誤動作する場合があります。	（➔ **56**）
3	RIドック	アナログオーディオ（RCA）コード コンポジットビデオコード RIケーブル*1	• 詳しくは、RIドックの取扱説明書をご覧ください。 *1 RI（リモートインタラクティブ）機能を使う場合は、本機とRIドックを、アナログ音声接続する必要があります。	（➔ **57**）

オンキヨー製ドックを使う

ドックは別売りです。
ドックの最新情報については、弊社ホームページをご覧ください。
http://www.jp.onkyo.com
ご使用になる前に、必ずご使用のiPodをiTunes経由で最新のバージョンにアップデートしてください。
対応しているiPodのモデルについては、オンキヨー製ドックの取扱説明書をご覧ください。

UP-A1ドック

UP-A1ドックを使うと、iPodに保存した音楽、写真、ビデオを本機で再生し、すばらしいサウンドを楽しむことができます。
本機のリモコンで、iPodの基本的な操作を行うことができます。

■基本動作

本機が動作するまでに数秒かかる場合があり、最初の曲の冒頭の数秒が聴こえないことがあります。

オートパワーオン機能
本機がスタンバイ状態のときにiPodを再生すると、本機はiPodを接続した入力に切り換わり、iPodの再生が始まります。
ダイレクトチェンジ動作
本機が他の入力のときリモコンでiPodを再生すると、iPodを接続した入力に自動的に切り換わり、iPodの再生をします。
本機リモコン操作
本機のリモコンで、iPodの基本的な操作を行うことができます（➔ 57）。

■操作に関する注意

- iPodとの連動動作は、iPodの機種や世代により対応していないものがあります。
- 他の入力を選択する前に、iPodの再生を停止して、本機が誤ってiPod入力ソースを選ばないようにしてください。
- iPodに他のアクセサリーが接続されていた場合、本機は適切に入力を選ぶことができないことがあります。
- iPodをUP-A1ドックにセットしている間は、音量調整は機能しません。ドックにセットされたiPodの音量調整を行ったときは、ヘッドホンを再び接続する前に、音量が高くないか確かめてください。
- 再生中のiPodをUP-A1ドックにセットした場合は、オートパワーオン機能は機能しません。

■iPodのアラーム機能を使う

iPodのアラーム機能で、iPodと本機を設定した時間に自動的に立ち上げることができます。本機の入力は、自動的に**PORT**（ポート）に設定されます。

ご注意
- この機能を使用するには、iPodドックに対応したiPodで、iPodドックは本機に接続されていなければなりません。
- この機能は、スタンダードモードでないと動作しません（➔ 58）。
- この機能を使用するときは、必ず本機のボリュームを適当な音量に設定してください。
- iPod内蔵の効果音を鳴らす設定の場合には、連動しません。

■iPodのバッテリーを充電する

本機の **UNIVERSAL PORT**（ユニバーサル ポート）端子に iPod ドックを接続し、本機がオンまたはスタンバイ状態で、iPod ドックに iPod をセットすると、iPod のバッテリーを充電します。

ご注意
- 充電機能を使用すると、スタンバイ状態での消費電力が増加します。

■本機に表示されるメッセージについて

- **PORT Reading**（ポート リーディング）
  ドックとの接続をチェックしています。
- **PORT Not Support**（ポート ノット サポート）
  接続されたドックはサポートされていません。
- **PORT UP-A1**
  UP-A1ドックにiPodがセットされました。
  接続を確認したときは、本機表示部に約8秒間「UP-A1」と表示されます。

ご注意
- 本機の表示部に何も表示されない場合は、iPodの接続が正しくされているかご確認ください。

ND-S1

ND-S1を使うと、簡単な操作で、iPodに保存した音楽をすばらしいサウンドで楽しむことができます。
ND-S1では、iPodから出力される音声信号をそのまま処理することによって、高品質のデジタル音声出力を実現しています（光または同軸）。

ご注意
- ND-S1のiPod/PCボタンで「iPod」を選択してください。
- 本機の入力表示を「DOCK」に設定してください（➔ 27）。

RIドック

RIドックを使うと、簡単な操作で、iPodに保存した音楽をすばらしいサウンドで再生したり、iPodのスライドショーや画像をテレビ画面で楽しめます。また、画面表示（OSD）を見ながら、iPodのコンテンツをテレビ画面で確認・検索・選択でき、付属のリモコンで、ソファにゆったり座ったままiPodを操作することが可能です。本機のリモコンでも操作できます。

操作をはじめる前に

1. 本機のリモコンを初めて使う場合は、該当するリモコンコードを登録してからご使用ください（➔ **60**）。
2. RIドックは、RIケーブルで本機に接続してください（➔ **55**）。
3. RIドックのRI MODE切換スイッチを「HDD」または「HDD/DOCK」に切り換えてください。
4. 本機の入力表示を「**DOCK**」にしてください（➔ **27**）。

■ システム機能

システムオン

本機の電源を入れると、自動的にND-S1、RIドック、iPodの電源が入ります。また、ND-S1、RIドック、iPodの電源が入っている場合は、**ON/STANDBY**ボタンを押すと本機の電源が入ります。

オートパワーオン機能

本機がスタンバイ状態のときにiPodを再生すると、本機はiPodを接続した入力に切り換わり、iPodの再生が始まります。

ダイレクトチェンジ動作

本機が他の入力のとき、リモコンでiPodを再生すると、iPodを接続した入力に自動的に切り換わり、iPodの再生をします。

本機リモコン操作

本機のリモコンで、iPodの基本的な操作を行うことができます。

iPodアラーム機能

iPodのアラーム機能を利用して再生を開始すると、指定した時刻に本機の電源が入り、iPodが入力ソースに選ばれます。

ご注意

- 映像の再生中やアラーム音を再生する設定をしている場合は、連動操作は機能しません。
- iPodに他のアクセサリーが接続されていた場合、本機は適切に入力を選べないことがあります。
- この機能は、スタンダードモードでないと動作しません（➔ **58**）。

iPodを操作する

iPodドックのリモコンコードを登録した**REMOTE MODE**ボタンを押すことで、iPodドックにセットされたiPodを操作することができます。
リモコンコードの入力方法については、「リモコンコードを登録する」をご覧ください（➔ **60**）。
詳しくは、ドックの取扱説明書をご覧ください。

■ 操作に関するご注意

- 本機のボリュームつまみで、再生音量を調整してください。
- iPodがND-S1またはRIドックにセットされている間は、音量操作は効果がありません。ドックにセットされたiPodの音量調整を行ったときは、ヘッドホンを再び接続する前に、音量が高くないか確かめてください。

ご注意

- 第5世代のiPodとiPod nanoでは、再生中はクリックホイールが使えません。ND-S1の場合、iPodで再生を開始・停止し、リモコンでiPodのほかの機能を操作してください。

■ UP-A1ドック

PORTボタンは、**UNIVERSAL PORT**端子に接続されたiPodドックを操作するため、あらかじめリモコンコードが登録されています。
入力ソースに「**PORT**」を選ぶと、iPodを操作できます。

RI連動を使う場合

この場合は、RI接続を行い、リモコンコード**81993**（RI専用）を入力します。

- 本機の入力表示を「**DOCK**」に設定してください（➔ **27**）。

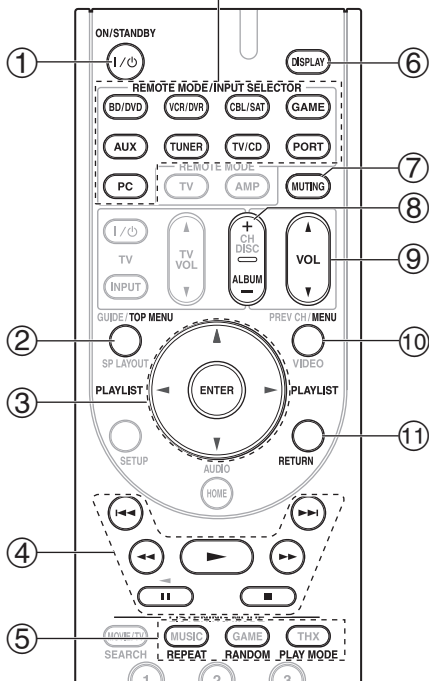
RI連動を使わない場合

まず、リモコンコード**82990**を入力してください（➔ **60**）。

■ ND-S1

- ND-S1のiPod/PCボタンで「iPod」を選択してください。

■ RIドック

- RIドックのRI MODEスイッチを「HDD」または「HDD/DOCK」に設定してください。
- **ON/STANDBY**ボタンは、（RI連動なし）リモコンコードでは機能しない場合があります。この場合は、RI接続を行い、（RI専用）リモコンコード**81993**を入力します。

✔：使用できるボタン

	ボタン名＼オンキヨー製ドック	UP-A1ドック	ND-S1	RIドック
①	**ON/STANDBY** I/⏻		✔	✔
②	**TOP MENU**			✔*6
③	**▲/▼/◄/► ENTER**	✔	✔	✔
	PLAYLIST ◄/►	✔*3	✔*1	✔*1
④	**►, ❚❚, ■, ◄◄, ►►, ❙◄◄, ►►❙**	✔	✔	✔
⑤	**REPEAT**	✔	✔	✔
	RANDOM	✔	✔	✔
	PLAY MODE	✔*4		✔*4
⑥	**DISPLAY***7	✔*2	✔	✔
⑦	**MUTING**	✔	✔*5	✔
⑧	**ALBUM +/–***1	✔	✔	✔
⑨	**VOL ▲/▼**	✔	✔*5	✔
⑩	**MENU**		✔	✔
⑪	**RETURN**	✔		

- iPodの機種・世代またはRIドックによっては、特定のボタンが意図したとおりに機能しない場合もあります。
- iPodおよびRIドックの操作の詳細については、取扱説明書をご覧ください。

*1 iPodの機種・世代によっては、機能しない場合もあります。

*2 **DISPLAY**ボタンを押して、以下のモードを変更してください。

スタンダードモード
テレビ画面には何も表示されませんが、iPodのディスプレイを見ながら内容を選択および操作できます。ビデオ再生はこのモードでのみ可能です。

エクステンドモード（音楽）
プレイリスト（アーティスト、アルバム名、曲名など）がテレビ画面に表示され、画面を見ながら曲の検索と選択ができます。

エクステンドモード（映像）
プレイリスト（映画、ミュージックビデオ、テレビ番組、ビデオポッドキャスト、レンタル）がテレビ画面に表示され、画面を見ながら映像の検索と選択ができます。

*3 エクステンドモードでは（*2をご覧ください）、**PLAYLIST**ボタンをページ移動ボタンとして使います。
ページモードでは、曲名リスト、アーティストリストなどの項目が非常に多い場合でも、目的の曲をすばやく見つけることができます。

*4 **レジュームモード**
レジューム機能を利用すると、RIドックからiPodを取り外したときや、エクステンドモードを選択したときに再生していた曲から再生を開始できます。

*5 iPodから出力される音量は変わりませんが、本機側でミューティングや音量調整ができます。

*6 DS-A1 RIドックの場合、**TOP MENU**ボタンはModeボタンとして機能します。

*7 **DISPLAY**ボタンを押すと、バックライトが30秒間点灯します。

ご注意

エクステンドモードでは（*2をご覧ください）、以下のようになります。
- 本機の電源がオフになってもiPodの再生は停止しません。
- iPodを直接操作できません。
- iPod内のコンテンツを取得するのに時間がかかることがあります。
- 2バイト文字と半角カナは表示されません。表示できない文字はアスタリスク（*）に置き換わります。

本機のリモコンで他の製品を操作する

本機のリモコン（RC-767M）を使って、他社製の機器も含め、お手持ちのAV機器を操作できます。ここでは、DVDプレーヤー、テレビ、CDプレーヤーなど、操作したい機器のリモコンコード（初期設定値は下線表示）の入力方法について説明します。

すでに登録されているコードについて

REMOTE MODEボタンには、あらかじめ下記機器のコードが登録されていますので、これらの機器が操作できます。該当する機器の操作についてはリモコンコードを登録する必要はありません。
これらの機器の操作方法については、該当ページをご覧ください。

BD/DVDボタン：オンキヨー製DVDプレーヤー（➔ 61）
TV/CDボタン：オンキヨー製CDプレーヤー（➔ 61）
PORTボタン：オンキヨー製ユニバーサルポートオプション（➔ 57）

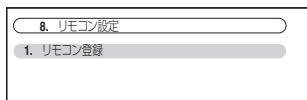
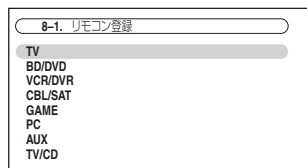
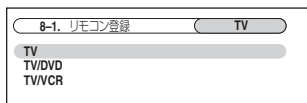
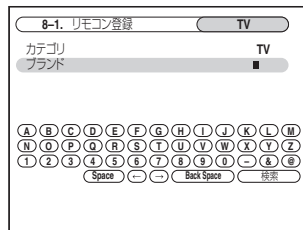
リモコンコードを検索する

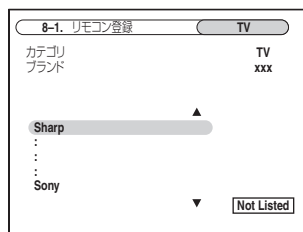
OSDセットアップメニューから、最適なリモコンコードを検索することができます。

ご注意
- この機能は、OSDセットアップメニューのみ使用して行うことができます。

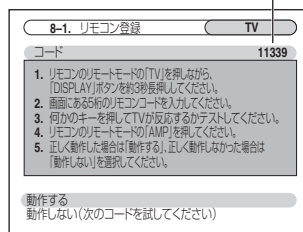
メインメニュー　8. リモコン設定

1 AMPボタンを押して、SETUPボタンを押す
メインメニューが表示されます。

2 ▲/▼ボタンで「リモコン設定」を選び、ENTERボタンを押す
「**リモコン設定**」メニューが表示されます。

3 ENTERボタンを押す

4 ▲/▼ボタンでリモートモードを選び、ENTERボタンを押す
カテゴリーの選択画面が表示されます。

5 ▲/▼ボタンでカテゴリーを選び、ENTERボタンを押す
ブランド名の入力画面が表示されます。

6 ▲/▼/◄/►ボタンで文字を選び、ENTERボタンを押す
ブランド名の入力を、1文字目から3文字目まで繰り返してください。

3文字目を入力したあと「Search」を選び、**ENTER**ボタンを押します。
検索後、ブランド名のリストが表示されます。

ブランド名が表示されなかった場合は►ボタンを押して「Not Listed」を選び、ENTERボタンを押す
ブランド名入力画面が表示されます。

7 ▲/▼ボタンでブランド名を選び、ENTERボタンを押す
検索が終わると、リモコンモードと登録手順が表示されます。試してみてください。

リモコンコード

8 機器を操作できる場合は、▲/▼ボタンで「動作する」を選び、ENTERボタンを押す
「**リモコン登録**」メニューが表示されます。

機器を操作できない場合は、▲/▼ボタンで「動作しない（次のコードを試してください）」を選び、ENTERボタンを押す
次のコードが表示されます。

リモコンコードを登録する

操作したい機器ごとにコードを入力する必要があります。

1 リモコンコード表で、該当するリモコンコードを探す（➔ 62）

コードはカテゴリー別に分類されています（DVDプレーヤー、テレビなど）。

2 コードを登録したいREMOTE MODEボタンを押しながら、DISPLAYボタンを3秒以上押す

リモートインジケーターが点灯します。

ご注意

- **AMP**ボタンには、リモコンコードを入力できません。
- **TV**ボタンには、テレビのリモコンコードしか入力できません。
- **AMP**ボタン、**TV**ボタンを除き、**REMOTE MODE**ボタンはどのカテゴリーのリモコンモードでも登録できます。ただし、**REMOTE MODE**ボタンは、入力切換ボタンも兼ねています（➔ **25**）。
  REMOTE MODEボタンにコードを登録するときは、操作したい機器を接続している端子と同じモードにコードを登録してください。たとえば、CDプレーヤーをCD入力端子に接続しているときは、**TV/CD**ボタンにそのCDプレーヤーのコードを登録してください。

3 30秒以内に、数字ボタンで、5桁のリモコンコードを入力する

リモートインジケーターが 2 回点滅し、登録が完了します。
正しく登録できなかったときは、リモートインジケーターがゆっくりと1回点滅します。

ご注意

- リモコンコード表は制作時点のものであり、変更される可能性もあります。

オンキヨー製品のRI専用リモコンコードを登録する

RI接続しているオンキヨー製機器を操作する場合は、リモコンをその機器ではなく、本機に向けて操作します。したがって、ラックなどに設置している見えない機器でも操作できます。

1 本機とオンキヨー製機器がRIケーブルとオーディオ用ピンコードでアナログ（RCA）接続されていることを確認する

詳しくは「オンキヨー製品と連動させる接続」をご覧ください（➔ **21**）。

2 各REMOTE MODEボタンにRI専用リモコンコードを登録する

- **BD/DVD**ボタン
  - 31612：
    オンキヨー製DVDプレーヤーのRI専用リモコンコード
- **TV/CD**ボタン
  - 71327：
    オンキヨー製CDプレーヤーのRI専用リモコンコード
  - 42157：
    オンキヨー製カセットテープデッキのRI専用リモコンコード
- **PORT**ボタン
  - 81993：
    オンキヨー製ドックのRI専用リモコンコード
- **TUNER**ボタン
  - 51805：
    オンキヨー製チューナー

リモコンコードの入力方法については、直前のセクションをご覧ください。

ご注意

- RI接続しているカセットテープデッキを使っている場合は、**TV/CD**ボタンを押し続けて**TAPE**に入力表示を切り換えてください（➔ **27**）。

3 REMOTE MODEボタンを押し、リモコンを本機に向けて機器を操作する

オンキヨー製機器に直接リモコンを向けて操作したい場合や、RI接続していないオンキヨー製機器を操作したい場合は、以下のリモコンコードを使ってください。

- **BD/DVD**ボタン
  - 30627：
    RI連動なしのオンキヨー製DVDプレーヤー
- **TV/CD**ボタン
  - 71817：
    RI連動なしのオンキヨー製CDプレーヤー
  - 11807：
    オンキヨー製テレビ

オンキヨー製機器に直接リモコンを向けて操作したい場合は、以下のリモコンコードを使います。

- 70868：
  オンキヨー製MDレコーダー
- 71323：
  オンキヨー製CDレコーダー
- 82990：
  オンキヨー製ドック

ご注意

- カセットテープデッキを**TV/CD IN**端子に接続したり、RIドックを**TV/CD IN**、**VCR/DVR IN**、**GAME IN**のいずれかの端子に接続したりする場合は、接続機器に応じた入力表示を設定しないと、RIが正常に機能しません（➔ **27**）。

REMOTE MODEボタンをリセットする

特定の**REMOTE MODE**ボタンを初期設定（お買い上げ時の状態）のリモコンコードにリセットできます。

1 **リセットしたいREMOTE MODEボタンを押しながら、リモートインジケーターが点灯するまで、HOMEボタンを3秒以上押す**

2 **30秒以内にREMOTE MODEボタンをもう一度押す**
リモートインジケーターが2回点滅すると、ボタンのリセットは完了です。
各**REMOTE MODE**ボタンには、あらかじめリモコンコードが設定されています。ボタンをリセットすると、あらかじめ設定されていたコードが再度設定されます。

リモコンをリセットする

リモコンをリセットして、初期設定（お買い上げ時の状態）に戻すことができます。

1 **AMPボタンを押しながら、リモートインジケーターが点灯するまで、HOMEボタンを3秒以上押す**

2 **30秒以内にAMPボタンをもう一度押す**
リモートインジケーターが2回点滅すると、リモコンのリセットは完了です。

その他の機器を操作する

ご使用の機器のリモコンコードがあらかじめ登録された**REMOTE MODE**ボタンを押すと、以下のように操作できます。
他の機器のリモコンコードを入力する方法については「リモコンコードを登録する」をご覧ください（➔ **60**）。

テレビを操作する

TVボタンには、あらかじめRIHD*1対応テレビ（一部モデルに限る）を連動操作するリモコンコードが登録されています。RIHDでリモコンコマンドを受信できるテレビを、本機にHDMI接続してください。RIHDでテレビを正常に操作できない場合は、お手持ちのテレビのリモコンコードを**TV**ボタンに設定し、テレビを操作してください。

ブルーレイディスク/DVDプレーヤー、HD DVDプレーヤー、DVDレコーダーを操作する

BD/DVDボタンには、あらかじめRIHD*1対応機器（一部モデルに限る）を連動操作するリモコンコードが登録されています。RIHDでリモコンコマンドを受信できる機器を、本機にHDMI接続してください。

*1 本機が提供するRIHD機能は、HDMI規格で定められているCEC（Consumer Electronics Control）システム制御機能を使用して、CECに対応した機器と連動する機能です。
RIHD対応機器以外での動作は保証いたしません。

リモコンコード表

複数のコード番号があるときは、1つずつ登録し、機器に合った方を選んでください。

- 形式、年式によって使用できないものがあります。
- 機種によっては操作できないもの、または限られた機能しか操作できないものがあります。

■衛星放送チューナー/ケーブルテレビチューナー/地上デジタルチューナー

ブランド名	コード番号
DXアンテナ	01500
富士通ゼネラル	01497
日立	01284
ヒューマックス	00660, 01176, 01427, 01675, 01808, 01882, 01915, 02142, 02144, 02408, 02447, 02616
ビクター/JVC	00775, 01775
ケンウッド	00853
マスプロ	00173
NEC	01496
パナソニック	00247, 00701, 00847, 01304, 01404, 01488
フィリップス	00099, 00133, 00173, 00817, 00853, 00887, 01114, 01142, 01442, 01749
パイオニア	00853, 01308, 01500, 01877
サムスン	00853, 01060, 01175, 01206, 01276, 01377, 01442, 01458, 01666, 02015
Scientific Atlanta	01877
ソニー	00639, 00847, 00853, 01006, 01460, 01558, 02299
住友電工	01500
ティアック	01251
東芝	01284, 01509, 01749

■CDプレーヤー

ブランド名	コード番号
アイワ	70157
デノン	70003, 70626, 70766
日立	70032
インテグラ	70101, 71327, 71817
ビクター/JVC	70072
ケンウッド	70036, 70157, 70626
マランツ	70029, 70157, 70626
オンキヨー	70868, 71323, 71327, 71817
パナソニック	70029, 70303
フィリップス	70157, 70626
パイオニア	70032, 70101
サンスイ	70157
ソニー	70000, 70490
テクニクス	70029, 70303
ヤマハ	70032, 70036, 70490

■CDレコーダー

ブランド名	コード番号
デノン	70626, 70766
インテグラ	71322, 71323
ビクター/JVC	70072
ケンウッド	70626
マランツ	70626
オンキヨー	71322, 71323
フィリップス	70626
ソニー	70000

■MDレコーダー

ブランド名	コード番号
オンキヨー	70868, 71808
ソニー	70000, 70490
ヤマハ	70490

■カセットデッキ

ブランド名	コード番号
アイワ	40029
デノン	40076
ビクター/JVC	40244
ケンウッド	40070
マランツ	40029
オンキヨー	42157
フィリップス	40029
パイオニア	40027
サンスイ	40029
ソニー	40243
ヤマハ	40097

■オンキヨー製RIドック

ブランド名	コード番号
オンキヨー	81993, 82351, 82990

■レシーバー

ブランド名	コード番号
オンキヨー	52503

■テレビ

ブランド名	コード番号
BenQ	11756
DXアンテナ	11817
富士通ゼネラル	10809
フナイ	11817, 10171, 10668, 10714, 11037, 11394, 11666
日立	11691, 10037, 10150, 10178, 10499, 10508, 10578, 10634, 11037, 11576, 11585, 11643, 11667
ヒューマックス	11295

ブランド名	コード番号
インテグラ	11807
ビクター /JVC	11428, 10508, 10650, 10653, 11253, 11601, 12271
LG	10037, 10178, 10556, 10698, 10714, 10715, 11178, 11423, 11768, 11840, 12182, 12358
マランツ	10037, 10556
三菱	11171, 10037, 10150, 10178, 10512, 10556, 11037, 11250
ナショナル	10208, 10226, 10508
NEC	10178, 10499, 10508, 10653, 11775, 11797
オンキヨー	11807
オリオン	10037, 10556, 10714, 11037, 12001
パナソニック	11170, 10037, 10208, 10226, 10508, 10650, 11480, 11636, 12170
フィリップス	10037, 10178, 10556, 10605, 10690, 11454, 11506, 11744, 12372
パイオニア	11271, 10037, 10512, 10698, 11260, 11457, 11636, 12171
サムスン	10037, 10178, 10208, 10226, 10556, 10618, 10702, 10812, 11060, 11312, 11619, 12051
サンヨー	10208, 10508, 11037, 11142, 11585, 11667
シャープ	11165, 10650, 10653, 10818, 11659
ソニー	11167, 10037, 10650, 10810, 11505, 11651, 11825
ティアック	10037, 10171, 10178, 10512, 10668, 10698, 10714, 11037, 11363, 11709, 11755
テクニクス	10556, 10650
東芝	11169, 10195, 10508, 10618, 10650, 11037, 11508, 11524, 11656, 12203
ヤマハ	10650, 11576

■ ビデオデッキ

ブランド名	コード番号
アイワ	20032, 20037, 20348, 21137
キャノン	20035
富士通ゼネラル	20037
日立	20037, 20081
ヒューマックス	20739
ビクター /JVC	20067, 20081, 21279
ケンウッド	20067
LG	20037, 21137
マランツ	20035, 20081
三菱	20067, 20081, 20642
NEC	20035, 20037, 20067, 21137, 21287
オンキヨー	20222
オリオン	20348
パナソニック	20035, 20614, 20616, 21062, 21562
フィリップス	20035, 20081, 20739
パイオニア	20067, 20081
サムスン	20739
サンヨー	20067, 20348, 21137
シャープ	20037, 21137
ソニー	20032, 20033, 20035, 20636
ティアック	20037, 20642
テクニクス	20035, 20081
東芝	20067, 20081

■ DVDプレーヤー

ブランド名	コード番号
アイワ	30533
デノン	30490, 30634, 31634, 33010
フナイ	33002
日立	30573, 30713, 31664
ヒューマックス	30646
インテグラ	30627, 31612, 32900, 32901, 32910
ビクター /JVC	30503, 30539, 30623, 30867, 31164, 31597
ケンウッド	30490, 30534
LG	30869, 33003
マランツ	30539, 33013, 33015
三菱	30713, 31521
NEC	30869, 33003
オンキヨー	30503, 30627, 31612, 32900, 32901, 32910
オリオン	30713
パナソニック	30490, 31579, 31762, 33005, 33020
フィリップス	30503, 30539, 30646, 31340, 31354, 32056, 33002, 33007, 33016
パイオニア	30571, 30631, 31571, 33000, 33017
サムスン	30490, 30573, 30820, 31075, 31635, 32329, 32489, 33001
サンヨー	30670, 30713
シャープ	30630, 30713, 30869, 33002, 33009, 33019
ソニー	30533, 30864, 31033, 31070, 31431, 31633, 33004, 33008
ティアック	30571, 31394, 33002, 33003
テクニクス	30490
東芝	30503, 31639, 32277, 32901
ヤマハ	30490, 30539, 30646, 30817, 33011

■ ブルーレイディスクプレーヤー

ブランド名	コード番号
デノン	33010
LG	33003
マランツ	33013, 33015
パナソニック	33005, 33020
フィリップス	33007, 33016
パイオニア	33000, 33017
サムスン	33001

ブランド名	コード番号
シャープ	33009, 33019
ソニー	33004, 33008

■HD DVDプレーヤー

ブランド名	コード番号
LG	33003
東芝	32901

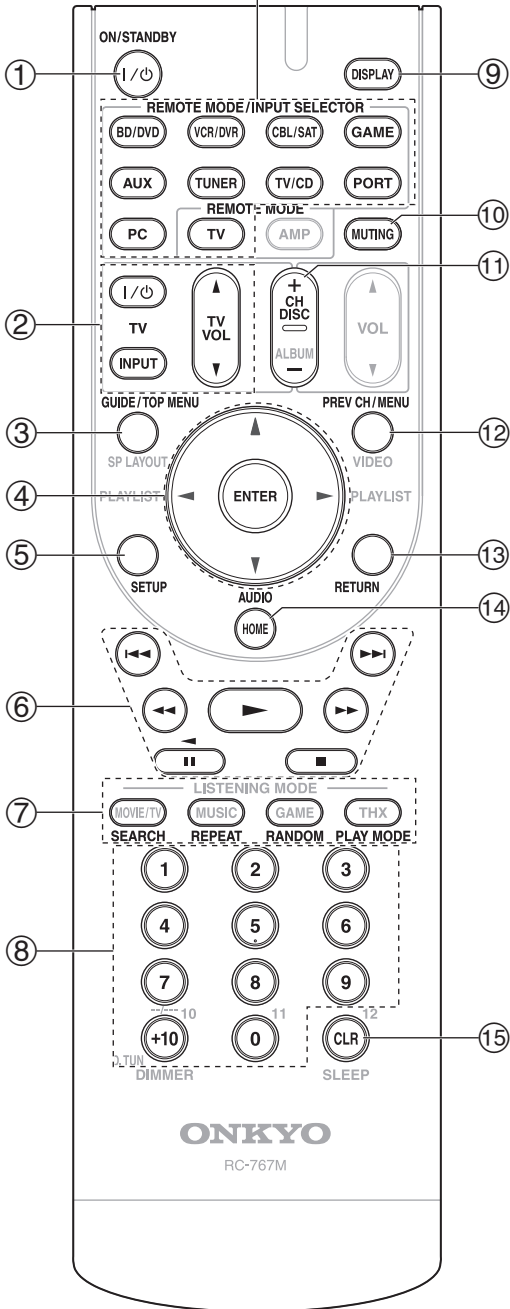
■DVDレコーダー

ブランド名	コード番号
デノン	30490
フナイ	33002
日立	31664
ヒューマックス	30646
ビクター /JVC	31164, 31597
LG	33003
パナソニック	30490, 31579, 33020
フィリップス	30646, 31340
パイオニア	30631
サムスン	30490, 31635
シャープ	30630, 33002, 33019
ソニー	31033, 31070, 31431, 33004, 33008
東芝	31639, 32277
ヤマハ	30646

■テレビ/DVD一体型、テレビ/VCR一体型

ブランド名	コード番号
アイワ	21137
日立	11037, 30713
ビクター /JVC	12271
LG	10178, 11423, 20037
三菱	10556, 20081
パナソニック	20035
フィリップス	10037, 10556, 11454, 20081, 30539
シャープ	10818, 20037
ソニー	11505, 20032
ティアック	10171, 10178, 10698, 20037, 20642
テクニクス	10556, 20081
東芝	11524

ご注意

- 製品によっては動作しないボタンがあります。また、製品を操作できない場合もあります。

✔：使用できるボタン

ボタン名 ＼ 機器		テレビ	DVDプレーヤー・DVDレコーダー	ブルーレイディスクプレーヤー HD DVDプレーヤー	ビデオデッキテレビとの複合機など	衛星放送チューナー ケーブルテレビチューナー	CDプレーヤー・CDレコーダー MDレコーダー	カセットテープデッキ	チューナー
①	ON/STANDBY I/⏻	✔	✔		✔	✔	✔	✔	✔
②	I/⏻, INPUT, TV VOL ▲/▼	✔							
③	GUIDE	✔			✔	✔			
	TOP MENU		✔						
④	▲/▼/◄/► ENTER	✔	✔		✔	✔	✔		
⑤	SETUP	✔	✔		✔	✔	✔		
⑥	►, ❚❚, ■, ◄◄, ►►, ❙◄◄, ►►❙	✔*1	✔		✔	✔	✔	✔*3	
⑦	SEARCH	✔*1*2	✔*1	✔*2		✔*2	✔		
	REPEAT	✔*1*2	✔	✔*2		✔*2	✔		
	RANDOM	✔*1*2	✔*1	✔*2		✔*2	✔		
	PLAY MODE	✔*1*2	✔*1	✔*2		✔*2	✔		
⑧	数字 1～9、0	✔	✔		✔	✔	✔		
	数字 +10	✔*1	✔*1		✔	✔	✔		
⑨	DISPLAY	✔	✔		✔	✔	✔		
⑩	MUTING	✔	✔		✔	✔	✔	✔	✔
⑪	CH +/–	✔	✔		✔	✔			✔
	DISC +/–		✔				✔		
⑫	PREV CH	✔			✔	✔			
	MENU		✔						
⑬	RETURN	✔	✔		✔	✔			
⑭	AUDIO	✔*1	✔*1			✔			
⑮	CLR	✔	✔		✔	✔	✔		

*1 RIHD機能には対応していません。本機が提供するRIHD機能は、HDMI規格で定められているCEC（Consumer Electronics Control）（コンシューマー エレクトロニクス コントロール）システム制御機能を使用して、CECに対応した機器と連動する機能です。

*2 青（A）、赤（B）、緑（C）、黄（D）ボタンとして機能します。

*3 ❚❚（一時停止）ボタンは◄（リバース再生）として働きます。

ご注意

- iPodの操作については「iPodを操作する」をご覧ください（➔ 57）。

困ったときは

まず下記の内容を点検してみてください（文章の最後にある数字は参照ページ数です）。接続した他機に原因がある場合もありますので、他機の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。
オンキヨーホームページからも、製品の取り扱い方法やFAQ（よくあるご質問）をお調べいただくことができます。
http://www.jp.onkyo.com/support/

ヒント

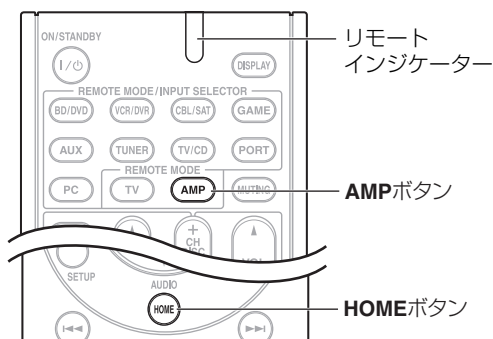
修理を依頼される前に

本機が動作しなくなったり、操作ができなくなったときは、本機のマイコンをリセットして、すべての設定をお買い上げ時の状態に戻すことで、トラブルが解消されることがあります。
修理を依頼される前に、下記の手順でマイコンをリセットしてみてください。

電源を入れた状態でVCR/DVR ボタンを押したまま、ON/STANDBYボタンを押す

表示部に「Clear」が表示されて、スタンバイ状態に戻ります。

初期設定に戻すと、ユーザー設定が消去されます。

リモコンを出荷時の初期設定に戻すには

AMPボタンを押しながら、リモートインジケーターが点灯するまで**HOME**ボタンを3秒以上押します。30秒以内に**AMP**ボタンをもう一度押してください。

操作画面は、本機とHDMI接続しているテレビのみに表示されます。本機とテレビをコンポーネントビデオ/D4ビデオ、ビデオ端子接続している場合は、本体表示部を見ながら操作してください。

電源

■電源が入らない

電源プラグがコンセントから抜けていないか確認してください。

一度電源プラグをコンセントから抜き、5秒以上待ってから、再度コンセントに差し込んでください。

■電源が切れ、再度電源を入れてもまた切れる

保護回路が動作してます。コンセントから直ちに電源コードを抜いてください。すべてのスピーカーコードと入力ソースを取り外し、本機の電源コードを抜いた状態で、1時間待ちます。そのあと、電源コードを差し込んで、音量を最大にしてください。本機の電源が切れなければ、音量を最小にして電源コードを抜いたあと、スピーカーと入力ソースを接続します。音量を最大にすると本機の電源が切れる場合は、電源コードを抜いて、お買い上げ店またはオンキヨー修理窓口にご連絡ください。

音声

■音声が出力されない/小さい

適切なデジタル入力ソースが選ばれていることを確認してください。	39
接続コードのプラグは奥まで差し込んでください。	18
接続した機器の入力端子/出力端子に間違いがないか確認してください。	19-21
スピーカーコードの⊕/⊖は正しく接続されているか、むき出しの芯線部分がスピーカー端子の金属部分と接触していないか確認してください。	14
入力が正しく選択できているか確認してください。	25
スピーカーコードがショートしていないことを確認してください。	14
ボリューム位置を確認してください。本機は基本的に−∞ dB、−81dB…＋18dBまで調整できます。一般のご家庭で−32dB前後までボリュームを上げていても、正常な範囲です。	
ヘッドフォンを**PHONES**端子に接続しているときは、スピーカーから音は出ません。	27
HDMI IN端子に接続したDVDプレーヤーから音が出ない場合は、DVDプレーヤーの出力設定を確認し、対応している音声フォーマットを選んでください。	
接続した機器でのデジタル音声出力の設定を確認してください。DVD対応のゲーム機など、機器によっては初期設定がOFFになっていることがあります。	
一部のDVD-Videoディスクでは、メニューから音声出力形式を選ぶ必要があります。	
MCカートリッジタイプのレコードプレーヤーをお使いの場合は、昇圧トランスまたはMCヘッドアンプとフォノイコライザが必要です。	

接続コードが、折れ曲がったり、ねじれたり、破損したりしていないことを確認してください。	
リスニングモードによっては、音声が出力されないスピーカーがあります。	32
自動スピーカー設定をもう一度行うか、スピーカーの「有/無」と「クロスオーバー周波数」、「距離」、「音量」設定を手動で行ってください。	41
スピーカー設定用マイクを接続したままになっていないことを確認してください。	
入力信号フォーマットがPCMまたはDTSに設定されている場合は、自動に設定してください。	54

■フロントスピーカーからしか音が出ない

StereoまたはMonoのリスニングモードを選んでいる場合は、フロントスピーカーとサブウーファーからしか音が出ません。	
スピーカーの設定が正しく行われていることを確認してください。	40

■センタースピーカーからしか音が出ない

テレビやAM放送などモノラル音源を再生するときに、リスニングモードをドルビーPro Logic IIまたはドルビー Pro Logic IIxにすると、センタースピーカーに音が集中します。	
スピーカーの設定が正しく行われていることを確認してください。	40

■サラウンドスピーカーから音が出ない

リスニングモードがStereo（ステレオ）やMono（モノ）、T-D（Theater-Dimensional）（シアター ディメンショナル）のときは、サラウンドスピーカーから音が出ません。	
入力信号やリスニングモードによっては、音が出にくい場合があります。ほかのリスニングモードを選んでみてください。	
スピーカーの設定が正しく行われていることを確認してください。	40

■センタースピーカーから音が出ない

リスニングモードがStereo、Monoのときは、センタースピーカーから音が出ません。	
スピーカーの設定が正しく行われていることを確認してください。	40

■フロントハイスピーカーやフロントワイドスピーカー、サラウンドバックスピーカーから音が出ない

入力信号やリスニングモードによっては、音が出にくい場合があります。ほかのリスニングモードを選んでみてください。	
スピーカーの設定が正しく行われていることを確認してください。	40

■サブウーファーから音が出ない

入力信号にサブウーファー音声要素（LFE）が入っていない場合、サブウーファーから音が出ないことがあります。	
スピーカーの設定が正しく行われていることを確認してください。	40

■希望する信号フォーマットで聴くことができない（Dolby（ドルビー） Digital（デジタル）、DTSやAACのフォーマットにならない）

Dolby Digital、DTSやAACの音声を聴くためには、デジタル接続が必要です。

デジタル入力端子の設定の確認を行ってください。初期設定と違う接続をした場合には、設定し直す必要があります。	39
接続した機器でのデジタル出力の設定を確認してください。DVD対応のゲーム機など、機器によっては初期設定でデジタル出力がOFFになっていることがあります。	

■希望するリスニングモードが選べない

スピーカーの接続状況によっては選択できないリスニングモードがあります。「リスニングモード」でご確認ください。	33

■音量調整が＋18dB以下で終わる

付属の測定用マイクで自動スピーカー設定をした場合や、「スピーカー音量レベル」、「最大ボリューム値」の設定を変更した場合は、最大音量値が変わる場合があります。	41、50

■ノイズが聴こえる

コード留めを使ってオーディオ用ピンコード、電源コード、スピーカーコードなどを束ねると音質が劣化するおそれがあります。コードを束ねないようにしてください。	
オーディオコードが雑音を拾っている可能性があります。コードの位置を変えてみてください。	

■レイトナイト機能が働かない

再生ソースがドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビー TrueHD（トゥルー）のいずれかになっているか確認してください。	53

■DTS信号について

DTS信号を再生しているときは、本機のDTS表示が点灯します。プレーヤー側での一時停止やスキップ操作時に発生するノイズを防ぐため、再生が終了してもDTS表示が点灯したままになります。このため、DTS信号から急にPCM信号に切り換わるタイプのソフトは、PCMがすぐに再生されない場合があります。このときはプレーヤー側で再生を約3秒以上中断し、再び再生を行うと正常に再生されます。	
一部のCDまたはLDプレーヤーでは、本機とデジタル接続をしても正しくDTS再生ができない場合があります。出力されているDTS信号に何らかの処理（出力レベル調整、サンプリング周波数変換、周波数特性変換など）が行われていると、本機が正しいDTS信号とみなすことができず、ノイズを発生することがあります。	

DTS対応ディスクを再生しているときにプレーヤー側で一時停止やスキップなどの操作をすると、ごく短時間ノイズが発生する場合がありますが、これは故障ではありません。	

■HDMIに入力した音声の冒頭部分が聴こえない

HDMI信号は、ほかの音声信号に比べて認識するのに時間がかかるため、音声がすぐに出力されない場合があります。	

映像

■映像が出ない/乱れる

すべての接続コードのプラグがしっかり差し込まれていることを確認してください。	18
各映像機器が正しく接続されていることを確認してください。	19、20、55
映像機器をコンポーネントビデオ入力端子に接続している場合は、入力切換にその入力を設定し、**COMPONENT VIDEO OUT**端子または**HDMI OUT**端子にテレビを接続してください。	20、38
映像機器をコンポジットビデオ入力端子に接続している場合は、**MONITOR OUT V**端子または**HDMI OUT**端子にテレビを接続してください。	20
映像機器をHDMI入力端子に接続している場合は、入力切換にその入力を設定し、**HDMI OUT**端子にテレビを接続してください。	19、38
リスニングモードがPure Audio(ピュア オーディオ)になっているとHDMI入力端子から入力された映像以外の映像は出ません。	
テレビなど、モニター側での入力画面の切り換えを確認してください。	
コンポジットビデオ入力端子から入力された映像が出ない場合は、選んでいる入力切換にD4ビデオ入力端子またはコンポーネントビデオ入力端子が設定されていないか確認してください。設定されていると、その入力切換ではコンポジットビデオ入力端子から入力された映像は出力されません。コンポジットビデオ入力端子接続のみお使いの場合は、D4ビデオ入力端子またはコンポーネントビデオ入力端子の設定を「- - - - -」にしてください。	39
HDMI入力端子から入力した映像が出ないとき、本機の表示部に「Resolution(レゾリューション) Error(エラー)」と表示されていませんか？この場合テレビが、プレーヤーから入力した映像の解像度に対応していません。プレーヤー側で設定を変更してください。	
コンポジットビデオ入力端子に接続した機器の映像を、**D4 VIDEO OUT**端子や**COMPONENT VIDEO OUT**端子に接続したテレビなどのモニターへ変換して出力することはできません。	
ビデオデッキなど映像機器の信号に乱れが多い場合は、**MONITOR OUT V**端子で接続してください。	11

■HDMI入力端子に接続した機器の映像が出ない

HDMI-DVIアダプターを使っている場合は、正常な動作は保証されません。また、PCから出力される映像信号についても保証されません。	75

■設定画面表示が出ない/操作内容が画面に表示されない

ご使用のテレビなど、モニター側の設定を確認してください。	
「6. その他」の「OSD設定」で「**オンスクリーンディスプレイ**」を「**オン**」にしてください。	50
操作画面は**HDMI OUT**端子に接続しているテレビまたはモニターのみに表示されます。	

リモコン

■リモコン操作ができない

リモコンで本機を操作する場合は、必ず**AMP**ボタンを押してください。	
電池の極性を間違えて挿入していないか確認してください。	8
新しい電池を入れてください。種類が異なる電池、新しい電池と古い電池を一緒に使用しないでください。	8
リモコンと本機が離れ過ぎていないこと、リモコンと本機のリモコン受光部の間に障害物がないことを確認してください。	8
本体の受光部が直射日光やインバータータイプの蛍光灯の光に当たらないようにしてください。必要に応じて位置を変えてください。	
本体を色付きのガラス扉が付いたラックやキャビネットに設置していると、扉が閉じているとリモコンが正常に機能しないことがあります。	
適切なリモートモードが選ばれていることを確認してください。	12、61
リモコンを使って他社製のAV機器を操作する場合は、一部のボタンが正しく動作しないことがあります。	
適切なリモコンコードが入力されていることを確認してください。	60
本体とリモコンに同じリモートIDを設定してください。	50

■RI専用リモコンコードを使ったオンキヨー製他機器の操作ができない

オンキヨー製他機器とRIケーブルが正しく接続されているか確認してください。RIケーブルを接続している場合、オーディオ用ピンコードも接続してください（RIケーブルだけでは正しく連動しません）。	21
適切なリモートモードが選ばれていることを確認してください。	12、61
入力表示が正しく設定されているか確認してください（例：**TV/CD**(テレビ)端子にカセットテープデッキを接続した場合や、**VCR/DVR**(ビデオ/DVDレコーダー) または**GAME**(ゲーム)端子にRIドックを接続した場合）。	27

もう一度、RI専用リモコンコードを入力し直してください。	59
RI専用リモコンコードを入力したときは、リモコンを本機のリモコン受光部に向けてください。	60

■オンキヨー製機器（RI連動なし）や他メーカー機器の操作ができない

他機器との接続が正しいか確認してください。	
もう一度リモコンコードを入力してください。複数のコードがある場合は、他のコードも試してください。	60
リモコンのモード切り換えが正しく選択されているか確認してください。	12、61～65
リモコンをそれぞれの機器の受光部に向けて操作してください。	
製品によっては動作しない場合もあります。	

録音・録画

■録音ができない

録音機器側で、録音入力切り換えが正しくできているか確認してください。
信号がループして本機が損傷することを回避するため、入力信号は同じ端子のIN端子からOUT端子に通りません。

■録画ができない

Pure Audioリスニングモードを選択している場合は、映像回路がオフになるため、録画できません。他のリスニングモードを選択してください。

その他

■ヘッドホンを接続すると音が変わる

Direct、Pure Audio、Mono以外のリスニングモードを選択している場合は、ヘッドホンを接続すると自動的にStereoになります。	27

■表示部に表示が出ない

リスニングモードがPure Audioになっていると表示が消えます。

■多重音声の言語を切り換えたい

「**多重音声**」の「**入力チャンネル**」設定で「**主/副**」を選択します。	43

■自動スピーカー設定中に「騒音が大きすぎます。」というメッセージが出る

お使いのスピーカーに異常があることも考えられます。スピーカーの出力などを点検してみてください。

■スピーカーの距離設定が希望通りにならない

設定する数値がホームシアターに適した数値に矯正されることがあります。

■本体表示部が暗い

Dimmer機能が働いていませんか？**DIMMER**ボタンを押して、表示部の明るさを変えてください。	25

■音量に関する設定が希望通りにならない

付属の測定用マイクで自動スピーカー設定をした場合や、「スピーカー音量レベル」、「最大ボリューム値」の設定を変更した場合は、最大音量値が変わる場合があります。

本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは、電源プラグを抜いて、約5秒後にあらためて電源プラグを差し込んでください。

製品の故障により正常に録音・録画できなかったことによって生じた損害（CDレンタル料等）については保証対象になりません。
大事な録音をするときは、あらかじめ正しく録音·録画できることを確認の上、録音·録画を行ってください。

本機の電源コードをコンセントから抜くときは、本機をスタンバイ状態にしてから抜いてください。

コンポジットビデオ入力に関する初期設定を変更する

画質が悪い
ゲーム機などを本機の映像入力端子に接続してテレビやプロジェクターに出力しているとき、映像が鮮明でない場合は以下の設定を変更することで画質が改善されることがあります。

Video Attenuation
規定を超える強いレベルのコンポジットビデオ信号を入力したとき、信号を減衰させて適切な感度を保つことができます。

- Video ATT：OFF（お買い上げ時の設定）
- Video ATT：ON（信号を減衰します）

（コンポジットビデオ出力について有効です。）

設定のしかた（本体ボタンで操作します）

1 **設定する入力切換ボタンを押しながら、SETUPボタンを押す**

設定できる入力切換ボタンはBD/DVD、VCR/DVR、CBL/SAT、GAME、AUXです。

2 **◄/►ボタンで設定したい項目を選び、設定する入力切換ボタンを押す**
設定が終了します。

→ Video ATT:OFF（お買い上げ時の設定）
Video ATT:ON ←

映像機器をお楽しみいただく際のご注意
本機では、コンポジットビデオ端子やD4ビデオ端子（またはコンポーネントビデオ端子）に接続した機器の映像を変換して、HDMI端子で接続したテレビなどのモニターに出力することができます。
ただし、ビデオデッキなどの映像機器の信号に乱れが多い場合は、テレビで映像が乱れたり、映像を表示しなくなったりする場合があります。
そのようなときは、「**解像度**」の設定を「480p」または「720p」に変更してみてください（➔ 38）。

それでも改善されないときは次の方法をお試しください。

1. **本機と映像機器をコンポジットビデオ端子で接続したときは、本機とテレビもVIDEO端子で接続する**
   本機と映像機器をD4ビデオ端子（またはコンポーネントビデオ端子）で接続したときは、本機とテレビもD4ビデオ（またはコンポーネントビデオ端子）で接続する。
2. 設定画面の「1. 入力/出力端子の割り当て」→「HDMI入力」を選び、映像機器を接続している入力の設定を「- - - - -」にする
3. 設定画面の「1. 入力/出力端子の割り当て」→「コンポーネント映像入力」を選び、以下の設定を行う：

   - 本機と映像機器を**D4 VIDEO IN 1**端子（または**COMPONENT VIDEO IN 1**）で接続している場合、映像機器を接続している入力の設定を「IN1」にする
   - 本機と映像機器を**D4 VIDEO IN 2**端子（または**COMPONENT VIDEO IN 2**）で接続している場合、映像機器を接続している入力の設定を「IN2」にする
   - 本機と映像機器をコンポジットビデオ端子で接続している場合、映像機器を接続している入力の設定を「- - - - -」にする

ヒント

- 本体の**VCR/DVR**ボタンと**RETURN**ボタンを同時に押し、**RETURN**ボタンをくり返し押して、表示部で「VProcessor」設定を「Skip」にしてください。設定をもとに戻すには、もう一度、同じボタンを同時に押してください。「Use」を選ぶと、ビデオプロセッサーから映像信号を出力します。

主な仕様

アンプ（音声）部

定格出力	全チャンネル 130W（6Ω、全高調波歪率0.08%以下、1ch駆動時、20Hz～20kHz、JEITA）
実用最大出力	全チャンネル 190W（6Ω、1kHz、1ch駆動時、JEITA）
ダイナミックパワー	240W（3Ω、フロント） 210W（4Ω、フロント） 120W（8Ω、フロント）
総合ひずみ率	0.08% （1kHz、1W）
ダンピングファクター	60（Front、1kHz、8Ω）
入力感度/インピーダンス	LINE：200mV/47kΩ
RCA定格出力電圧/インピーダンス	REC OUT：200mV/2.2kΩ
周波数特性	5Hz～100kHz：+1dB、−3dB（DSP bypass）
トーンコントロール最大変化量	Bass：±10dB（50Hz時） Treble：±10dB（20kHz時）
SN比	106dB（LINE、IHF-A）
スピーカー適応インピーダンス	4Ω～16Ω

映像部

入力感度・出力電圧/インピーダンス

1.0Vp-p/75Ω（コンポーネントY）
0.7Vp-p/75Ω（コンポーネント Pb/Cb、Pr/Cr）
1.0Vp-p/75Ω（コンポジット）

コンポーネント映像周波数特性

5Hz～100MHz/+0dB、−3dB

総合

電源・電圧	AC100V・50/60Hz
消費電力	470W
待機時電力	0.1W
最大外形寸法	435（幅）×176（高さ）×329（奥行）mm
質量	11.5kg

■HDMI

入力	IN 1、IN 2、IN 3、IN 4、IN 5、AUX
出力	OUT
映像解像度	1080p
音声形式	Dolby True HD、DTS Master Audio、DVD-Audio、DSD
対応	3D、オーディオリターンチャンネル、Deep Color、x.v.Color、LipSync、CEC

■映像入力

D4	IN 1、IN 2
コンポーネント	IN 1、IN 2
コンポジット	BD/DVD、VCR/DVR、CBL/SAT、GAME、AUX
アナログRGBインプット	PC IN

■映像出力

D4	OUT
コンポーネント	OUT
コンポジット	MONITOR OUT、VCR/DVR OUT

■音声入力

デジタル	OPTICAL：2 COAXIAL：2
アナログ	BD/DVD、VCR/DVR、CBL/SAT、GAME、PC、TV/CD、TUNER、AUX

■音声出力

アナログ	VCR/DVR
マルチチャンネルプリ	7
サブウーファープリ	2
スピーカー	左右フロント、センター、左右サラウンド、左右サラウンドバック、左右フロントハイ、左右フロントワイド
ヘッドフォン	1（6.3φ）

■その他

マイク	1
ユニバーサルポート	1
RI	1

※仕様および外観は予告なく変更することがあります。

HDMIについて

放送のデジタル化に対応することを目的としたHDMI（High-Definition Multimedia Interface）は、テレビ、プロジェクター、ブルーレイディスク/DVDプレーヤー、デジタルチューナーなどの映像機器の接続に対応した新しいデジタルインターフェイス規格です。これまで、映像機器を接続するには、さまざまな映像・音声コードが個別に必要でした。HDMIでは、1本のコードで、制御信号、デジタル映像、最大8チャンネルのデジタル音声（2チャンネルPCM、マルチチャンネルデジタル音声、マルチチャンネルPCM）を伝送できます。

HDMIのビデオストリーム（映像信号）は、DVI（Digital Visual Interface）*1規格と互換性があるため、HDMI-DVI変換アダプターを使って、DVI入力を備えたテレビやモニターを接続できます。（テレビやモニターによってはこの機能が働かず、映像が出ない場合もあります。）

本機はHDCP（High-bandwidth Digital Contents Protection）*2に対応しているため、HDCPに対応した映像機器のみ映像を表示できます。

> 本機のHDMIインターフェイスは以下の規格に基づいています。
> オーディオリターンチャンネル、3D、x.v.Color、Deep Color、Lip Sync、DTS-HD Master Audio、DTS-HD High Resolution Audio、Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus、DSD、マルチチャンネルPCM

対応音声フォーマット

- 2チャンネルリニアPCM（32～192kHz、16/20/24bit）
- マルチチャンネルリニアPCM（最大7.1チャンネル、32～192kHz、16/20/24bit）
- ビットストリーム（DSD、Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD、DTS、DTS-HD High Resolution Audio、DTS-HD Master Audio）

お使いのブルーレイディスク/DVDプレーヤーも上記の音声フォーマットのHDMI出力に対応している必要があります。

著作権の保護について

本機は、デジタル映像信号の著作権保護技術であるHDCP（High-bandwidth Digital Contents Protection）*2に対応しています。本機と接続する機器もHDCPに対応している必要があります。

*1 DVI（Digital Visual Interface）：DDWG*3が、1999年に策定したデジタルディスプレイ・インターフェース規格。
*2 HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection）：Intelが開発したHDMI/DVI用の映像向けの暗号化処理方式。映像コンテンツ保護を目的にしており、暗号化された信号を受信するには、HDCP準拠のHDMI/DVIレシーバーが必要です。
*3 DDWG（Digital Display Working Group）：Intel、Silicon Image、Compaq Computer、富士通、Hewlett-Packardなどが中心となって運営する、ディスプレイのデジタルインターフェースの標準化を推進する団体。

ご注意

- HDMIのビデオストリーム（映像信号）は、DVI（Digital Visual Interface）と互換性があるため、HDMI-DVI変換アダプターを使って、DVI入力を備えたテレビやモニターを接続できます。（DVI接続では映像信号しか伝送されないため、別途音声接続を行う必要があります。）しかし、このようなアダプターを利用した場合の正常な動作は保証されていません。また、PCから出力される映像信号についても保証されません。
- HDMIの音声信号（サンプリングレート、ビット長など）は、接続した機器によって制限を受ける場合があります。HDMI接続した機器の映像の品質がよくない場合や音声が出ない場合は、機器側の設定を確認してください。詳細については、接続機器の取扱説明書をご覧ください。

RIHDと互換性のあるテレビやプレーヤー /レコーダーをご使用になるには

RIHDはオンキヨー製品の連動機能の名称です。本機ではHDMI規格で定められているCEC（Consumer Electronics Control）を使用した連動を行うことができます。CECに対応したいろいろな機器と連動することができますが、RIHD対応機器と推奨製品以外での動作は保証いたしません。

RIHD連動機能を使用するには、オーディオリターンチャンネル（ARC）を使用するか（➔ 51）、光デジタルケーブルでの接続が必要です。

■ RIHDと互換性のある機器について

下記の製品がRIHDと互換性があります（2010年2月現在）。最新の情報は、オンキヨーホームページでご確認ください。

テレビ【順不同】

- パナソニック製のビエラリンク対応テレビ
- 東芝製のレグザリンク対応テレビ
- シャープ製のテレビ（対応している機種についての最新の情報は、オンキヨーホームページでご確認ください。）

プレーヤー、レコーダー【順不同】

- オンキヨー製、インテグラ製のRIHD対応プレーヤー
- パナソニック製のビエラリンク対応プレーヤー、レコーダー（パナソニック製のビエラリンク対応テレビと合わせてお使いの場合のみ）
- 東芝製のレグザリンク対応プレーヤー、レコーダー（東芝製のレグザリンク対応テレビと合わせてお使いの場合のみ）
- シャープ製のプレーヤー、レコーダー（シャープ製のテレビと合わせてお使いの場合のみ）

* 上記以外の機器でもHDMI規格のCECに対応していれば連動する可能性がありますが、動作は保証されません。

ご注意

- 連動機能が適切に働くように、HDMI端子には以下の台数より多くのRIHD対応機器を接続しないでください。
  - ブルーレイディスク/DVDプレーヤー：最大3台
  - ブルーレイディスク/DVDレコーダー：最大3台
  - ケーブルテレビチューナー、地上デジタルチューナー、衛星放送チューナー：最大4台
- 本機にHDMIを介して他のAVセンターを接続しないでください。
- RIHD対応機器が上記より多く接続されている場合には、連動機能は保証いたしません。

■ RIHD接続をするとできる操作

RIHDと互換性のあるテレビの場合

本機をRIHDと互換性のあるテレビに接続してお使いになると、下記のリンク操作ができます。

- テレビの電源をスタンバイ状態にすると本機もスタンバイ状態に切り換わります。
- テレビのメニュー画面で、音声を本機に接続したスピーカーから音を出すか、あるいはテレビのスピーカーから音を出すかを設定できます。
- テレビのアンテナや外部入力の映像・音声も本機に接続したスピーカーから音を出すことができます。（HDMIケーブル以外に光デジタルケーブル等の接続が必要です。）
- テレビのリモコンで本機の入力を選択できます（東芝製のテレビのみ）。
- テレビのリモコンで本機の音量調整やその他の操作ができます。

RIHDと互換性のあるプレーヤー /レコーダーの場合

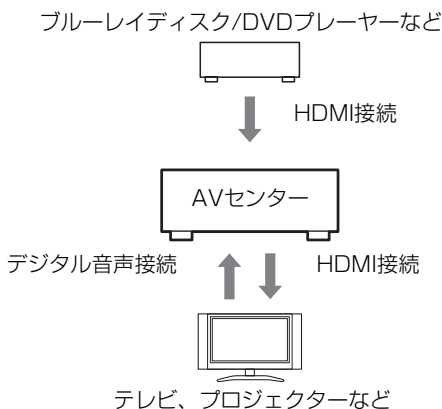
本機をRIHDと互換性のあるプレーヤー /レコーダーに接続してお使いになると、下記のリンク操作ができます。

- プレーヤー /レコーダーの再生を開始すると、本機の入力がその機器の接続されているHDMI入力に切り換わります。
- 本機に付属のリモコンでプレーヤー /レコーダーの操作ができます。

* お使いの機器によっては、すべての機能が働くわけではありません。

■接続と設定のしかた

1 **接続と設定を確認する**

1. 本機の**HDMI OUT**端子にテレビのHDMI入力を接続する。

2. テレビからの音声出力を、光デジタルケーブルで本機の**OPTICAL IN 2**端子に接続する。

ご注意

• HDMI 1.4規格に対応したテレビを使用して、オーディオリターンチャンネル（ARC）機能を利用するときは、この接続は必要ありません（➔ 51）。

3. ブルーレイディスク/DVDプレーヤー（レコーダー）のHDMI出力を本機の**HDMI IN 1**端子に接続する。

ご注意

• ブルーレイディスク/DVDプレーヤー（レコーダー）を他の端子に接続する場合はHDMI入力の割り当てをする必要があります（➔ 38）。このとき、**HDMI IN**端子に接続された機器を**TV/CD**入力に割り当てないでください。適切なRIHD連動操作の保証ができなくなります。

2 **「HDMI」メニューの各項目を下記の設定にする**

• HDMIコントロール（RIHD）：オン
• オーディオリターンチャンネル（ARC）：自動
• 電源連動：オン
• テレビ連動：オン

各設定の詳細説明は（➔ 51、52）をご覧ください。

ヒント

• 本体の**RIHD**ボタンを押して、RIHDをオンにすることもできます。最初にオンにしたときは自動的に他の設定も上記のようになります。

3 **設定の確認をする**

1. すべての接続機器の電源を入れます。
2. テレビの電源を切り、リンク動作によって接続機器の電源が自動で切れることを確認します。
3. ブルーレイディスク/DVDプレーヤー /レコーダーの電源を入れます。
4. ブルーレイディスク/DVDプレーヤー /レコーダーを再生して、以下のことを確認します。
   • 本機の電源が自動で入り、ブルーレイディスク/DVDプレーヤー /レコーダーを接続している入力が選択される。
   • テレビの電源が自動で入り、本機を接続している入力が選択される。
5. お使いのテレビの取扱説明書をご覧になりながら、テレビのメニュー画面から「テレビのスピーカーの使用」を選び、テレビのスピーカーから音が出て本機に接続したスピーカーから音が出ないことを確認します。
6. テレビのメニュー画面から、「本機に接続したスピーカーの使用」を選び、本機に接続したスピーカーから音が出てテレビのスピーカーから音が出ないことを確認します。

ご注意

• 初めてお使いになるときや、各機器の設定を変えたとき、各機器の主電源をオフにしたとき、コンセントから電源コードを抜いたり、停電したりしたときも上記の操作を行ってください。

4 **リモコンで操作する**

操作できるボタンについては「その他の機器を操作する」をご覧ください（➔ 61）。

ご注意

• DVDオーディオ、スーパーオーディオCDの音声はテレビのスピーカーから音声が出ないことがあります。DVDプレーヤーの音声出力設定を2ch PCMに設定すれば、テレビのスピーカーから音を出すことができるようになります。（プレーヤーによっては、できないことがあります。）
• テレビのスピーカーから音を出す操作をしても、本機の音量調整や入力の切り換え操作をすると、本機に接続したスピーカーから音が出るようになります。テレビから音を出したいときは、もう一度テレビの操作をやり直してください。
• RI やRI EX対応機器と接続してご使用の場合で動作がうまく行かないときは、RIケーブルを外して操作してみてください。
• テレビの入力を、本機が接続されたHDMI端子以外を選ぶと、本機の入力は「TV/CD」に切り換わります。
• 本機は、必要と判断したとき、連動して自動的にパワーオンします。RIHD対応テレビやプレーヤー・レコーダーと接続してお使いの場合でも、必要ないときは本機はパワーオンしません。テレビ側の設定で、音声をテレビから出力するように設定していると、連動してパワーオンしないことがあります。
• 組み合わせる機器により、本機との連動動作が働かない場合があります。この場合は、本機を直接操作してください。
• 本機のリモコンで、RIHDを利用してプレーヤー/レコーダーの操作ができないときは、その機器がRIHDやCECのリモコン操作に対応していないことが考えられます。リモコンにその機器のメーカーのリモコンコードを登録してご使用ください。

映像解像度表

入力信号の種類や解像度に対して、本機が出力する映像信号の種類や解像度を調べるときは、下記映像解像度表をご覧ください。

✔：出力

入力＼出力		HDMI					D4/コンポーネント					コンポジット
		1080p	1080i	720p	480p	480i	1080p	1080i	720p	480p	480i	480i
HDMI	1080p	✔										
	1080i	✔	✔	✔								
	720p	✔	✔	✔								
	480p	✔	✔	✔	✔							
	480i	✔	✔	✔	✔	✔						
D4/コンポーネント	1080p	✔					✔					
	1080i	✔	✔	✔				✔				
	720p	✔	✔	✔					✔			
	480p	✔	✔	✔	✔					✔		
	480i	✔	✔	✔	✔	✔					✔	
コンポジット	480i	✔	✔	✔	✔	✔						✔
PC（D-Sub）*1		✔	✔	✔	✔							

*1 対応解像度：

[640 × 480 60/67/73/75Hz] [800 × 600 56/60/72/75Hz] [1024 × 768 60/70/75Hz]
[1152 × 864 75Hz] [1152 × 870 75Hz] [1280 × 768 60Hz]
[1280 × 960 60Hz] [1280 × 1024 60Hz] [1360 × 768 60Hz]
[1400 × 1050 60Hz] [1680 × 1050 60Hz] [1920 × 1080 60Hz]

修理について

■保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

■調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、電源プラグを抜いて修理を依頼してください。

修理を依頼されるときは、下の事項をお買い上げの販売店、または付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」記載のお近くのオンキヨー修理窓口までお知らせください。

- ▶お名前
- ▶お電話番号
- ▶ご住所
- ▶製品名 TX-SA608
- ▶できるだけ詳しい故障状況

■オンキヨー修理窓口について

詳細は付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

■保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。詳細は保証書をご覧ください。

■保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■補修用性能部品の保有期間について

本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後8年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。

ご購入されたときにご記入ください。
修理を依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日：　　　年　　月　　日
ご購入店名：
Tel.　　　（　　）
メモ：

ONKYO®
オンキヨー株式会社
本社　大阪府寝屋川市日新町2-1　〒572-8540

製品のご使用方法についてのお問い合わせ先：コールセンター
☎050-3161-9555（受付時間　10：00〜18：00）
（土･日･祝日･弊社の定める休業日を除きます）
サービスとサポートのご案内：http://www.jp.onkyo.com/support/

Y1004-1A

SN 29400248-1

* 2 9 4 0 0 2 4 8 *